特20
610

教員用

小學地理卷三

各國地理
教員用

目次

第一課　發端……一
第二課　亞細亞洲總論一……三
第三課　亞細亞洲總論二……五
第四課　朝鮮帝國一……一四
第五課　朝鮮帝國二……一九
第六課　支那帝國一……二五
第七課　支那帝國二……三〇
第八課　支那帝國三……三八
第九課　印度支那……五〇

第十課　印度……五五
第十一度　亞細亞露西亞……六二
第十二課　イラン地方・亞細亞土耳其・アラビア……七一
第十三課　大洋洲總論……七七
第十四課　東印度群島……八四
第十五課　濠太利大陸……八八
第十六課　太平洋諸島……九四
第十七課　歐羅巴洲總論一……一〇〇
第十八課　歐羅巴洲總論二……一〇二
第十九課　バルカン半島諸國……一〇八
第二十課　露西亞帝國……一一四

第二十一課　瑞典諾威王國　丁抹王國……一一九
第二十二課　和蘭王國　白耳義王國……一二三
第二十三課　獨逸帝國……一二七
第二十四課　墺地利洪牙利帝國……一三二
第二十五課　伊太利王國　瑞西共和國……一三五
第二十六課　佛蘭西共和國……一四一
第二十七課　西班牙王國　葡萄牙王國……一四六
第二十八課　英吉利王國……一五一
第二十九課　亞弗利加洲總論……一五九
第三十課　ナイル・東部・南部地方……一六六
第三十一課　西部・サハラ・バルバリー地方……一七二
第三十二課　北亞米利加洲總論一……一七六

目次終

第三十三課　北亞米利加洲總論二……一七八
英領カナダ……一七八
第三十四課　合衆國……一八四
第三十五課　墨西哥共和國西印度中央亞米利加……一九三
第三十六課　南亞米利加洲總論北部諸國……一九七
第三十七課　東部南部西部諸國……二〇二
第三十八課　結論一……二一二
第三十九課　結論二……二二一
第四十課　結論三……二三一

小學地理卷三

萬國地理教員用

學海指針社編

第一課　發端一

注意　本課は、地球表面上の、大體の區分を教ふるを主とし、併せて世界の形勢、萬國の事情を知ることの、必要なる所以を知らしむべし。

萬國地理を教ふるには、始終本邦地理を基本として、之に省みて、更に明瞭ならしむるを要す。地理學上の原則として、大河あれば、大平原あり、海洋に面すれば、寒暑の差少なく、平野には、米麥產し、高原に、森林ある例なと、近く之を我國に徵するは、容易の事なり。又同じ日本の中にても、東京の人情と、京都の人情とは、多少變り、臺灣の風俗と、北海道の風俗とは大に變り、臺灣の政治と、內地の政治とは、稍〻異り、又、日本の古宗教と、外來

の宗教とは、同じからぬが如き、皆、地理學上より云へば、理由あることにて、之を推して、萬國にも、及ぼし得可し。

水陸並に大洲の大さなどは、種々なる方法によりて、大小を比較する時は、大に生徒の注意を引くものなり。

地球の表面は、水七割三分と、陸二割七分とより成り、水面は、五大洋太平洋・北氷洋・大西洋・印度洋・南氷洋、なり、に分たれ、陸面は、六大洲亞細亞・歐羅巴・亞弗利加・北亞米利加・南米亞利加・大洋洲、に分たるゝことは、我等の既に學びし所なり。

今、是等の水陸を周遊せば、土地の異なるに從ひ、山河の形勢、氣候の寒暖、生物動物植物の分布等に、著しき變化あるを見るべく、又、國によりて、人情風俗・政治・宗教等に、相違あることを知るべし。斯くして、廣く世界の形勢を視、萬國の事情を究むるは、啻に、大なる興味あるのみならず、又、實に、我等が日本國民

として、國益を興し、國威を輝かさんがためには、最も大切なる務なり。

第二課　亞細亞洲總論一

注意　本課は、亞細亞洲の位置・廣袤・面積・地勢を敎ふることを主とせり。

山脈は、パミール高原を、扇の要の樣になし、山脈の向を、扇の骨の樣に、綠を以て、示す時は、大に兒童をして了解し易からしめ得べし。又、河流は色變りの白墨にて、山脈の線を基として、示すこと可ならん。

本洲の河流の著るしき點は、一、外海に出でずして、內地の沼湖、若しくは砂礫中に注ぐもの多きこと、二、二水流が、一對に流下すること、三、大陸の中心より、四方に向うて河の流るるなど、此等は、地勢の上に著るしき現象なり。

我日本を發して、西に航せば、いと廣き大陸の東端に到著す

べし、此大陸と、日本群島とを總稱して、亞細亞洲と云ふ。

東は、茫々たる太平洋に臨み、西は、歐羅巴、及び、亞非利加大陸に隣りす。其地は、東西に長く（最長二千五百餘里）して、南北（最長二千三百餘里）に短く、面積（二百九十萬里）は、六大洲中、最も大にして、世界全陸地（八百八十萬方里）の三分の一を占む。

北海岸は、出入乏しけれど、東海岸には、カムチヤッカ、朝鮮の二半島あり、南には、印度支那、印度、アラビアの三大半島突出し、西には小亞細亞半島ありて、大小數多の海灣を抱けり。

本洲の山脈は、パミール高原を中心として、四方に走れり。其東南に向ふものは、ヒマラヤ山脈となりて、印度の北境に聳ゆ、脈中のガウリサンカル峰は、世界第一の高山にして、二萬九千尺の高さあり。崑崙山、及び天山は、東に延び、アルタイ山

脈は、東北に走り、相共に本洲中部の高原を成す。此高原の北部に、ゴビ沙漠あり、中央より西向するものは、イラン高原を起し、進みて小亞細亞の山脈となる。此他、歐羅巴との境上に、ウラル・コーカサスの二山脈あり。

本洲の河流は、多く中央の高原より發して、四方に流下す。北方には、オビ・エニセイ・レナの三大河ありて、西北利亞大平原を貫流し、東方には、北に、黑龍江、南にメーコン河あり。其中間に、黃河、楊子江の二大河ありて、肥沃なる支那平原を横ぎれり。南方のガンジス河、印度河、西方のユーフレーチーズ河、タイグリス河等も、本洲著名の大河なり。

第三課　亞細亞洲總論二

注意　本課は、亞細亞の氣候、物產、人種、宗教、國別を敎ふるを主とす。

氣候に就いて、北方嚴寒の理由、中央亞細亞の寒暖の差あること、南方の炎熱にして、降雨多きことなどは、反復丁寧にして、よく其理由を會得せしむべし、氣候と、生物繁殖との關係なども同樣なり。

宗教を教ふるに當りては、少くとも、創立者の名位は教へて置きたし、教旨の大體(一口か二口位にて、位は授けたし、釋迦が淨飯王の王子にして、生老病死を見て、發心し、王位を捨てゝ山に入り難行を積み、又、マホメットが、牧羊者の子にして、アラビアの宗教改革に志し、其業成り、大呼して、劍は、天堂地獄の鍵なりとて、强ひて教をひろめたること、又、印度の古宗教なる、婆羅門は、釋迦の佛教に先つこと千餘年前より、盛に行はれ、其主とする所、三體の神あり、一は萬物造成の神にして、ブラマといひ、即ち宇宙の大根元の義なり、二は回復の神、三は破邪の神なりと、此宗教を奉ずるものは、自ら其身體を困苦せしめ、食を斷ち、痛苦をしのぶなどのことを說きなば、曾に枯骨なる宗教の名を列擧するに比して、兒童の興味幾許なるを知らず、之が爲に、其記憶をも强からしむる裨益あるべし。

本洲は、境域廣きが故に、土地によりて、氣候と產物とに、著しき相違あり。北方は、四時嚴寒にして、動植物共に少けれども、南方は、常に、炎熱にして、降雨多く、各種の植物大に繁殖し、森林藪澤の間には、猛獸のさまよふ者、珍禽の飛びかふもの、甚だ多し。日本、朝鮮、支那等は、溫帶に位し、氣候溫和なれば、都邑、田園相連り、果穀、豐饒にして、有用の家畜も、亦多し。鑛物は、北部の金、銀、東部の石炭等、最も名あり。

參照　西比利亞の最北は、嚴寒にして、地下數百尺まで氷結して、永く解けず、稍、南に下りて、レペリャの本原に到れば、寒暑の差甚だしく、中央亞細亞も、亦同じ、而して、中央亞細亞の地は高原にあるを以て、氣候は、常に

亞細亞洲熱帶部の動植物

宗教　佛教は今より二千四百年前に釋迦といふ人印度に起り、婆羅門教より、新に立てたる宗教なり。婆羅門教は、印度最古の宗教にして、其信ずる神をブラマと稱す。ブラマとは宇宙の大根元の義にして、即ち萬物造成の神なりといふ。回々教は、今より千二百七十餘年前に、マホメットといふ人、亞剌比亞に起り、新に立てたる宗教なり。

本洲の獨立國は、日本、支那、朝鮮、暹羅（以上三國は、我條約國なり。）ペルシア等にして、其他は、概ね、歐洲諸國の屬領なり。

圖解　第一段に表はせるは、印度人の、象を役して、耕耘せしむる圖なり。象は、巨大なる動物にて、長き鼻を有す。其鼻は人の手の如くに働き、動作甚だ敏捷なり。足は五趾を具へ、皮は甚だ厚く、牙は長し。象皮象牙等、皆人の知る所なり。此獸、本洲には、後印度、幷に印度に產し、土人之を捕へ馴らして、勞役せしむ。

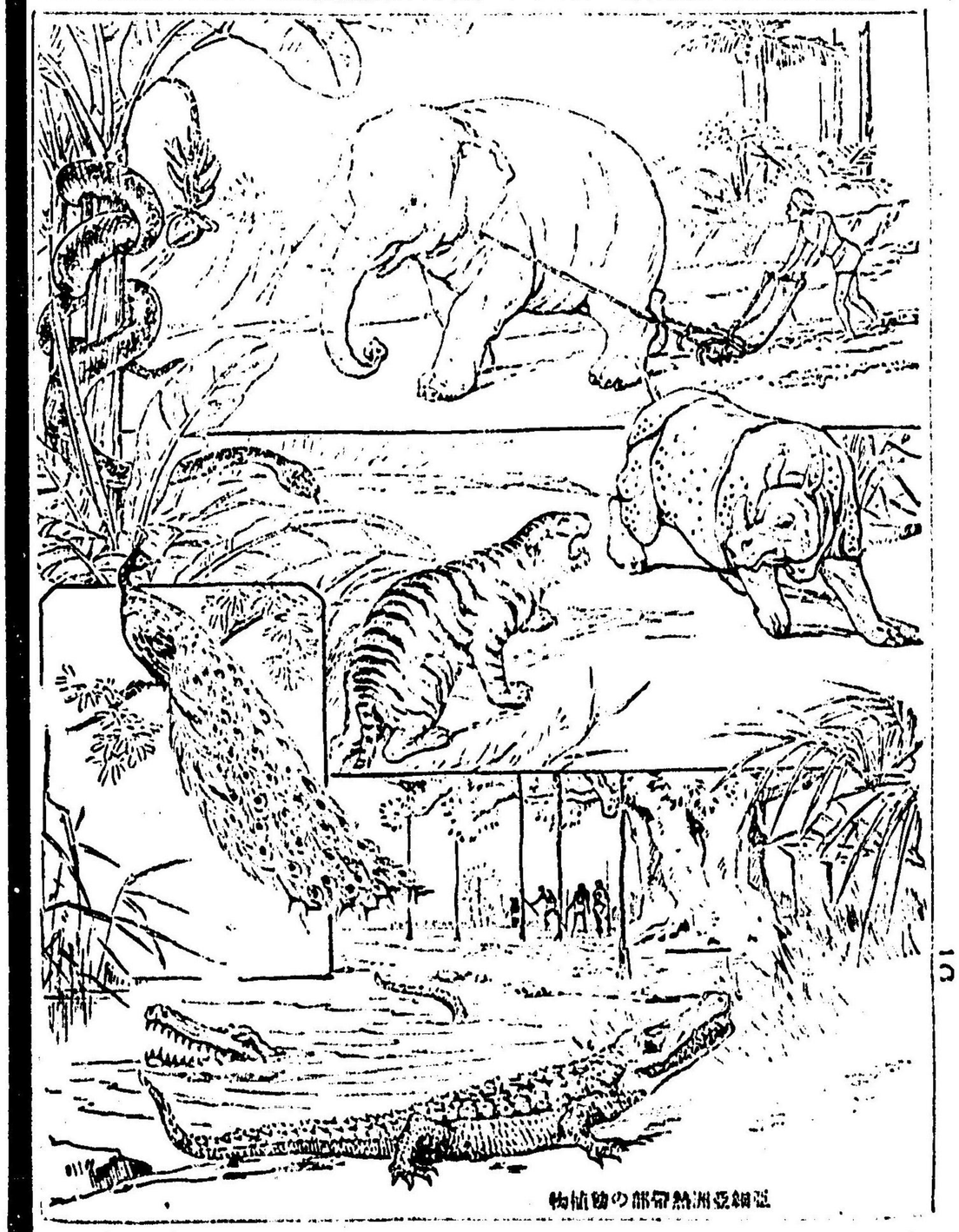
乾燥し海に遠きが故に、寒暖劇變あり、東部は、大平洋に面し、又西部も、黑海・裏海、及び紅海に面するを以て、氣候の差著るしからず、又海の濕潤なる風を受けて、乾燥ならず、又赤道を去る故に、炎熱ならずして、中和なり特に日本は、氣候最も好しとす、南部は、赤道に近き故に常に炎熱にして又、皆、海に面する故に、雨量多し、本洲には、氣候風穴に發達し、夏季は、大陽北回歸線上にあるを以て、大陸熱せらるゝ故に、溫度低き海洋より風吹き來り、冬は、大陽南回歸線上に到るを以て、大陸より海洋に向うて、風を吹き送る、然して此風の變りめに、颶風起るを常とす、二百十日の如き是なり。

本洲は、地球上、最も早く開けし處なるが故に、住民甚だ多く、其數八億に上り、世界人類の過半を占む。此住民の多數は亞細亞人種と云ひ、毛髮と瞳とは、共に黑く、皮膚は、黃色を帶ぶ、

因て、又、黃色人種ともいふ。是等は、概ね佛教を信仰す。印度以西には、之と異なる人種ありて、言語・容貌は、頗る歐洲人に類し、婆羅門教・回々教等を信奉せり。

參照　世界の人口は、十五億人にして、亞細亞の人口は、凡そ八億三千萬なりと云ふ、然れば、亞細亞は、世界人口の二分の一より、多くを占め居るなり。此人口の分布は、概して雨量の多寡に、正比例して疎密あり。降雨多き地方は、少き地方に比して多數なり。

本州の人種には蒙古人種の他に、尙ほ、高加索人種・馬來人種等あり、高加索人種は、印度・波斯・阿剌比亞に住する、主なる住民にして、現今の歐羅巴人に似たり、馬來人種は、皮膚褐色にして、外貌蒙古人に似たり、主にマラカ半島、並に、此附近の島嶼に住す、我臺灣の番地なる生番に、此人種に屬するものあり。



亞細亞洲熱帶部の動植物

宗教　佛教は今より二千四百年前に釋迦といふ人印度に起り、婆羅門教より、新に立てたる宗教なり。婆羅門教は、印度最古の宗教にして、其信ずる神をブラマと稱す。ブラマとは宇宙の大根元の義にして、即ち萬物造成の神なりといふ。回々教は、今より千二百七十餘年前に、マホメットといふ人、亞剌比亞に起り、新に立てたる宗教なり。

本洲の獨立國は、日本、支那、朝鮮、暹羅（以上三國は、我ペルシア條約國なり。）等にして、其他は、概ね、歐洲諸國の屬領なり。

圖解　第一段に表はせるは、印度人の、象を役して、耕耘せしむる圖なり。象は、巨大なる動物にて、長き鼻を有す。其鼻は人の手の如くに働き、動作甚だ敏捷なり。足は五趾を具へ、皮は甚だ厚く、牙は長し。象皮、象牙等、皆人の知る所なり。此獸、本洲には、後印度、幷に印度に產し、土人之を捕へ馴らして、勞役せしむ。

象の後に、丈け高き植物あり、こは、椰子樹と稱する植物にて、棕櫚の類なり、其實は、棕櫚の纖維の如き物を被り、胡桃の皮の如き殼、其の中にあり、猶其殼を破る時は、中に白色の實ありて、味胡桃に類して甘し、土人は、此實を有する、多寡によりて、貧富を裝はすといふ、此植物は、熱帶地方には、普通の產物なり。

象の左に示せるは、大蛇の圖なり、印度後印度の森林叢惣たる中に、棲息する大蛇は、其種二三に止まらず、其多くは、口に牙あり、其牙は內空にして、もとに毒液を含み、他動物を嚙むときは、忽ち破れて毒を注入す、其大なるは、ポアと稱する種にて、四丈に至るものあり、好みて人畜などに、螺旋狀に卷き付き、强力を以て壓しつぶし、口より粘液を出して、己の腹徑より、四倍大なる者を嚥下すといふ。

大蛇の卷き付きあるは、芭蕉なり、芭蕉は、蘇の類にして、茗荷の花に似たる果實を生ず、其實は、食すべく、味甘美なり、其葉の纖維は、製して芭蕉布に織ることを得べし、支那、幷に後印度地方に、多く產す。

象の下に示せるは、犀と虎となり、犀は印度に產し、其大さ象に次ぐ、犀は、前額に一角を生じ、四肢共に三趾を具へ、皮は皺襞多く、極て堅厚なり、虎は、印度後印度、支那東部、朝鮮に產し、舉動、凡て猫に似たる動物にて、甚だ猛惡なり、其皮は、紋美しき故に、價貴し。

虎の左に示せるは、孔雀なり、孔雀は、雞の類にして、其羽美しく、別して雄鳥は、尾端に、眼樣の金色する紋を有せる紫紺色の羽毛ありて、頗る美なり、されば、人は其尾羽を以て、裝飾に供す、印度地方の岩角など、高處に棲ひ。

孔雀の右に示せるは、印度土人が、椰樹の下にて、長啄鰐魚を捕へんとする圖なり、鰐は、脊に黑褐色の鱗甲を被ひ、腹は黃白色にして、四肢あり、印

度ガンジス河、沿岸の沼澤に棲む鰐魚は、長き嘴を有し、恒河鰐の名あり、常に沼澤河中に隱れて、舟を覆へし、又は、沿岸の人畜を食ふ、されど、印度並に錫蘭の土人は、捕鰐を唯一の遊びと思へり、榕樹は、我小笠原島などにも、產する樹木にて、幹長大するに從ひ、枝を垂るゝこと多く、垂れたる枝は、地に達すれば、忽ち根を生じて、本幹と區別し難きに至る、されば、次第に殖りて、一樹の蔭に七千の兵士憩ふことを得べしといふ。

第四課　朝鮮帝國　一

注意　本課は、朝鮮の位置・廣袤・地勢・氣候・物產・人口・風俗を敎ふるを旨とす、朝鮮の港は、年中結氷することなきも、僅か離れて浦潮斯德は、多朔氷結して、艦の碇泊に便ならざること、朝鮮の東、若しくは南海岸にて、露國と我國と、近來時々事端あること、多き、洛東江・漢江の兩流の灌漑に便なること多き等地勢に於て注意す可し。

風俗を述るに當りて、朝鮮の所級を說明して、國勢の振はざる所以を知らしむべし。

朝鮮は、國號を韓と云ひ、亞細亞大陸の東方に突出したる半島にして、面積（南北二百五十里、東西六十里、面積一萬三千四百方里）は、我本州島（面積、一五百七十一方里）より稍小なり。

東海岸は、屈曲乏しけれども、南岸及び西岸は、出入多くして、港灣に富み、數多の小島、其前に星列せり。

白頭山脈は、北境の長白山脈より分れ、半島の東岸に沿うて走れり。

參照　長白山より分るゝ、起點を、白頭山といふ、高、約九千尺あり、もと火山にして、頂上に徑二里の噴火口ありて、今は池となり、滿洲人の神聖とする所なり、此脈の南下するに從ひ、低くなり來る、其北方は、金鑛に富み、

樹木多けれども、南方大方禿山なり。

されば國中の平野は、おほむね西部と南部とにありて、河流の大なるものも、亦此處に在り。即ち、南には、洛東江、西には、漢江、大同江あり、此他、北境の豆滿江、鴨綠江も著名の大河なり。

參照　洛東江は、河身全長七十餘里にて、四十餘里の間、舟通し、又殿尙全道を滿流するにありて、農產豐かなり。漢江は、全長七十里にして、小舟五十里に遡り得べく、京城より、仁川までの貨物は、大方此水利による。此河の平野、京畿、江原、忠淸の三道にわたる。大同江は、平安道の平野を作れる河にて、全長百餘里あり、大河の右岸に、鎭南浦あり、されと十二月より翌年二月までは、氷結す。豆滿江は全長九十里にして、慶興附近の平野を作る。若し下流を浚ふ時は、百噸位の船、二十里に遡り得べし。此河は、韓滿露三國の境を流るゝを以て、頗る緊要なる江なり。

鴨綠江は、全長、百四十里にして、船舶は、義州より、尙三十里の上に遡り得可し。此河は、奉天省、幷に朝鮮に狹長なる平野を作れり。氷結すること、大同江に異ならず。

此國は、夏時、炎熱やくが如くなれど、冬は、甚だ寒く、中部以北の河流は、皆、氷を結び、人馬、其上を往來す。產物は、米、豆、牛皮、砂金、鐵及び人參等を著しとす。

住民は、日本人と同じく、亞細亞人種に屬し、其數、凡そ一千萬あり。中等以上の人は、重に漢文を用ひ、普通の人は、諺文と云ふを用ふ。昔は、文學の盛なる國なりしが、今は、百事衰へて、學問、技藝の如きは、一も見るべきものなし。人民は、家柄により、て、數等の階級に分れ、上下の別、甚だ嚴なり。人情は、一般に惰弱にして、進取の氣象に乏し。

參照 此圖には兩班・中人・漢常人・奴隸の四階級あり、兩班とは、東班・西班にて、東班は、代々文官となる家柄にて、西班は、武官となる家柄なり、中人は、下等の官吏となることを得可し、漢常人は、農工商業に從事し、官吏となることを得ず、奴隸は、重罪を犯せるもの、官に收められて奴となれるなり。

朝鮮人

圖解 上に示せる、圖の右なるは、朝鮮の男にて、左なるは、女兒なり、其衣物

服は、上衣と袴よりなり、上衣は、綾潤なる筒袖にて、腰下にて、紐にて結ぶ、袴も寬濶にて、膝下に結約す、地質は、貴人は、紗・絹等を用ひ、常人は、白色の綿布にて作る、帽は馬毛にて造るあり、又竹にて作るあり、履は、藏、又は革にて、革は貴人に限れり、女兒は帽子を被ることなく、衣は、著色の地質を用ふ、左手に持ちたるは、煙管にて朝鮮人は終始煙草を燻らし、雜談に時をうつすを常とすといふ。

人物の上に示せるは、人參・稻・幷に豆の類にて、物產の主なる物を擧げたるなり、わけて人參は、朝鮮獨特の名產にて、專賣にするなり、其貿易價額、頗る多し。

第五課　朝鮮帝國二

意注 本課は、朝鮮の政治・交通・商業・都會を敍ふるを主とす。

朝鮮の開けざるより、交通商業等凡て他國人の手に委ねられ、國家

の財政常に窘乏を告ぐる所以等、參照と對照して明に示す可し。

都會中牙山・成歡・碧蹄館・平壤等の古跡は、歷史と相待つ樣に授く可し。

政治は、皇帝の獨裁にして、人民は、參政の權を有せず。中央政府は、我國の如く、內閣（總理・內部・外部・度支部・軍部・法部・學部・農商工部の大臣よりなる。）を組織し、各、大臣ありて、政治を統べ、地方は、十三道（京畿道・忠淸北道・忠淸南道・全羅北道・全羅南道・慶尙北道・慶尙南道・江原道・咸鏡北道・咸鏡南道・黃海道・平安北道・平安南道）に分たれ、各道の政は、觀察使ありて、之を司る。

近年、內外の交通、漸く開け、元山津・釜山浦・馬山浦・木浦・仁川・鎭南浦等の開港場は、日を追うて繁昌し、內地には、鐵道・郵便・電信等も設けられ、文明の氣運、漸く國內に及ばんとする模樣あり。

參照　道路は京城より、支那に通ずる道、最も平坦にして、京城より十三道、各都會に、官吏の往來する道之につぐ、されど貨物運搬には、概して便ならず。

京城・仁川の間は、先に、米人、鐵道敷設の特許を得しが、之を我國人に讓りしかば、我國人によりて既に成り、京城・支那の國境（龍州）の間は、佛人、其敷設權を得たれど之を棄却して、未だ敷設するに至らず、釜山・京城間は、日本人特許を得、近日敷設に著手せんとす。

內地の河流中、淡江最も水利あり、京城・仁川間に、日本人、小汽船を設けて來往す、海路は、日本の船、最も多く往來し、英吉利船之に次ぐ。

郵便は、主要なる都港に、信書の發送をなし、電信は、京仁・京義・京元・東釜等の諸線なり、又は貿易港として、開かれし處は、もと仁川・釜山・元山の三港なりしが、明治三十年、鎭南浦・木浦の二港、新に開かれ、同三十一年に至りて、群山・全羅北道の鎭江の河口）城津（咸鏡北道南部）馬山浦（巨濟島の北に

ゐりの三港、更に開かれ、平壤は開市場となれり。

朝鮮は、昔、我國にて、三韓と呼びし處にて、夙に、我と往來せり。中頃、事によりて、交を絶ちしが、明治の初に至り、更に舊好を修め、交際、日を追ひて親密になりぬ。

參照　もと、漢江の南方に、馬韓・弁韓・辰韓の三國ありしかば、朝鮮を呼びて、三韓と稱したりしが、後、新羅・百濟・高麗の三國興る。然るに、新羅は、他の二國を亡ぼして、統一したりしが、今より大凡千年前、王建なる者、新羅に代りて建國し、國號を後高麗と稱したり。六百九年前に至りて、李成桂、代りて建國し、國號を朝鮮と改めたり。今の皇帝は、其末孫なり。各國條約の順序は、日本(明治九年)清國(明治十五年)合衆國(同上)獨逸(十六年)英吉利(同上)伊太利(十七年)露西亞(同上)佛蘭西(十九年)墨地利(二十五年)なり。

我國よりは、綿・織物・摺付木・銅・陶器・硝器・石炭・絹物等を輸出し、米・豆類・牛皮等と交換す。

參照　朝鮮の主なる取引先は、英國・清國・日本の三國にて、英國は、輸入品百分の六十を占め、清國・日本兩國にて、其三十を占め、其他の諸國にて餘の十を占ひるの有樣なり、而して日本の綿織は、次第に增加の傾あり。

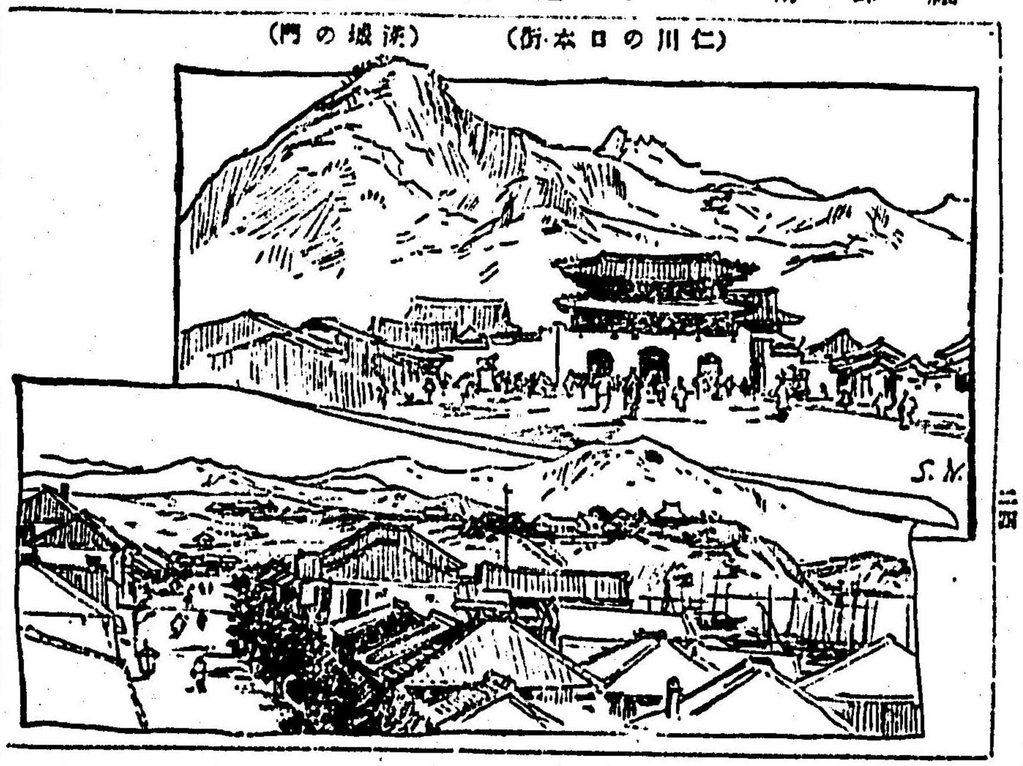
釜山浦は、凡そ、三十四浬を隔て、我對馬と對する良港にして、邦人は、昔より交通せり。是より、陸路北に進まば、牙山・成歡等を經て、漢城に到るべし。

漢城は、歷代の國都なり、漢江の右岸に位し、周圍に城壁をめぐらす。國中第一の都會にて、我公使館あり。

圖解　漢城、一に京城と云ふ、市街の周圍は、長さ四里十五町、高さ十尺、厚さ二十尺の城壁を周らし、八門を設く、北は、肅靖門、南は、崇禮門、東は、興仁門、西は、彰義門、東北は、惠化門、西北は、彰義門、東南は、光熙門、西南は、昭濟門

なり、然して、宮城は、景福宮と稱して、市の北西部にあり、上に示せるは南大門、即ち崇禮門にして高さ三十尺あり、八門中最も壯觀なり、又北門通りは、商業最も盛なり、我居留地は、此近傍、泥峴と稱する處にありて、公使館及び領事館あり。

尚ほ、北に進みて、有名なる碧蹄館の、古戰場



（仁川の日本街）　（漢城の門）

を吊ひ、大同江を渡りて、平壤に入る。此地は、朝鮮の開祖箕子が都せし處にて、江に臨み、堅固なる城壁あり。

是より漢城に返り、汽車に乘りて、仁川に出で、貿易の實況を視察し、やがて、便船に乘りて西航し、黃海を橫きりて、支那に向ふ。

參照　仁川の我居留地には、約五千の本邦人居留し、外國居留人民の九割以上を占む、されば居留者の多きに從ひ、規定の地、狹隘となりて、外國の居留地を借用し、又は、海面を埋め立つるに至る、此地の商業は、殆ど日本人の手にあり、領事館、郵便局、日本郵船會社の支店等あり。

第六課　支那帝國一

注意　本課は、支那につき、位置、面積、區分、及び山脈、河流、氣候、物產を授くるものなれども、殊に河流の記述にて、揚子江の水利其者の、人に及ぼす、

影響の大なることを示せるは、肝要にして、之に連關して、南部の富有なることを知らしむべし。

清國の氣候は、大陸の凡ての氣候を說明するに便にして、自ら地文學上の原則を會得せしむるに足る。

支那は、國號を清と云ひ、本洲東部の大國にて、面積（南北九百里、東西一千三百里、面積七十萬方里）は、我國（二萬七千餘方里）の二十五倍に當り、本部・滿洲・蒙古・新疆・青海・西藏の六部に分る。

東は、海に面し、北部は、地勢高く、西藏（西藏高原の平均の高さ、一萬五千尺にて、世界第一の高原なり、我富士山の頂上よりも、二千餘尺高し。）は、世界第一の高原なり、北にアルタイ山脈ありて、露領と境し、西に天山・崑崙山あり、崑崙山系の東に奔ること、一千百里の餘脈は、東に延びて、支那の平野を南北に分つ、是を北嶺と云ひ、楊子江を隔てゝ、南嶺と相對す。北嶺の北に黃河あり、其流域は、昔中原と稱せし處にて、支那文明の根原地たり。

參照　黃河は、北嶺の西、青海に發源して、東北流し、長城より、蒙古の境城に入りて、更に彎曲し、長城を出でて南流し、滝關と云ふ處にて、屈折して東流し、後、東北流して、渤海に注ぐ、全長一千餘百里にわたり、支那第二の大河なり、此河は、支那の北部、一帶に覆はれたる、黃土層の上を流れ來たる故に、多量の黃土を含みて、常に、濁り、渤海灣頭をはじめ、黃海を黃ならしむる故に、黃河の名あり、上流は、急湍多き故に、水利よろしからず、時々氾濫する故に、其害夥しといふ、今此河は、渤海に注げども、四十七年前は、直に黃海に注ぎたりき。

楊子江は、本洲第一の大河にして、舟楫・灌漑の利多く、沿岸は沃野相連り、世界屈指の農產地たり、江の南に、有名なる洞庭

湖あり。

楊子江は、北嶺の西南、青海に源を發し、崑崙山脈より、南嶺に到る、縱斷山脈の谷に從うて東南流し、南嶺に近づくに從ひ、曲折して、更に東北流し、後、東流して、長さ三千里、幅二十里の洞庭湖、長さ四十里、幅六七里の鄱陽湖の水を容れ、再び東北流して、黃海に注ぐ、その全長一千四百里、亞細亞第一の大河にして、又、亞細亞第一の、有益なる河なり、其支流を合すれば、舟楫を通ずること、五千餘里、重慶までは、汽船自由に往來し得べしといふ、此河の沿岸には、支流にあるものを合せて、重慶、宜昌、沙市、漢口、九江、蕪湖、江寧、鎭江の八條約港あり、此河は、年々沙泥を流すこと、一年間、六十三億立方尺の割合にて、七十方里の崇明島の如きは、五百年間位に出來たる島なり、されば楊子江下流肥沃の地も、皆此河の作る所なるを知るに足るべし。

黃河以北は、寒暑の差甚しく、夏は、炎熱なれども、冬は、寒氣强くして、河水皆氷結し、中部以南は、寒暖中和を得たり。

參照　清國は、亞細亞大陸の、大部を占むる故に、氣候一樣ならず、其北部藩部は、西比利亞に近きを以て、寒暖の差著しく、冬は、河湖、皆氷結す、又西部は、土地高うして、海洋に隔たるを以て、寒暑の差、更に甚しく、雨量少くして、始終乾燥なり、只支那本部の黃河以南は、海洋に近く、又山は、大方東南より、西北に奔れる故に、支那海幷に印度洋の海風を、深く內地に受けて、氣候中和に、且つ、濕潤なり、特に南方廣東地方は、雨多く、支那本部は、大方季候風の影響を受け、冬は、北東風吹きて、概して乾燥し、夏は、南西風吹きて濕潤なり、此氣候風の變ずる時、颶風起りて、沿海を荒すことあり、支那にては、之を大風といふ。

此國は、古來農を以て、第一の民業とせし處なれば、田野著し

く開けて、農産頗る多く、牧畜・養蠶も亦盛なり。其主なる産物は、大豆・小麥・米・茶・砂糖・鴉片・生絲等にて、其他石炭・銅・鐵等の産出少からず。

參照　支那南部は土地肥沃にして、氣候宜しきを以て、農産特に著るしく、從ひて各種の製造物も出づるを以て、支那の富源は、揚子江沿岸を重もなるものとし、多く其南方にあり、北方は概ね南方の供給を仰ぐのみならず、政府の財源も、亦南方よりす。

第七課　支那帝國二

注意　此課に於ては、支那の住民風俗・政治・沿革・交通・貿易等につきて授く、特に、支那は、我國の近隣にして、東洋の國勢上、唇齒の關係を有する國なれば、住民の性質上、風俗・政治等總て古來の習慣を墨守し、國勢の振はざること、及び個人的商業に敏活なることなどより、交通貿易の有樣、內

地交通の狀況、又沿海航路は、外人の手にあることなど知らしめ、兼て我國との關係の大なることを知らしむることに注意すべし。

支那の風俗

支那人は、朝鮮人と同種亞細亞人種、にして、其數、四億に上り、九倍半、世界人類の四分一を占む。されば、其言語も、處によりて同じからず、唯官話南京官話、北京官話、と稱するもの、廣く、中流以上に用ひらる。人情

は、一般に勤勉なれども、頑固にして、外人を卑む風あり。衣服は、概ね廣き筒袖に、細き袴を著け、男は辮髮を後に垂れ、女は、足を纏縮す。人民は、家柄によりて、上下に分たるゝこと、恰も、朝鮮の如し。

參照 支那人は、勤儉の性質に富めど、多くは吝嗇にして、貯蓄心の盛なること、世界一なりといふ。故に遠く波濤を冒して、南洋諸島より、北米合衆國に、業を求め、蓄財に汲々として、不潔を厭はず、又、慣習を墨守する風習なれども、利益と知れば、新に就くこと、極て劇しく、常に忍耐力ありて商業上に敏活なり。

國人一般に、鴉片を吸飲する風俗なり、國法を以て、嚴禁すれども、習慣の久しき、之を改むること能はず、自ら精神と、身體との疲耗とを招くに至る、且つ、鴉片は英領印度より輸入するものなれば、國財を失ふこと大な

り、是れ支那の大弊害の一なり。

圖は、支那風俗を示したるものなり、左右に立つは、男子にして、左は、大人、右は、小兒なり、其辮髮は、周邊を剃り、中央の毛を組みて、長く背後に垂る、前に居るは、女子にして、左は、小女なり、服は男子と異なり、袖寬かにして長く、且つ、彩色をなす。

政治は、朝鮮と同じく、皇帝の獨裁なり。中央には、議政衙門（我國の內閣の如きもの）の行政衙門（我國各省の如きものにして、吏部（戶部）禮部（兵部）刑部（海部）工部の七衙門あり）あり、て、大政を統べ、地方は、本部（支那本部）十八省（即ち滿洲、蒙古、青海の地、西藏には、將軍ありて、之を統べ、本部は、十八省（直隸、山東、山西、河南、江蘇、安徽、浙江、江西、福建、湖北、湖南、廣東、廣西、貴州、雲南、陝西、甘肅、四川、）に分たれ、總督、巡撫ありて、之を統ぶ。

參照 政治は、君主專制にして、皇帝親ら萬機を綜裁す、政務を處理する

内閣あり、又我省の如き、六部の衙門あり、其長官は、尚書と稱し、次官は、侍郎と稱す。

支那の兵制は、我國の如き、國民の義務を以て、兵役に服するものにあらず、世襲諸代の武士あり、徴發するものあり、募集するものあり、陸軍には、八旗・綠旗・兵勇の三種あり、八旗は、八色の旗を以て、各軍隊の記號とし、初は、滿洲人に限れり、綠旗兵は、綠旗の記號にして、漢人より組織し、兵勇は、募集兵なり、海軍は、北洋水師全滅後は、微々として振はず、海軍力なしといふも可なり。

支那は、東洋に於て、最も早く開けたる國にて、三千年前より、文化發達し、制度・典禮・學問・技藝等、一として備はらざる所なく、我國も、古くより交通して、何彼となく、傳へ得たるもの甚だ多かりき。然るに近年に及び、民心腐敗して、國運衰へ、大小百般の事業、見るべきもの少きに至れり、惜むべきかな。

參照　支那は、歷代の興亡、相踵ぎて、我國の如く、一系の帝王にあらず、時に豪傑の士起って、前朝を倒し、之か帝王となるに至る、されば、支那十四代は、交互に國號を改めて、一國を統御せり、今の清朝は、大凡三百年前、滿洲より起りたる、愛親覺羅氏の後なり、されば、現今朝廷の高官・軍人は、滿洲人多くして、支那本土の人少し、是を以て、時々兩々相反目するの弊を生じ、内部の一致協力に乏しく、從て内亂外患屢起るに至れり。

内地の交通は、南船北馬と云へる、諺の如く、北部にては、道路整頓す、多く車馬により、南部は、縱橫に通ず、主に舟楫による。されど、近年は、鐵道漸く敷設せられ、天津より、北京・保定に、天津より、太沽・開平・山海關・錦州に到る、郵便・電信の制立ちて、交通・通信の途、將に一變せんとする有樣あり。

參照　支那の交通は、內地は、不便の處少からざれども、北部は、道路整然として、多くは馬車・轎子、或は、驢馬を用ひ、又、一輪車あり、車は、一輪にして、帆を附し、人力、又騾馬を用ふ、中央より、南部は、川溝の利多く、運輸交通の便あり、鐵道は、國人の固陋なる、亡國の具とし、嫌惡するが故に、敷設に困難なり、僅に山海關・錦州に到り、又山海關より、太沽・天津を經て、北京及び開平の炭坑に通じ、北京より、保定に通ずるなり、郵便は其制古風にして遲緩なれども、電信は、到る處通ぜざるなく、重なる都邑を連ね、延いて諸外國に達す、我國より、臺灣、及び長崎より、海底線ありて通ず。

沿海航路は、航通非常に發達して、各開港場に通じ、東は日本・米國に通じ、南面は、南洋諸島、及び、歐洲に達す、然れども其航權、皆、外人の手にあり、我國よりは、橫濱・長崎より、上海・香港・天津・芝罘の四線あり。

外國貿易も、大に發達し、海岸、及び、楊子江流程一千四百里、沿岸には、繁華なる開市場多し、我國との貿易も、年々、隆盛を加へ、多くの豆類・棉・油糟・米・煙草・砂糖等を輸出し、綿織物・石炭・摺付木・海產等を輸入す。

參照　支那は、物產に富み、人口多く、且つ、利益を收むるに、汲々たることを以て、商業は、頗る發達し、外國貿易も、年々に進歩し、輸出入共に多し。

支那と、貿易の盛なるは、英國にして、次は、我國なり、我國の始めて貿易を開きしは、九州の諸港に於てなり、元和年中、鎖港令出でしも、特に支那の爲には、長崎港を開放せり、又、明治廿七八年戰役後、通商條約の結果、數港を開くに至れり、然れども、未だ盛大といふ可からず、我國より輸入するものは、石炭・綿織物・昆布を第一とし、他は、之に次ぐ、我國への輸出品は、棉花・油糟・砂糖・大豆を重なるものとす、尙ほ、今後益、盛ならしめんとする景況あるなり。

多くの貿易港の中にて、商業の最も盛大なるは、上海にして、外國貿易の中心なり。內地には、漢口あり、北に、天津、南に、廣東あり、各、南北に於ける商業の中心なり。

第八課　支那帝國　三

注意　此課に於ては、北京、南京等の都府、天津、上海、香港等の港津より、萬里の長城、及び蒙古、滿洲等の狀況を授くるものなり。支那は、我國との利害關係、甚だ密接なれば、各地の狀況を知らしむると共に、我國との、既往將來につきての關係を知らしむることを要す。

大連灣（旅順口の東北）より上陸し、遼東半島を經て、天津に到る。此地は、白河に臨みたる要津にして、北方第一の貿易港なり。其西北に、北京あり。

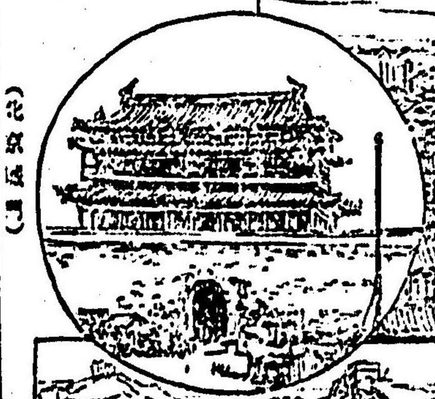
參照　天津は、白河に臨み、太沽より、白河の流に沿ひて溯ること、二十八

里、陸路は、十三里、北京に入るの咽喉なり、此に直隸總督を駐在せしむ、長崎を距ること、七百三十六海里、我國の領事館あり、人口は、九十五萬餘、支那北部の、貿易の中心なり、然れども、冬季は、河水氷結するを以て、航路は全く絶ゆるに至る、鐵道は、此に起り、北京に達し、北方は、開平、山海關に通ず、有名なる大運河は、南支那の杭州府より、北に通せり、此地は、近時義和團の蜂起により、各國聯合軍の爲に、總攻擊を蒙りたる處なり。

天津の東方に、芝罘あり、威海衛を、東に控へ、北旅順口に對し、商港として重要なり、威海衛は、旅順口と斜に對して、渤海の關門なり、日清の役、北洋艦隊、此に全滅す、今は、英國に貸與す。

北京は、直隸省にあり、又、順天府と云ひ、清朝歷代の帝都たり、人口凡百六十萬、我東京より多し、府は、內城、外城に分たれ、城壁を以て、之を圍む。周圍十里、**皇宮**、諸官衙、及び我公使館等、皆內城にあり。

（北京市街）



（北京城門）

（萬里の長城）

參照　北京は天津より三十三里、實に東洋第一人口夥多の都會なり、府の內城は、高さ三丈五尺餘、九門を開き、外城は、高さ二十尺、七門を開く、城壁の周圍十里、共に煉瓦石を以て築く、商業の盛なるは、外城にあり、道路は、殷濕なれども、恐も修めざれば、不潔にして、雨天には泥濘にして、晴天には、風塵高く起り、實好の地に非ず、北京は、一に燕京と稱し、燕の舊都なり、元明亦此に都し、明朝に至り、順天府と云ひしが、今も此名を用ふ、今より、

二百五十餘年前、滿洲の人、愛親覺羅氏、明朝を倒して、國を淸と改め、都を此に定む、即ち淸帝の祖なり。

長髮賊の亂に際し、英國の國旗を揭げたる、支那船アルロウ號が、罪人を隱したるを疑ひて、之を捕へ、英國國旗を撤去したるより、アルロウ號捕拿事件となり、遂に英佛聯合軍に迫られ、兵を此に駐め、爲に兵火に罹り、後、又、義和團の蜂起に因り、日・英・米・佛・露・獨・伊の聯合軍の、占領する所となる、圍中の右にあるは、北京市街にして、左にあるは、外城の朝陽門なり、門は、二重にして、堅牢なる鐵扉を設く、聯合軍の北京を攻擊せし時、日本軍は、之を破壞して入城せり。

北京より、少しく北に行けば、壁のうぬ〳〵と、東西に連るを見る、之を萬里の長城と云ふ。

參照　長城は、今より二千餘年前、秦の始皇帝、匈奴の侵入を防がんが爲に

之を修めしものにして、長さ五百里、東は山海關より起り、山を踰え谷に跨り、地勢によりて、曲折昇降し、西嘉峪關に達す、壁の高さ二丈五尺、厚さ一丈五尺、外は、煉瓦を以て疊み、內は、土石を充す、六十間毎に、窰(たなで)ありて、戍兵を置き、要害の地は、二重、或は三重とす、其規模の宏大なること世界無比なり、以て當時の國防に務めたるを知るべし、國中の下にあるは、萬里の長城なり、千二百年前に於て、隋帝の代に穿ちたる運河と共に、支那の二大工事なり。

長城を越ゆれば、蒙古に出づ。此處に、ゴビの大沙漠あり、其東に滿洲あり、清朝の故地にして、首府を奉天と云ふ、獸皮・穀類の寶庫盛なり。

參照　蒙古は、元朝の祖、忽必烈、此地に起れり、其種族は、勇悍なりき、我弘安四年、九州に寇しゝは、此種族にして、忽必烈の祖父、成吉思汗に從ひて、

歐羅巴洲を蹂躪したるも、亦此族なり、蒙古の中央に、有名なるゴビの沙漠あり、寒暑共烈しく、草木を見ず、近傍の人民は、天幕を家とし、射獵牧畜を業とし、常に、水草を逐うて移轉し、無智蒙昧なること、今は、昔の如き雄風なし、貿易城は、露領と接し、隊商貿易の中心にして、露と取引盛なり、蒙古の西を、新疆とす、山岳多き、高原なれども、數條の谷地あり、東西交通の便あり、露國と境するを以て、國際上の交渉事件、屢、起れり。

滿洲は、清帝の基業の地にして、現朝の甚だ重んずる地なり、滿洲人は、雲悍にして、清朝の祖は、此地の豪傑なり。其舊都奉天府は、盛京と稱し、滿洲第一の都會なり、日清戰爭の時、我國の一時占領せし、遼東半島は、其南端にして、尖端を旅順口とす、元は、東洋第一の軍港にして、金城鐵壁なりしが、我軍の爲に陷らる、大連灣は、其東北にあり、今は、共に露國に貸與せり。牛莊は、渤海灣內にありて、豆類の輸出あり、又、牛莊は、遼河の左岸に跨る、

開港場にして、貨物の出入頻繁なり。

天津より、運河に浮びて南行し、楊子江を渡りて、南京（江蘇省江寧府）に到る。此地は、明朝の都たりし處にて、風流文華の名都と稱せらる。（人口五十萬、）

參照　寧府といふ。北京に對して南京と呼ぶ、楊子江の南岸にあり、明朝の舊都にして、古來文學盛に行はれ、風景閑雅、文人墨客の地たり、名所古跡多く、我國の京都に似たり、一たび此に遊ばゞ轉た懷古の情に堪へざるべし、往年長髮賊の亂に、兵火に罹り、頗る舊觀を損するも、近來また稍舊に復せんとす、有名なる九重の磁塔も、今は只基礎のみ存す、人口五十萬あり、此地は、陶器、絹織物、筆墨の名產地にして、南京縐子の出づる處なり、四周は、田園遠く開け、支那第一の人口稠密の地方なり。

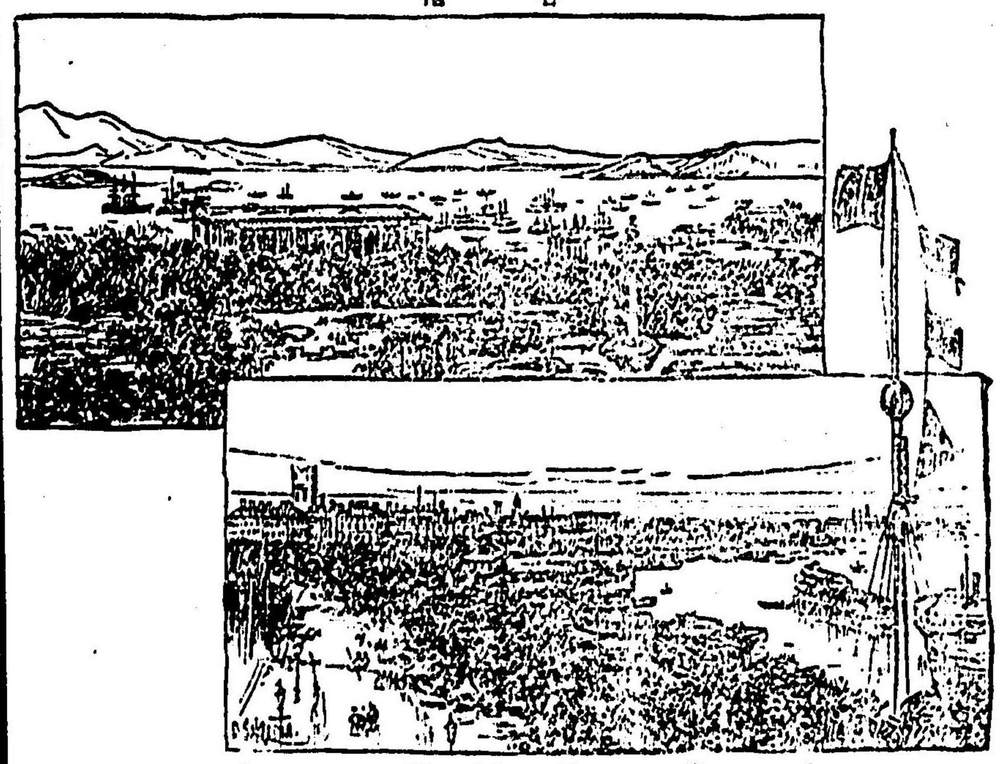
楊子江の沿岸には、漢口（ハンカウ）（湖北省）、重慶（チョンキン）（四川省）等、繁華なる都會多し。

參照　楊子江を溯れば、漢口あり、內地貿易の中心にして、甚繁盛、江畔第一とす、茶の輸出、最も盛なり、砂市、重慶は、其上流にありて、日清戰爭後、馬關條約の開港場なり。

江を下れば、海岸に近く上海（シャンハイ）（江蘇省）あり、支那第一の貿易港にして、百貨輻湊し、市街繁盛なり。

參照　上海は、支那第一の貿易場にして、南北兩部の中央に位し、日本朝鮮と、大關係あり、楊子江の河口に近く、北は、運河によりて、天津に通じ、東は、日本、及び北米大陸に、南は、南洋諸島より、歐洲に通ずる要衝に當り、實に東洋稀有の貿易場なり、人口五十萬、長崎より、四百七十五海里、航程は、二十八時を要す、基隆を距る凡、三百七十六海里、我國人の商業を營む者、頗る多し、然れども、土地卑濕にして、貨物揚場の庶あるゝと、支那商人の、臨結の強きとは、貿易上に、大なる困難を感ずといふ、我領事館郵便局と、日

香港



上海

本邸倫敦に支店あり、蚕生絲を輸出し、羽毛金巾を輸入す。

國中の下にあるは、上海の市景なり。

是より蘇州江蘇省に到り、轉じて、杭州浙江省より、福州・厦門共に福建省を經て、廣東に達す、支那第一の大都會にして、商業工藝、甚だ盛なり。

参照 蘇州府は、馬關條約

の開港場にして、清人の諺に、天に天堂あり地に蘇杭あり、と、其頗る富饒の要地なるを知るべし、商業頗る繁盛にして、絹布を以て名あり、杭州府は蘇州府の南方にあり、亦馬關條約の開港場にして、風景の美觀を以て知らる、外國貿易は、未だ盛ならず、有名なる大運河は、起點を此地に取り、黄河を横り、天津に到り、白河に會す、全長三百有餘里、支那二大壯觀の一なり、隋の煬帝が、遊幸の爲に開きし處なれども、運輸交通の便を與ふること、亦甚だ大なり。

福州は、杭州府の南方、海岸にあり、我國とは、關係甚だ古く、開港以前より交通せし處にして、臺灣淡水へ、百三十七海里なり、清佛戰爭の際、兵火に罹りたれども、再び繁盛なる、開港場となり、人口六十萬、支那南部樞要の地なり、(砲臺あり、福建艦隊の根據地たり、)厦門は、福州より、西南方の海上にある、厦門島中の一港なり、南洋貿易の衝に當り、特に福州と共に、我日

本郵船會社航路の、香港・浦潤斯德線に當り、重要の港なり、我臺灣とは、最も近く、膨湖島と百三海里を隔つ、海底電線の設あり廣東は、人口百六十萬、南部支那第一の都會なり、人民は、最も商業に敏活にして、住民の三十萬餘は、廣東河上に、大小四萬の船を浮べて、宛然市をなし、道路・田園・鷄犬、皆、船中に備り、生涯陸地を踏ざずして、終るものありといふ、府内は、各種の工業盛にして、絹布の製造、最も巧妙なり、所謂廣東縮子の產地たり、砲臺、廣東艦隊あり）

香港（ホンコン）廣東省は、もと支那領なりしが、鴉片戰爭以來、英國領となれり、東洋屈指の貿易港にして、船舶の出入甚だ多し。

參照　香港は、廣東より、九十海里、廣東灣口の一小島にあり、我長崎を距ること一千七十海里、航程四晝夜にて達す、清國南面の要衝を賑し、海外の百貨を集散す、且つ、自由貿易港なるを以て、船舶幾萬、港内に輻湊して

商業の繁盛なること、東洋第一と稱す、我國所用の砂糖は、此地より、輸入するもの多し。

此地は、天保年間、兩廣總督林則徐、鴉片の民生を害するを疾へ、廣東に於て、英商の輸入せし、阿片二萬函を燒き棄て、其輸入を禁せんとせしより、茲に英國と、戰端を開き、連戰連敗して、遂に償金二千六百萬圓を納れ、並に香港を割讓し、厦門・仙頭・福州・寧波・上海の五港を開きて、媾和せり、これを南京條約と稱す、此より英國は、香港を以て、東洋の商業と、兵備との根據地となせり、圖中の上にあるは、香港の丘上の公園より、港を眺めたる圖なり。

澳門（マカオ）廣東省は、其西にあり、昔、阿媽港（アマカオ）と云ひし處にて、今は葡萄牙（ポルトガル）に屬す。

參照　澳門は、香港の西にある、小半島地にして、昔、阿媽港と稱し、廣長の

頃、我國人の、常に往來したる處にして、今は、葡萄牙の領地となれり。

第九課　印度支那

注意　此課に於ては、印度支那、即ち安南、暹羅、緬甸の三國につきて、授くるを主とす。

特に此地方は、往時より、我國人の往來したる國なること、及び、我國商業上に、關係ある地方なること、風土氣候より、風俗、產物に、注意し、交通貿易等の如何を、說示し、兼て、熱帶國人民の性質、動植物分布の狀態を、知らしむるを要す。

香港を發して、西南に、進まば、日ならずして、安南に、著すべし。此國の西方に、暹羅、緬甸の二國あり、是等を、總稱して、印度支那と云ふ。氣候、炎熱にして、雨多く、年中、只、乾濕の二季あるのみ。

參照　印度支那は、又、一に、後印度と云ふ、亞細亞洲の南面に、突出する、三大半島の、最も、東に、位するものなり、我國より、歐羅巴洲の、各地に、航行する、船は、香港を、經て、此地方の、前面を、通過するなり。

氣候は、熱帶中にあるを、以て、炎熱にして、雨多く、年中、只、乾燥と、雨濕との、二季あるのみにて、我國の、如く、四季の、別あることなし、安南と、暹羅とは、安南山脈によりて、乾濕の、季を、異にす、熱帶性の、農產物、林產物、夥しく、米は、第一の、產物なり、外國米、又は、南京米とて、我國に、輸入するものは、此地方、東京、西貢、の產多し、綿、煙草、砂糖等之に、次ぐ、山には、礦物を、藏め、虎、豹、犀、象等の、獸類、棲めり。

安南は、カンボヂヤ、交趾支那と、共に、佛國領にして、多くの米、及び、砂糖を、產す、我等は、首府サイゴンを、經て、暹羅に、向ふ。

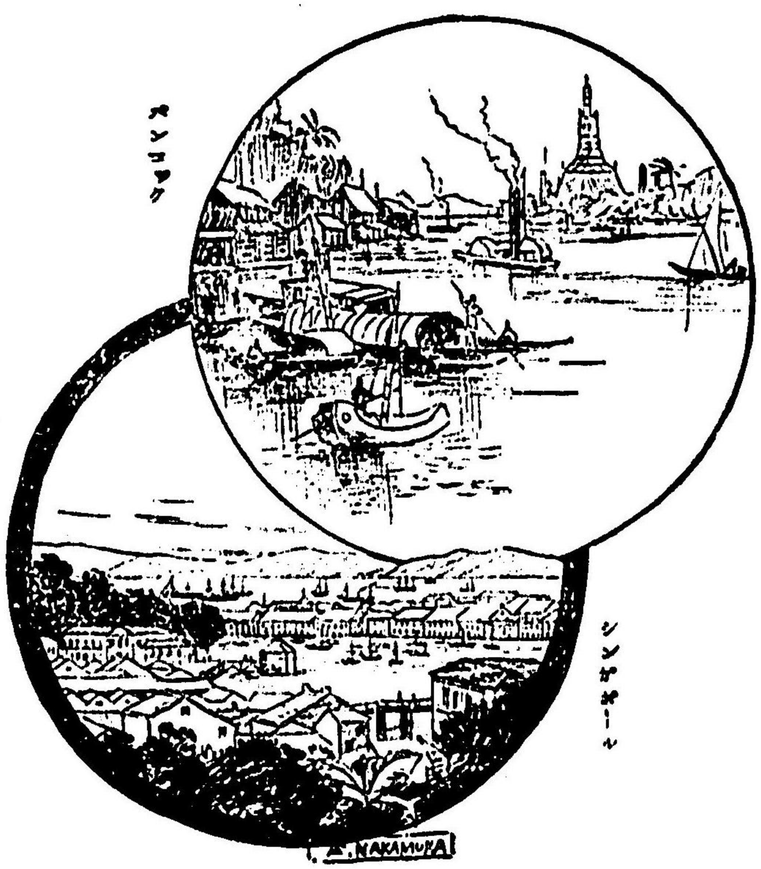
參照　安南は、我國との、關係、古く、足利の、末より、南洋に、航する、者、多く、豐

臣氏の時には、御朱印船と稱し、亞に此地と貿易したり、南瓜はかぼちやの名を以て、今に傳はれり。

暹羅は、我條約國なり、產物は、米を第一とし、年々我國に輸入するもの多し。又、木材を產す、國人は、牛と象とを飼養し、能く耕作・運搬に使役す。首府バンコックは、メナン河畔にある貿易港にして、我公使館あり、是より南の方、シンガポールに渡る。

參照　暹羅は、獨立王國なり、山田長政の雄志を伸べし處なるを以て深く其名を記憶に存するなるべし。此國昔より、我國とは、關係親密にして今尙ほ更めず、シヤモ(爲の名、鬪鷄の名は、此國より渡りしを以て、此名あるなり。

面積は、我國に一倍半す、メナン河の河城は、一大沃地にて、河水の頻溢は



土地を肥し、肥料を要せずして、一年二回の收穫ありといふ。山林亦木材に富みその產、米に亞ぐ、金寶石の類亦多しと云ふ。

圖中の上にあるものは、首府バンコックにして、メナン河口を溯ること、八里餘にあり、人口凡三十五萬、國王の宮殿ありし處にして、全國の百貨、此に輻湊し、內外通商の要港なり、圖の右に高く聳ゆるは、寺院にして、宮殿の結構の美なると、規模の大なるとは、驚くに堪へたり、河中に家屋の浮べるが如きは、河上に生活を營める、人民の舟屋なり、其數甚だ多く、兩岸に充つ、所謂浮部なり。

シンガポールは、馬來半島の極南端、シンガポール島中にありて、人口凡十四萬、英、獨、及び、支那人住居し、我領事館あり、此島は、馬來半島の一部と共に、海峽殖民地と稱し、英國保護馬來國と云ふ、香港より一千四百海里三晝夜半に達し、我橫濱よりは、二千九百二海里なり、東洋より、西南に航するものは、必ず此地を通過せざるべからず、實に東西貿易の咽喉、南洋航路の要點なり、砂糖、米等を多く我國に輸出し、而して我國よりは、金巾

石炭、掛付木等を輸入す、此地は、亞細亞洲の最南端にして、赤道直下にあり、太陽常に頭上を通過し、四季の變化なく、炎熱常に甚し、圖中の下に在るものは、シンガポール島なり。

シンガポールは、馬來半島の南端にある、同名の島にあり　英國領地にして、東西交通の咽喉に當るが故に、貿易甚だ盛なり。是より、英領緬甸に赴き、ラングーンに上陸し、米穀輸出の盛況を見て、西の方、印度に向ふ。

參照　緬甸の面積は、我國より稍、大なり、イラワデー河、沿岸の地は、水田相望み、特に豐饒なり、ラングーンは、其河口の良港なり、ラングン米の名、を以て、我國の市場に來るもの、卽ち、此國の產なり。

第十課　印度

注意　此課に於ては、主として、印度の位置、氣候、物產等より、其國の沿革、

及び都府等の狀況を授くるものとす。

印度は、世界の古國にして、夙に文化の域に進みしこと、又、佛教の起源地なりしこと、土民は、婆羅門教の迷信あり、奇習あること、及び熱帶氣候の常態動植物繁殖の有樣より、天產無盡藏の寶國たるを知らしむるを要す。

印度は、天竺とも云ひ、ヒマラヤ山脈の南に、突出したる半島なり。

氣候は炎熱にして、雨多く、植物盛に生育し、猛獸奇禽甚だ多し。產物の主なるものは、米・棉・木綿・鴉片・茶・香料等にして、中にも木綿は、棉と共に、我國に輸入するもの甚だ多し。

參照　印度は、印度支那の西にある、一大半島にして、英領印度と稱す、我國にて、昔は、天竺と呼びし國なり、天竺の釋迦の名を以て知られたり。

ヒマラヤ山　ヒマラヤ山脈は、北方西藏の境をなして、山脈東西に到る。其最高峯なエヴァレストと稱し、即ち世界第一（海拔二萬九千尺餘）の高峯なり、其低きと雖も、一萬尺以上の高さありて、殆ど我富士山の高さに近し。

氣候　印度は、土地廣大にして、面積、凡そ我國に十倍し、地勢一樣ならざるを以て、寒暑の差甚だし、熱帶中に位するを以て、南部の低地は、炎熱燒くが如く、寒暖計百度以上に昇れども、北方ヒマラヤの山地は、四時白雪を見るに至る、印度支那と同じく、又年中乾濕の二季あり、夏季は、印度洋上の西南風の濕氣吹き來たり、ヒマラヤ山脈に觸れて凝結し、爰に大雨を起して、印度大平原を、世界第一なる、多雨の地方たらしむ、冬季は、東北ゴビ沙漠の、寒冷乾燥なる風吹き來たりて、降雨は、一般に稀に、乾燥の季となる、これ氣候風帶地方の常態なり。

此の如き氣候と、地勢とは、各種の天產物の生育を助け、異種の植物多く、

又、珍奇の動物多し、就中、米と鴉片とは、最も重要の產物にして、棉木綿は、我國に向て、多く輸出し、木綿は、天竺の名を以て知らる、從って紡績織物の工業盛なり、鴉片は、支那に輸出す、其原料たる罌粟は、花時一望千里の田園、積雪の觀あり、其他、熱帶國の植物繁茂し、竹の十丈に及ぶもの、蘇の喬木に異ならざる者、横棚は、六七十尺に直立し、珈琲は、稀に二十尺の者あり、北方の山地には又、寒地の植物鬱蒼たり、故に、農林產物に富む、動物には、虎豹獅子等の猛獸、及び鯛魚亘蟒あり、又、巨大の象あり、鑛物には、金剛石を始め、綠玉紅寶石石炭鐵に富み、實に英國の一大富源の地なり、

印度は、世界中最も早く開けたる國にて、釋迦の如き聖人も出でたりしかど、其後、國勢大に衰へ、近代に至り、英國に併呑せられたり。

參照　印度は、世界中最も古く開け、四五千年以前にありて、國をなし、民

に文化の域に進み、我神武天皇の御宇の頃、釋迦の如き聖人出で、又、希臘の歷山大王、此國を征して、希臘の美術を傳へし等、文學技藝の見るべき者あり、中世に至り、葡萄牙人、先づ海岸殖民地を拓き、近代に至りて、英國は、東印度商會を設け、之が保護を名として、漸次內地の酋長を征服し、四十年前、遂に、英國の領地となれり。

釋迦は、ガンヂス河畔の沃野に生れ、ヒマラヤ地方の雪地に苦行し、佛教を創めたりしが、終に、錫嵐島に終れり。

佛教、今は、其本土なる印度に衰へて、却て印度支那、支那、朝鮮等に傳はり、遂に我國に普及せり、錫嵐島は、印度尖端の東にある島にして、大さ略、我北海道に同じ、其海上は、眞珠を以て名あり。

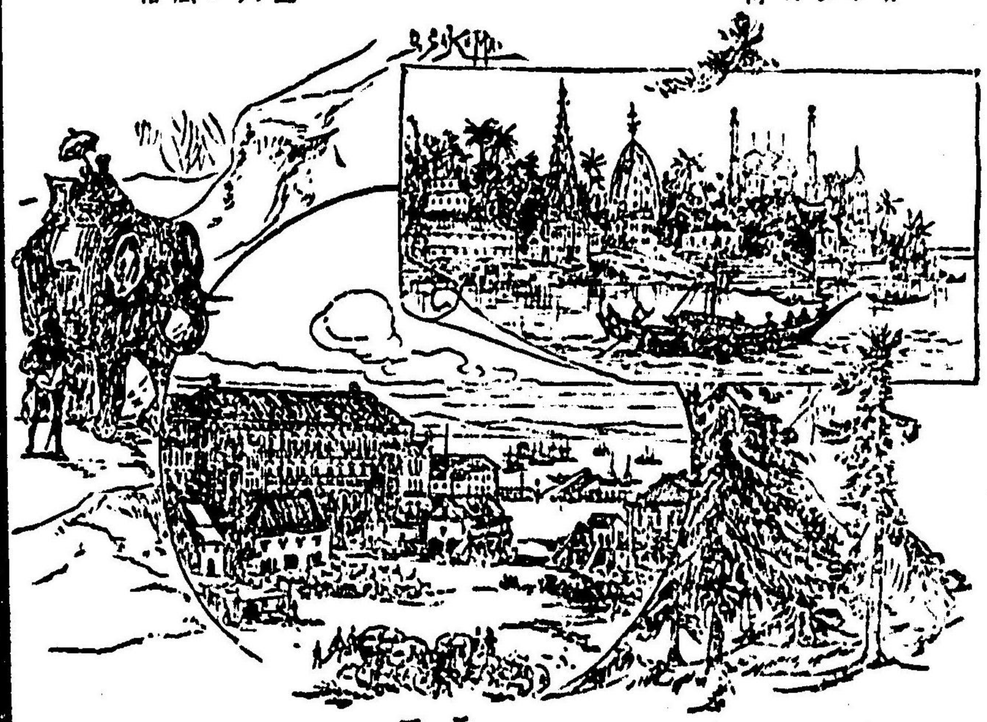
國中の左に、象に乘れるものは、其土人の風俗なり、象を馴して、使用することゝ、我國の牛馬の如く、耕作を助けしむるのみならず、國に於けるが如

く、珠玉に裝飾せる鞍を置きて、遊行の用に供すること、我等が馬車を驅りて樂むに異ならず。

土人は皮膚赤黑色にして、體格强く、多く婆羅門教を信仰し、奇習甚だ多し、ガンジス河畔の聖地を巡禮して、餓死を榮とするが如き、寺院に斷食して死を裹ひ、夫死すれば、北婦と共に妻の燔死するが如き、專心其身を苦ひるを以て、神意に適ふものと妄想せり。

ガンジス河

土人ノ風俗



孟買

カルカッタは、印度總督府のある處にて、ガンジス河口にあり。

參照 ガンジス河は、ヒマラヤ山より來たりて、ベンガル灣に注ぐ、流程六百里、その上流四百里までは汽船を通ずべし、沿岸の地は、印度中、最も肥沃の地方にして、多くの繁盛なる都邑あり、上流の地方は、鰐魚出沒し、特に毒蛇、猛獸の巢窟にして、その害を被るもの少からず、前に掲ぐる圖は、ガンジス河口の、大なる三角洲に立てる、カルカッタの市街を、示したるものなり。

是より南に進み、コロンボー港を經て、孟買に向ふ、孟買は、西海岸にあり、アラビヤ海に臨む、米・棉・鴉片等の輸出港にして、印度第一

の商業地なり、日本郵船會社の孟買航路は、此地を以て終點とす。

參照　孟買は、印度の西海岸にありて、世界屈指の商港なり、人口八十萬あり、東西兩洋を往復する船舶、常に此に集る、米・鴉片・綿類の輸出甚盛だなり、國は、孟買港頭の狀にして、前方に積み重ねたるは、綿を輸出せんが爲に、荷作りしたるものなり。

第十一課　亞細亞露西亞

注意　此課に於ては、主として、亞細亞露西亞の位置・區分・氣候・物產・鐵道より、樺太・浦潮斯德等の狀勢を授くるものとす、

特に、西比利亞北部は、寒帶に入るを以て、寒帶國の常態、氣候の動物に及ぼす關係より、緯度の登夜に及ぼす關係を說き、進んで大鐵道より、彼の樺太・浦潮斯德と我國との國勢上の關係、並に交通貿易の一般を知らしひるを要す。

亞細亞露西亞は、本洲北部の大國にして、西比利亞・トルキスタン・コーカサスの三部より成る。

西比利亞は、氣候寒く、國中概ね草原にして、耕野少し、產物は、獸皮・木材・金・銀・鐵等あり。

參照　西比利亞は、其面積八十万餘方里、支那全國より大きく、亞細亞洲の大凡三分の一にして、我國の三十倍に當れり、然れども、人口は、極て少く、總計五百七十萬人に過ぎず、大凡我人口の八分の一なり、是等住民は、亞細亞人種なる土人と、露國人とにして、露國は、移住民を奬勵し、又は、囚徒を送りて、人口の增殖を圖れり。

何故に此地方は、人口此の如く少きかは、寒氣極て凜烈なるが爲なり、即ち北緯の高度に位するが故に、北氷洋の寒氣を、遮ぎるべき山なく、東南

の暖風は、山脈の爲に遮られ、寒氣の凜烈言ふ可からず、殊に寒帶に入りては、冬季は、一層烈しく、河底も尙ほ氷結して、滿目氷田となり、寒暖計は、零下七十度に下り、人畜共に生活すること能はず、夏季に及んで漸く北表面のみ、僅に融解して、蘚苔類の點々生ずる外、滿野寂漠たる、無人境にして、往々南方の鳥獸來り、群をなすことあり、此區域は、長さ七百里、幅三十里、乃至百里の間を占む、南部は、溫帶に入りて稍溫暖なれども、尙ほ凜烈にして、水銀の凝結するを見る、夏季に至れば、炎暑俄に加はり、瘴氣立ち騰りて、人の健康に適はざるなり。

此地方に、又一つ想像の外なることあり、總て、高緯度に進むに隨て、冬日愈短く、終に寒帶に至れば、冬季は、數月間、全く、太陽の外るを見ずして、夜となり、夏季は太陽の沒する時間極て短くして、或は數月間、晝となることあり、此地にては、冬季は、卽ち夜季にて、夏季は、卽ち晝季なり、故に夏季

は溫氣を保つ時間甚だ長く、かゝる寒國にても氷雪を融解することを得るなり、此の如く極地は、熱帶地方の如く、一年唯、夏冬の二季あるのみ、我等は、其中間なる溫帶に住して、四季の樂に逢ふことを得るは、又多幸なるかな。

氣候此の如く沍寒なるが故に、耕野少く、農產物は稀なり、總て寒帶地方の植物は、喬木なく、大は灌木類より、小は蘚苔類に過ぎず。

漸く南部溫帶に入りて、一帶の森林地ありて、概ね松柏類鬱蒼たれども、樹質は堅からず、極南に、到れば、地味豐饒にして、小麥、裸麥を耕作す、これ西比利亞の穀倉にして、森林地方以南は、冬季と雖も、人畜生活し得らるるなり、土民は、漁獵を業とし、或は水草を追ひて、移轉する遊牧の族にして、獸類は、黑貂、海狸、黃鼬、白熊等の寒國動物にして、毛皮は、歐洲市場に出つる貴重產物なり、又、著名なる馴鹿あり、土人は之を飼ひて、雪中に橇を

家かしめ、寒地の動物を獵し、海岸に魚類を捕ふ。

鑛物は、甚だ豐にして、ウラル山の白金は、世界唯一の產なり、故に其價は、黃金より貴し、其他金銀銅鐵に富む、又化石あり、製造品は、製皮、硝子、石磁、蠟燭等なり。

國中の、上方は、西比利亞の平原にして、南方にアルタイ山脈の雪を望みたる所なり。

此地は、露國政府が、國勢を東洋に張らんがため、熱心に開

西比利亞平原と浦潮斯德

拓せし處にて、先年、西比利亞大鐵道の起工なりしより、軍事商業上、大に世人の注目する所となれり。

參照。西比利亞の露國に歸せしは、今より凡三百年前にあり、初め哥索克人、即ち、今の哥索克兵の種族、ウラル山を踰えて、西比利亞の西部地方を、其領地に入れ、漸々東部地方を占領し來り、四十年前、遂に太平洋沿岸の南部なる、支那の地を併有したり、以來銳意開拓に從事し、國勢を東洋に張らんとして、數年前、南方の沃野を横り、西は、露國境上の、ミアスゝより起り、東方浦潮斯德に達する長さ、四千九百五十哩、我が二千〇二十八里餘凡そ三億萬圓の費用を要する、西比利亞大鐵道の布設工事を、東西中央の三箇所より着手し、既に開通せられたる部分少からず。

抑、露都セントピートルスボルグより、浦潮斯德に到る、六千八百哩即ち、我が二千八百十里の長程を、旅行せんには、西露國は、鐵道の便により、西

比利亞に入りて、或は、水路により、或は、陸行して、凡そ百二十日、即ち四箇月の長日を費すべし、若し又汽船に乘じて、歐洲に到るも、航程一箇月餘を要すべしと雖も、此大鐵道完通するに到らば、茫々たる平原を横り、僅か二週間にして、達するを得、此鐵道は、商業上、軍事上、特に、農事上、何れの點よりしても、大に注目せられたり。一朝絶東に事あるの日、十萬の兵、立ちところに、目前に現るべし、旅客貨物は、爭ひて、此に集り、露國は、交通上、一の中心點となり、浦潮斯德・旅順大連灣は、益繁榮を來し、我日本海岸の要港敦賀も、亦大に影響を及ぼし、商業上、大變動を見るべし、西比利亞内地は、益移住民を增加し、開拓せられ、此大平原に、農產物は、續々生產し、鐵道の便によりて、東西に輸出せられんには、從來の農產國は、一大敵國を、爰に引き受るに至り、農商業上に於ても、決して軍事上に讓らざるべく、我國人は、今より覺悟して、一層注意せんことを要す。

樺太島は、サガレン島といふ、明治八年、我國より、露國に讓りし處にて、近海は、漁業甚だ盛なり。

參照　樺太島は、サガレン島といふ、西比利亞大陸の東南に位し、烏蘇里地方と、韃靼海峽を隔つ、其最も、狹き處を、間宮海峽と稱す、我德川幕府の時、常陸の偉人、間宮林藏が探檢して、發見したるによりて、此名あり、島中山多く、平地少く、氣候又酷烈なるを以て、耕作に適せざれども、全島有用の樹木を以て蔽はれ、石炭多く、河海の產物に富み、近年我漁船、此沿海に到り、魚漁をなすもの少からず、南端のコルサコフは、此島の要港にして、神戸及び函館より、定期船あり、住民は、露人あい半、及び我國人なり。

浦潮斯德は、大鐵道の終點に位し、東洋貿易の要港なり、近年我國と定期船の往來あり。

參照　浦潮斯德は、朝鮮に近き處にありて、日本海に臨み、人口三萬あり

わが函館より、四百二十四海里、近年定期の航路を開きたり、此地、元は、海參威と稱せしが、文久元年、露國の領地に入りてより、今の名に改めたるなり、當時輸出品の、最も主要なるものは、昆布にして、我國の產より品質劣等なれども、價の廉なるを以て、支那北方の用に供すること少からず。

本港は、露國絕東の貿易港にして、又軍港なり、其ウラジボストックなる語は、東方を雄鎭するの義なりといふ、されば陸には、鎭守府を置き、砲臺を築きて、哥索克兵を配置し、海には、義勇艦隊、露國西比利亞艦隊を浮べ、要害甚だ嚴重なり。

トルキスタンは、西、裏海に面し、多くは不毛の地なり、南は、英國領に近きが故に、守備甚だ嚴なり。

參照　トルキスタンは、西比利亞の西南部を占めたる、中央亞細亞の重なる地方なり、西烏拉爾山脈、及び裏海を隔てゝ、露西亞本國に隣す、南は、

高原にして、英領印度を見下す、形勝の地なり、厲、露、清、及び露英間に、境界の紛議ありしが、遂に露國に屬して、守備嚴重なり、全土沙漠多くして、住民は、主に土耳其人にて、皆遊牧の民なり、故に重なる產物は、馬、牛、羊、駱駝等の家畜なり、隙商は、駱駝の背によりて、貨物を運搬し、貿易を營む。

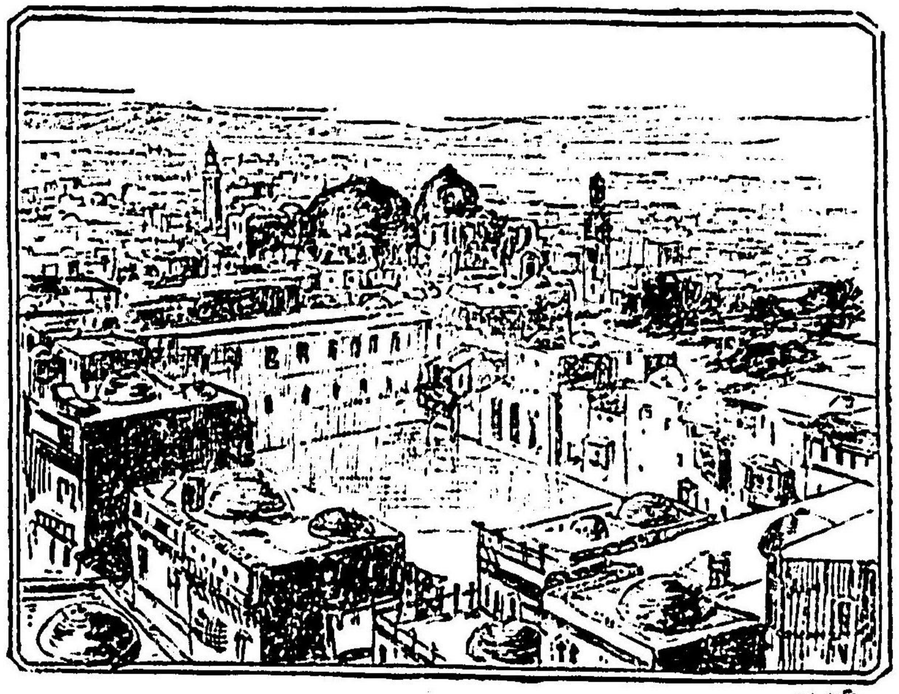
第十二課　イラン地方、亞細亞土耳其、アラビア

注意　此課に於ては、主として、イラン地方、亞細亞土耳其、アラビヤ、諸國の位置、氣候、產物、沿革、及び土地の狀態を授くるものとす。

特にペルシヤ、トルコ、アラビヤは、歐洲の開化に、大なる關係を有し、文學宗教、技藝、貿易等の因りて起る所を知らしむるを要す。

印度の西なる、アフガニスタン、ベルチスタン、ペルシアの三國を總稱して、イランと云ふ、氣候は、酷熱乾燥にして、寒暑の差甚し、

ゼルサレム



沙漠多し。産物は、家畜煙草果實等あり。

ペルチスタンは、英國に屬す。アフガニスタンには、王あれども、力弱くして、獨立を全うすること能はず。

ペルシア王は、テヘランに都す。人口二十一萬、國民は、農業を營み、又、工業を力むるものあり、昔

は、強大の國なりしかども、今は、衰へて、次第に露國に壓せらる。

イランの西を、亞細亞土耳其と云ふ、土耳其の領地なり、其東部メソポタミアの平野は、太古隆盛を極めたる、バビロン王國の舊土なり。是よりシリアの、ゼルサレムに入り、耶蘇の舊蹟を巡覽し、南の方アラビアに入る。

參照 東部メソポタミアの平野は、ユーフレチース、チグリス兩河の流域にして、水運流通の便に富み、氣候温暖にして、古來、世界肥沃の平原と稱せられ、歐洲の歴史に、人類の始めて生せし地方なりといふも宜なり、かゝる地勢を有し、水運交通の便に富める地方は、國の東西を問はず、開化の域に進むことの、第一若たるは、自然の勢なり。古バビロン國は、チグリス・ユーフレチース兩河の會合して、一となる地方に立ち、今を距ること

と、三千八百九十年前、已に、文化大に進み、深く天文に通し、建築に巧みに、又、絲形文字を作りて、之を用ひたりと云ふ。されば今猶ほ、昔時の繁榮を思想せしむべき、古跡到る處にあり。此の如き繁榮を極めたる、バビロン王國も、凡そ七百四十年の後の頃、元、其一殖民地たりし、ヂグリス上流のアッシリア、頓に勢力を得て、バビロンは、其亡ぼす所となり、アッシリアは、二千六百年前頃に至り、漸りに、近國を征服し、地中海紅海を越え、遠く、亞非利加の埃及に及ぼし、一時廣大なる版圖を有したりしが、統一の力乏しかりしかば、二千五百年前頃に至りて、遂に亡び、今や土地荒廢、人烟寥々として、旅客をして、懷古の情に堪へざらしむ。

シリアは、西の方地中海に瀕し、ゼルサレムといふは、猶太の首府にして、耶蘇誕生の地、及び墳墓等の靈蹟あり、耶蘇教徒の、此處に巡拜する者多く、特に、中古は、此等巡拜者の參詣多かりしに、回々教の國民の爲に、妨害

せられたりしかば、歐洲の人民、大に憤り、前後七回の遠征を企てたり、世之を稱して、十字軍と云ふ。かく宗教上、有名なる都會なれば、寺院の壯麗華美なるもの多し。圖は、ゼルサレム府の狀況を示すものなり。

アラビアは、沙漠多き高原にして、唯、海岸に狹き沃地あり、產物の名あるは、馬、駱駝、眞珠、護謨等とす。西岸に近き、メッカ、メヂナの兩府は、回々教の靈地にして、賽客多し、紅海の口にあるアデンは、英國に屬し、堅固なる砲臺あり。

參照　物產の馬は、古來有名の特產にして、アラビヤ馬の名、世に高し、駱駝は、沙漠の舟と稱し、貴重の產にして、沙漠の旅行には、必ず此による。形、馬より、稍大に、體瘦せ頭小さく、一見甚だ醜き獸なり。口は荊棘も食ふべく、胃は、一時に多量の水を飲みて、長く渴せざれば、沙漠の中を行くに便なり。此地方に飼ふ駱駝の數は、幾千万に至るを知らず。此國の人は、猶を

計るに、駱駝の數によるといふ、我等の日常用ふるアラビアゴムも此國の產物なり、其他、眞珠珈琲甘蔗果實を產す。

メッカは、マホメットの生れし處にして、寺院多く、此教徒の靈地として尊ぶ處なり、メヂナは、其死したる地にして、美麗の堂宇あり、今尙は、金銀を以て飾りたる鉄棺の內にマホメットの遺體を納め、三百の銀燈常にかがやけりといふ、マホメットは、今を距ること、千三百餘年前に生れ、四々教を唱へ大なる勢を得て、其宗旨を擴めしのみならず、同時に其教徒を、軍隊に組織し、東は、亞細亞の西南部より、西は、歐洲の南部、亞非利加の北部を征し、世界を振動したりしが、其盛世は、久しからず、數百年の後、教徒分裂し、權力、又昔の如くならずなりぬ。

猶太教と、耶蘇教とは、其本一なる宗教なり、昔、此徒に豫言者あり、嘗て救世主の降誕せんことを言へり、耶蘇の布教するに至り、之を救世主と信

したる教徒は、卽ち耶蘇教徒にして、耶蘇を救世主と認めずして、今猶ほ其の救世主を待つ者は、猶太教法なり、回々教は、耶蘇教と、主義を異にし、經文と、貴と、劒との三寶あり、必竟、貴劒の脅迫を以て、教を奉せよといふにあり。

亞丁は、英國の領地にして、東西往來の船舶、必ず寄港する處にして、我横濱よりは、六千七百海里あり。

第十三課　大洋洲總論

注意　此課に於ては、主に、大洋洲全體の位置、區分、氣候、產物、及び人種より、沿革に至るまでを授くるものとす。

太洋洲には、古來、我國人の往來せし島嶼あり、其方位は、我國の南に當りて、近きは、臺灣、小笠原島の南にあり、將來大に關係ある島嶼なれば、位置氣候、產物等の一斑を知らしめ、人種の性狀を說き、生存競爭上、野蠻人の

減少すべきことを知らしむるを要す。

大洋洲とは、太平洋中に、散在する、大小無數の島嶼と、濠太利（オーストラリア）大陸（亞細亞の東南洋中にあり、）とを總稱する名にして、分ちて、東印度群島、濠太利大陸、太平洋諸島の三部とす。

參照　大洋洲は、其區域、はなはだ廣くして、地球面積三分の一以上に、擴れりといへども、地積は、數多の島嶼を合はするも、六大洲の最下位にあり、此大洲は所謂我南洋諸島と云ふものにして、其位置我日本の南に當るを以てなり。

本洲は、殆ど、熱帶中にあるが故に、氣候炎熱にして、芭蕉棕櫚、椰樹、鳳梨等、鬱々として繁茂し、珈琲、煙草、甘蔗等の作物も、能く成熟す。動物には、猩々、鰐魚、琴鳥「エミウ」、「カンガルー」の類多く、頗る珍奇なる種類に富めども、猛獸は至りて少し、鑛物は、

多くの金と、錫、石油等とを產す。

參照　大洋洲は、概ね熱帶中に位するが故に、氣候炎熱にして、溫氣多く、產物には、熱帶植物、よく繁茂し、我小笠原島、臺灣の植物に類するものにて、芭蕉、棕櫚、椰樹、鳳梨等、其他、珈琲、煙草、小麥、綿、砂糖、果實の類、產出多く、動物には、猩々、鰐魚、琴鳥、エミウ、カンガルー等多く、特に、濠太利、大陸には、奇異なるもの多し、中にも、鼠に似て、長大なるユカリ樹の如きは、高さ二百五十尺、周圍二十尺以上に及ぶものあり、カンガルー、カモノハシ、エミウ、琴鳥、皆珍らしき動物なり、鑛物には、金、錫、石油等、最も名あり。

圖中、左の上方に拔き出づる植物は、椰樹にして、其下方、左にあるは、金合歡樹（アカシヤ）にして、右の方の大なる葉は、芭蕉なり、其左方は、グラスツリーといふ植物なり、左の方の、棒を持ちて立てるは、猩々にして、其右の鼠の如きものは、カンガルーなり、此獸は、大さ犬の如く、全體黝黑色にて、前肢甚だ

短く、後肢非常に長し、能く後肢のみにて跳び歩く、腹部中央に皮襞の凹入して、一種の袋をなし、兒を其中に容る、これ

此獸の胎兒は、未だ十分なる度に至らざる前に、已に早く分娩せらるゝが故にて、兒稍〻成長して、遊樂し得るに至りても、常に伴ひ、危害の兒に及ばんとする恐れあれば、直ちに、此の袋に收めて、逃走す、又之を袋鼠とも云ふ、造化の妙、また滑稽ならずや、此獸は、種類多く、繁殖も著しく、本島の獸類中、多分を占むるものなり、最も右に居る鳥は、鴕鳥にして、ダイヤ鳥とす、頗る美麗なる鳥にして、兩翼に綠色、黃色の長羽を生じ、更に無毛の二長羽を生じて、尾端に垂下す、孔雀に似たり、交尾期に至れば、雄鳥は、雌鳥の前に舞ふこと、甚だ巧なりと云ふ、只其音聲に至りては、同くに堪へず、其左は、エミウ、又火食鳥と云ふ、此鳥は、大さ六尺に達す、頭部裸出せず、走行駝鳥に異ならず、此鳥の頭の下に居る、小獸を、ハリモグラといふ、外觀ハリネズミに似て、短き棘を叢生し、物に恐るゝ時は、直に之を逆立て、其體を捲縮す、森林に棲み、昆蟲を常食とす、此獸は、卵生にして、腹部の皮

蠻にて野化せしむるなり。

ハリモグラの下方を、カモノハシといふ、體形と毛とは、全く水獺に似て小なり、口には、角鞘を被むれる嘴を有し、恰も鴨の嘴に似たり、趾もよく鴨に似て、蹼ありて游泳に便なり、河岸に穴居して、產卵し、蟲類を食とす牡の後趾には、距をも具ふといふ。

人種は、土地により、多少種類を異にすれども、土人は、概ね、馬來人種に屬す。此人種を、褐色人種とも云ひ、容貌は、亞細亞人種に近く、皮膚は褐色にして、脣厚く、性、愚鈍なり、彼等は、常に裸體にして、漁獵を業とし、處々に部落をなして、集合す。

參照　馬來人種は、褐色人種とも稱し、皮膚は褐色にして、銹銅色をなす、頭髮捲き縮み、脣厚く、鼻扁平に、容貌醜陋なり、丈高く、肉瘦せ、性愚鈍なり、腰部の外は、常に裸體にして、漁獵を業とす、陋劣のものに至りては、蜥蜴、蛇、草根、蚯蚓等を食とするといふ、皆野蠻の民にして、處々に部落をなし、酋長ありて、其部落を支配するものあり、然れども、歐米人の領地に屬して、其管轄を受くるもの少からず、かゝる野蠻人は、開明の人種、入込むに從ひて、自然生存競爭の理により、減少するものなること、北海道の土人の如く、今や、此等の土人の數も、頗る減少して、僅に五六萬に過ぎざるに至れり、早晩滅盡を免れざること、知るべきなり。

本洲は、皆、歐米諸國の領地にして、獨立せるものなし、其中、最も早く開けたりしは、東印度群島にして、濠洲大陸は、漸く、近代に至りて、開拓せられたり。

參照　本洲は、一千七百八十八年、歐羅巴人、漸く此地に移住し、現今に至りては、四百萬の多きに達し、陸に海に盛に富源を開拓せり、特に濠太利の如きは、二百年前頃、英國政府の流罪人の配所なりしに、七十年以來、漸

く其民の移住者を生じ、四十年來、金鑛の發見ありしより、頓に繁昌を加へ、我國よりも定期航海を開くに至れり。

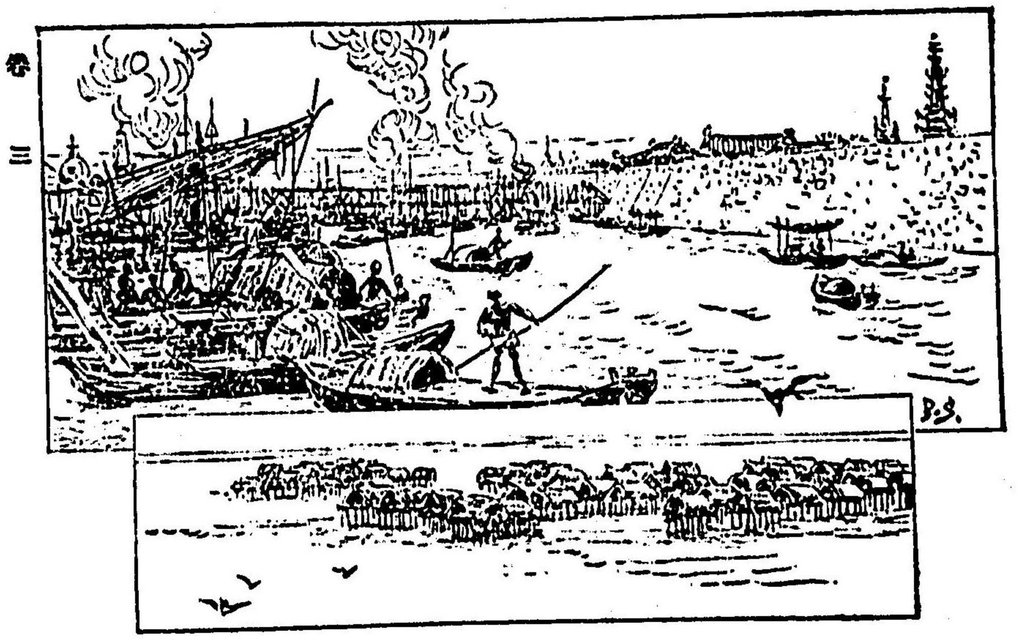
第十四課　東印度群島

注意　此課に於ては、主に東印度群島、即ち、比律賓群島・スンダ列島の位置・區分より氣候・風俗・產物・首府及び交通貿易等を授くるものとす。

赤道の風位の變ずるによりて、定期の颶風あることを說き、航行の難路なることを知らしめ、殊に、マニラは、我臺灣に近く、烟草・砂糖の輸出落しきを說くに注意すべし。

香港を發して、東南に進まば、ルゾン島のマニラに著すべし。此島の南に、大小數多の島嶼あり、之を總稱して、東印度群島といひ、分ちて、比律賓群島・スンダ列島の二とす、熱帶にあるが故は、氣候炎熱なり。

マニラ　ポルネオノ水上生活



比律賓群島は、ルゾン・ミンダナオ等の群島より成る。以前は、西班牙の領地なりしが、數年前より、北米合衆國に屬せり。產物は、砂糖・煙草・珈琲・麻等あり、就中、砂糖、及びマニラ煙草は、最も、著名にして、年々、我國に輸入する者多し、首府マニラは、ルゾン島の南部にありて、群島第一の良港なり。

參照　比律賓群島は、概ね火山質に屬し、屢〻地震の災あり、河流又少からず、其河城は漕流運輸の便に富み、稻田・甘蔗の畑等、多くあり。

產物は煙草を以て、島中の第一の產とし、マニラ煙草と稱す、其卷煙草は、政府の專賣に屬し製出甚だ盛にして、世界各國に輸出す、其他、マニラ麻、及び砂糖・珈琲等最も名あり、年々我國に輸入する者多し。

首府マニラは、ルゾン島の、西南海岸、マニラ灣頭にあり、人口十六萬、貿易の中心點にして、諸島の產物を集送する要港なり、我國へも煙草・砂糖等を輸出す、此港は、香港を距ること、東南六百三十海里にあり、元西班牙の總督駐在して、群島を管轄せしが、數年前、島民獨立の旗旗を翻し、米・西戰爭となる、圖中の上方は、マニラ港にして、前方に浮べるは島民の船なり。

スンダ列島は、ジャバ・スマトラ・ボルネオ・セレベスの四大島と、數多の小島とより成り、大部は、和蘭に屬す、產物は、米・珈琲・

砂糖・藍・煙草等あり、又、スマトラ石油・ボルネオの金等も、其名高し。

首府バタビアは、ジャバ島西北岸にありて、東印度總督府の所在地たり。人口十五萬、是より、汽車に乘りて、東方に進めば、スーラバヤ港あり、列島の中、第一の都會にして、商業盛なり、是より木曜島濠洲大陸の北端、ヨーク岬北にあり、の眞珠採取業を見て、濠洲大陸に向ふ。

參照　圖中の下方は、ボルネオの首府、ボルネオの水上生活の狀にして人口三萬、流に沿ひて、河上に筏を組み、家屋を、其上に造る、街衢は、溝を通じ、小舟を以て、相往來す、其色佳絕の一奇府なり。

木曜島は、濠洲大陸の東部なる、北端のヨーク岬の北にある、小島なり、スーラバヤ港より、一直線に、殆と正東に當る、眞珠採集業に從事せる、本邦

人一千餘人あり。

第十五課　濠太利大陸

注意　此課に於ては、主に、濠太利大陸の位置・區分より、地勢・氣候・物産、及び沿革都府を授け、合せて、ニウジランドの大略を授くるものとす。

土地の大なるに比して、荒地多きが故に、人口少く、且つ、海岸線少く、港灣に乏しきを以て、文明を輸入すること難く、久しく孤界たりしことを說き、又牧畜盛にして、羊毛の產出多く、又金は、世界の主位を占め、我國との貿易は、日に盛大に赴くことを、知らしむるに注意すべし。

濠太利は、印度洋の東部にある、大陸にして、其面積は、五大陸（亞細亞・歐羅巴・亞弗利加・南北亞米利加・濠太利大陸）中、最も小にして、人口亦少し。

參照　濠太利大陸の面積は、二百九十四萬方里、殆と歐洲の五分の四にして、我國の十八倍に當れり、然れとも、五大陸中にありては、最も小にして、人口も亦少く三百五十萬許なり、全土を區分して五州とせり。

海岸は、屈曲少く、港灣に乏し、周圍には、山脈多く、內地は、一般に高原をなす。

氣候は、炎熱乾燥にして、河少く、處々に沙漠あり、大河と云ふべきは、唯ムアレー河あるのみ、但し、南と東との海岸は、溫和にして、地味肥え、農業・牧畜盛なり、殊に、羊毛の產出、世界に比なく、我國にも輸入す、砂金の採取亦盛なり。

參照　氣候は、土地の廣大なると、地勢により、寒暖・雨量間しからず、北半部は、溫帶に入り、中央部は、沙漠あり、雨寡く、炎熱酷しくして、乾燥なり、東南部は、熱帶に入り、雨量も少からず、溫和にして、最も健康に適し、本洲の樂土たり。

土地磽确にして、降雨少なく、只東南部、地味肥え、農產は、小麥を最とし、玉

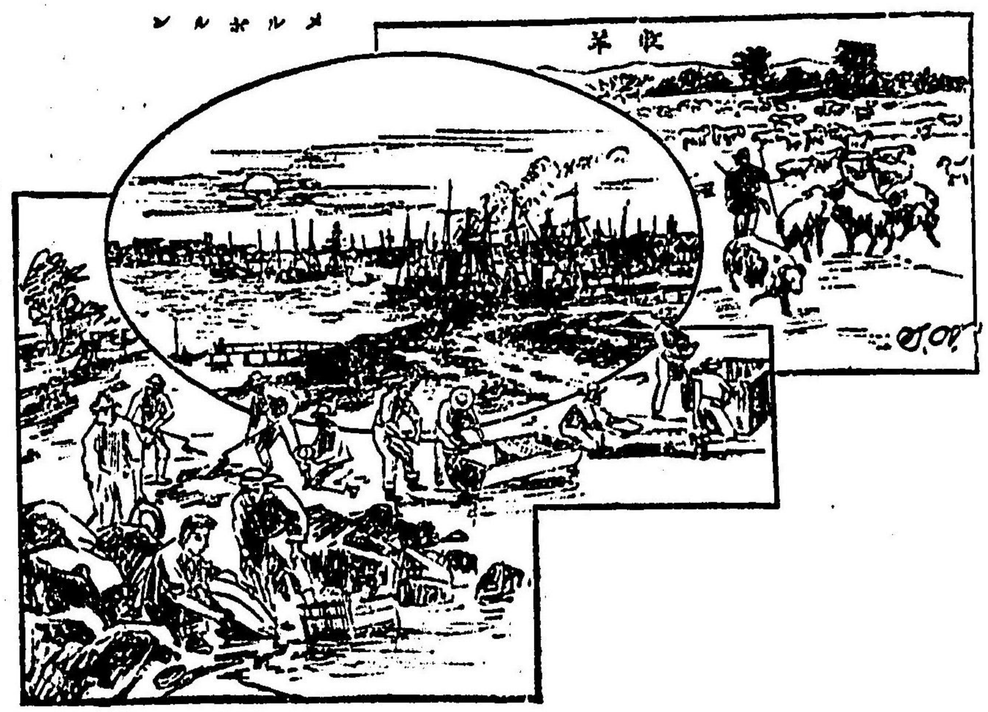
蜀黍砂糖煙草等あり、其他の植物は、ユーカリ(護謨樹)アカシア(金合歡樹)の巨大なるものあれども、密林をなさず、動物は、カンガルー、カモノハシ、エミウ、ライア鳥等ありて、猛獸なし。家畜は、羊牛馬ありて、牧畜盛なり。

本土は、鑛物を主として、羊毛之に次ぐ、就中、金は、北米合衆國と伯仲して、世界に一二を爭ふ。銀は、カルゴルリヤに次ぐ。石炭の產額、一千萬噸(一噸は、二百七十貫九百五十匁)の巨額に上れり、羊毛の輸出、夥しく、年々五千六七百萬圓に達し、世界第一なり。我國に輸出するものも、頗る多し、牛馬又少からず。

此地は、英國の殖民地となりし以來、俄に發達して、現今の如く、繁榮の地となれり。

參照 圖中、右方に群羊の居るは、牧場の處なり。左方の下部は、砂金採取の有樣にして、左方は、數多の人夫、砂金を含める、岩砂を採掘する狀にして、之を水と共に器に投じて攪拌すれば、金の比重重きが爲に、器底に沈み、砂は、上層に集るべし、其上層の砂を排斥して、再三再四、繰返して淘汰するときは、遂に器底に金を殘すに至る。前方にて、鉢を以て水を注げる狀をなすものは、砂金を淘汰する所なり。

此地の人民は、元、濠太利人と稱する、一種の黑人にし、



砂金を採取す

て、中には蛇蛙等を食とし、甚しきは、己が子さへも食ふものありしが、英國の殖民地となりしより以來、生存競爭上、優者生存の理により、土人の數は、大に減じ、漸次絶滅の傾きあると同時に、土地俄に發達して、現今益、繁榮の地となれり。

我等は、木曜島より、ブリスベーン（人口五萬餘）を經て、シドニー港（人口四十二萬）に上陸し、汽車に乘りて、南に進めば、メルボルン府（人口四十五萬）に出づ、府は、此大陸の首府にして、又、本洲第一の都會なり。近時日本郵船會社は、此地と定期航海を始めしより、彼我の貿易、日に盛なり。

參照　ブリスベーンは、大陸の東北部を占めたる、クインスランドの首府にして、東南海濱にあり、本洲碧山の麓は、綠草茂りて、牧場に適せり、海上に珊瑚礁あり。

シドニーは、ニューサウスウイルス州の東海中央にあり、ジャクソン灣に臨み、碧山を負ひ、世界美府の一に數へられ、本土最盛の都會にして、メルボルンに次ぐ。

メルボルンは、本陸の東南部にある、ヴイクトリア州の南岸にあり、橫濱を距る、五千八十浬、南洋第一の大都會なり、此府は、印度、歐洲諸國との、汽船の交通頻繁なるが上に、日米間の汽船、茲に寄港するもの多きに至りたれば、將來益、繁昌を加へんとす。

大陸の東南に、一千哩ニューシーランドあり、氣候溫和なるが故に、年々移住するもの多し。

參照　ニューシーランドは、南北の二大島あり、火山質の山脈兩島を連貫し、森林に富み、河は大ならざれども、運輸灌漑の便あり、氣候溫和にして、健康に適し、地味肥え、產物豐なり、羊は、重要產にして、牛馬も亦多し、金

石油石炭等の鑛物を產出し、又、木材多し、人種は、元獰猛にして、鬪爭を好み、人肉を喰ふの風習あり、身體容貌、馬來人よりも、寧ろ白人に近く、身幹長大、英敏の資に富み、彫刻は、其得意とする所なり、英人クック氏、此島を發見せし頃は、二十萬人と稱せしが、今は、僅に四萬に過ぎず、漸々絕滅せんとする傾きあり。

第十六課　太平洋諸島

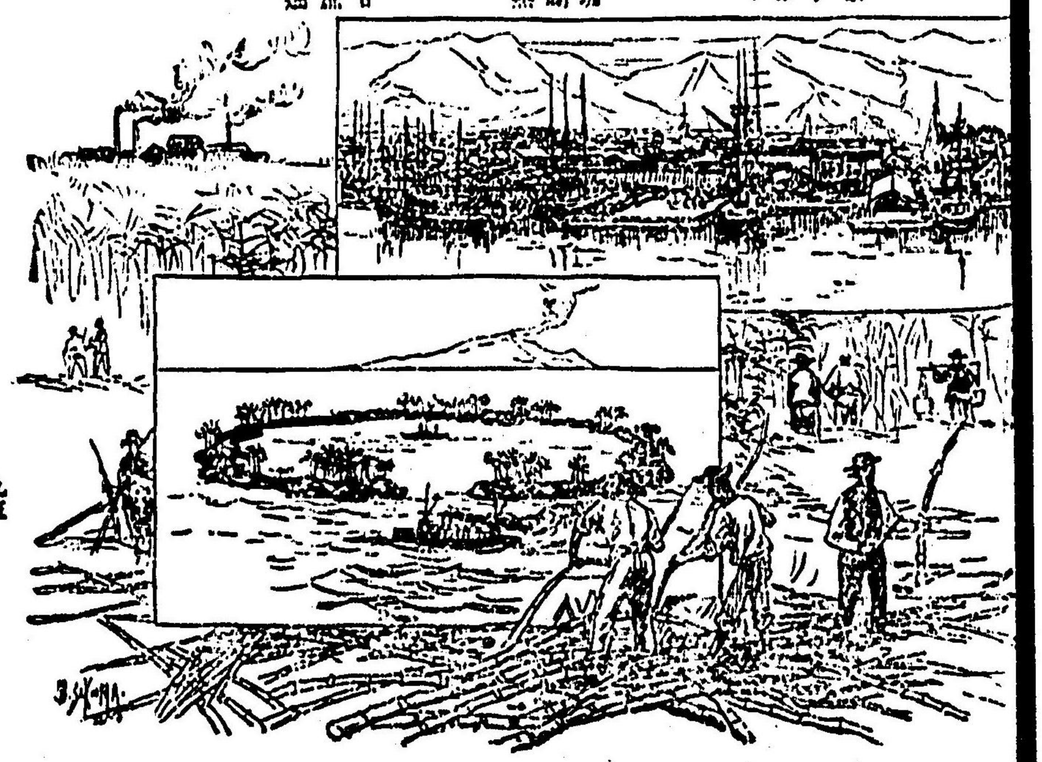
注意　此課に於ては、主に太平洋諸島中、パプア、フィージー、布哇等の皿なる島々につきて、地勢、氣候、物產、生業、交通等を授くるものとす。布哇は我國出稼人の、多く居る島なるを以て、位置、氣候より、土地の狀態を說くに注意すべし、又、洋上の群島は、珊瑚島、多きを以て、其狀態を知らしむるを要す。

太平洋諸島とは、太平洋中に、散在する、無數の島嶼を、總稱せ

るものなり、其主なる島は、パプア、フィージー、布哇の三島にして、其他、ラドロン、カロリン、ルソン、共にパプアの正北方、サモアフィージーの東北、なども、稍、名あり。

パプアは、世界第一の大島にして、蘭、英、獨の三國に分屬す。

參照　パプアは、ボルネオ島の北なる、一大島にして、ニューギニヤといふ、世界三大島の第



一に數へられ、(パプア・ボルネオ・マダカスカル)面積五萬餘方里、殆ど我國に二倍せり。全島山岳多く、特に、東南に高山を現出し、その高さ一萬八千尺に達するものあり、山には多く、樹木繁茂せり。附近の諸群島と共に、多く火山質の構造にして、我日本の富士嶽に連り、地震多し。この地位は熱帶中にあれども、海風の調和によりて、海岸の地方は、甚だ炎熱ならず、降雨も多量なり。有名の良材を出し、美毛の鳥類多し、農產物は、烟草甘蔗等類なり。此島は、英・獨・蘭の三國に分屬す。即ち西半は、和蘭領にして、北東部は、獨逸領、南東部は、英領に屬す。住民は、パプア黑人種にして、頑陋の野民なり。

フィージー島は、英國に屬し、甚だ小き島なれども、地味肥沃にして、草木繁茂し、產物多し。

參照　フィージー群島は、パプアの東方より、少く南の海上にあり、米・亞・

濠三洲を往來する英・米船の寄港する處にして、サンドウヰッチと共に、大洋中の二中心と稱せられ、最も近く英國の占領せる群島あり。

此邊の海上には、珊瑚礁といへる奇異なる小島多し。布哇は、もと、王國なりしが、今は、北米合衆國の一部となれり。生業は、農を主とし、甘蔗の栽培盛なり。本邦出稼人の、此地に住移して、勞働するもの甚だ多し。首府ホノルルは、東西交通の要衝に當り、繁華なる港なり。

參照　布哇群島は、大洋洲中、遠く東北に離れ、又、サンドウヰッチ群島ともいふ、大小數多の島嶼連りて、東西に延ぶ廣さ我北海道より稍、大なり。群島中の最大なる島を布哇といふ。故に我國人は、之を凡稱して、單に布哇と云ふ。米國桑港より西南、大凡二千浬にあり。此群島は、火山質にして、山岳多く、特に布哇島には、數多の活火山あり、其最高峯をマウナロ山とい

ふ、高さ一萬三千尺ありて、山頂常に烟を吐けり、氣候は熱帶中にあれども涼風常に吹き渡るを以て、頗に苦熱を覺えず、夏は略ぼ我東京に同じく、四時温和にして全年恰も春の如し、これ北極より流れ來る海底寒流、此群島附近に於て、海面に浮出するによるをいふ、各島地味肥沃にして、草木よく繁茂し、牧羊製糖甚だ盛なり、就中甘蔗の栽培、頗る盛にして、他國のものに勝れて肥大なり、目下製糖所百箇所の多きに至れり、

此地は、今より百餘年前、英人クック氏發見の時には、土人の棲息せし者、二十萬人ありしかど、他國人の移住するに從ひ、漸く其數を減じ、當時住民、十萬餘の内、純粹の土人は、僅に三萬餘人に過ぎず、

他は外國の移住、又出稼人なり、我國人も、明治十八年以來、出稼人多く渡航し、其數三萬に近し、實に我海外移民の過半を占めたり、これ此群島は元、獨立王國にして、我條約國なりき、國王嘗て移民を招き、物産貿易を盛

大にせんと欲し、特に我國人を歓迎せり、而るに此地移民の中に、米人の勢力最も強く、彼等は、遂に我明治二十六年に、革命を起して、君主を廢し、共和政府を建てしが、三十一年、遂に米國の承諾を經て、合併して、藩となせり、

此地、近來非常の進歩をなし、鐵道電話の便を見るに至れり、特に教育治く行はれ、六十歳以上の老人を除けば、概ぬ普通の讀書をなし得べしといふ、又近時新聞紙發行の舉あり、殆と歐米諸國の開化を、此南洋孤島に見る想ありといふ、

首府ホノルヽは、群島中、第二の大なる、オアフー島にあり、ポリネシア群島中、第一の大都會にして、人口三萬餘あり、港内水深く、灣廣く、一百艘の商船を泊せしむべし、市街には、人道車道の別を設け、電燈電話の設けあり、商賈堂を列ねて、繁華なり、假王室諸官衙等あり、我領事館亦此にあり、

我横濱よりは、定期の航海ありて、此航程三千四百浬、米國桑港よりは、二千浬あり、汽船日・米航行の際、常に寄港する處なり。

圖中、上方にあるは、ホノルル港にして、各國の船舶、其埠頭に碇泊せる狀なり、其下は、珊瑚礁上に、椰子の繁茂せし中に、島民の小舟あり、外には、汽船の走るあり、最も下方より、上圖の周りは、或は甘蔗を刈り、或は其葉を落す狀にして、遠く左の上方にあるは、製糖所の煙筒なり。

第十七課　歐羅巴洲總論

注意　此課に於ては、主として、歐羅巴洲の位置・面積・海岸・地勢・河流等を授くるものとす。

本洲は、六大洲中、大洋洲より稍、大なるに過ぎざれど、海岸線の長きことは、其第一に居り、從て交通便益にして、文化輸入の門戸開け、河流深く内地より注ぎ出で、是れ亦交通を便ならしめ、以て世界文明の中心たらしむる、一原因なることを脱き、明すに注意すべし。

歐羅巴洲は、亞細亞の西より、半島狀に突き出でたる、大陸にして、面積は、六十三万方里、六大中洲、最も小なり。（實は大洋洲より稍、大なり）海岸は、出入多く、半島・港灣・錯綜して、交通の便なること、他に其類を見ず、是れ實に、本洲の文明を促したる所以にして、北には、スカンヂナビア半島突出して、バルナック海を抱き、南には、バルカン・伊太利・イベリアの三大半島ありて、地中海に突出せり。

西方は、土地狹く、高地多けれども、東方は、廣くして、沃沃たる低地をなす、西方高地は、アルプス山塊を、中心として、カアパシアン、アペナイン等、數多の山に連る、北方には、別にキオレン山脈ありて、スカンヂナビア半島の脊骨をなせり。

參照　西南部の山地との境をなす、一列の山系をアルプス山系とす、最も高峻にして、高さ、我富士山に過ぐ、脈中のモンブラン山一萬五千八百尺は歐洲第一の高峯たり、此脈を中心として、東に走り、カアパシアン山脈となり、遂に黑海に中絶し、再びクリミヤ半島、高加索山脈となり、茲に歐洲全土の脊梁山脈となり、此より岐れて、アペナイン山脈となり、地中海に突出し、伊太利半島の脊梁骨をなす、バルカン山脈、又、東に分岐して、南方土耳其の境に蟠る。

河流の大なるものは、ボルガ・九百里、ダニウブ・七百里、ライン・三百六十里、ロアル等あり。ダニウブ、及びライン河は、歷史上、最も著名の大河にして、運輸灌漑の利多し。

第十八課　歐羅巴洲總論二

注意　此課に於ては、主として、歐羅巴の氣候、產物、人種より、文化の狀態を授くるものとす。

本洲西部沿海地方は、洋流の調和によりて、歐洲中、人事の最も繁榮を來し、產物中、鑛物に富かなるは、歐洲今日の富源をなし、地形の變化は、氣候產物に關係し、從て人種に及び以て文明の源因たることを說くに注意すべし。

本洲は、溫帶に位して、海岸の出入多く、大西洋の暖流を受くるが故に、氣候溫和なり。但し東部は、亞細亞大陸に接し、夏冬により、寒暑の差、頗る大なり。

參照　本洲の氣候は、概ね溫帶中にあれとも、北は寒帶に入り、南は熱帶に近づき、其地勢により、各地の氣候、亦同じからず、然れとも、他の同緯度の地方に比すれば、大に暖かなり、卽ち脊梁山脈以南は、北山脈、北方の寒氣を遮り、南方亞弗利加の沙漠地方より吹き來る、熱風を受け、溫暖に、或

は熱帶の氣候を帶ぶる所あり、西部は、墨西其洋流の來りて、海岸を流ひ、其調和を蒙り、輕寒輕暖の好氣候、大に人事の繁榮に恩惠を與ふものなり、以上兩部は、雨量亦多し、東部は、寒暑共に強く、特に、寒氣は、甚だ烈しく、雨量少し、北部の東半は、寒氣凜々として、人生に適せざる所あれども、西半沿海は、洋流の感化を被り、和蘭の如きは、我千島と同緯度なるにも拘らず、氣候は、我仙臺地方に異ならず。

植物には、葡萄、甜菜、穀類、木材あり、動物は、猛獸、奇禽少けれども、有用の家禽、家畜多く、鑛産は、本洲の最大富源にして、夥多の鐵、石炭、岩鹽等を産す。

參照　動植物は、概ね温帶に産する種類にして、我國に産するものと、大差なし、植物には、南部の地中海灣は、温暖濕潤なるを以て、綿、橄欖、甘藷、桑等の、熱地の産あり、中部には、葡萄、穀類、特に麥類、馬鈴薯等を産し、其産額

は、六大洲中の第一にして、甜菜、麻類、木材亦夥し、北部は、氣候寒冷なるを以て、植物次第に減じ、北氷洋沿岸の地は、僅に短少の楊柳及、苔蘚の類を生ずるのみ、動物には、有用の家畜多く繁殖し、即ち馬は、獨露産にして、牛は、西部地方に産し、牛酪、乾酪の製出夥しく、羊豚の飼養盛に、羊皮の産出多く、北部は、馴鹿を産し、寒地に使用す、鑛産は、歐洲今日の富源にして、殊に現今の必要品なり、鐵、石炭の二鑛は、其産額巨大にして、又、岩鹽を産す。此の如く、種々の産物に豐かなるに、地狹く、人口多きを以て、商工の業盛に行はれ、到る處、繁華の都會港市あり、鐵道溝渠は、各市港を連ね、千里も、猶比隣の如し、特に、英佛等の工業地は、幾萬の煙突林立し、吐煙空を蔽ひ、晴天猶濛々として、清朗なる天空を見難しといふ、されば世界の富みも、多く此等の諸國に吸收せられ、國内富豪甚だ多く、生活に豪奢を極むるもの多し。

本洲は、土地狹けれども、人口甚だ稠密にして、總數四億に上り、六大洲中の第二に位す。其人種は、僅少の亞細亞人種を除けば、他は、皆、歐羅巴人種なり、此人種は、皮膚白きが故に、白色人種とも云ふ、身體强壯にして、丈高く、毛髮褐色にして、瞳碧し、彼等は、概ね基督教を信奉す。

本洲は、世界文明の中心にして、學問・技藝の進歩は、實に造化の妙を凌ぎ、人生有

歐羅巴人

用の事業、一として開けざるはなく、政治整ひ、風俗高尚なり。

我等は順を逐ひて、諸國を遍歷し、文化の實相を觀察すべし。

參照 歐洲は、世界文明の中心なり、其文明は、主として、白色人種の發達せしめたる所にかゝり、其勢力の及ぶ所は、啻に歐洲のみならず、世界各國、皆其餘澤を蒙らざるはなし、抑も歐洲の大陸は、已に述ぶる如く、地質地形の變化大なるを以て、從て其職業も、亦種々あるの理なり、故に地方によりて、農業もあり、牧畜もあり、或は商工業あり、或は航海業あり、五に其業を努め、我等が今日便とする、汽車汽船を始め、無形の科學に至る迄、學術・技藝の進歩世界に其比を見ず、隨て其邦國、多く富强にして、就中英・獨・佛・伊・墺・露を、歐洲の六大强國と稱し、遂に各洲に領地を求め、人民を移住せしむるに至る、英國之が最たり、佛國之に次ぐ、歐洲人の、他洲に移住する、當初より、今日に至り、凡そ三億五千人に餘る、是等の富强を致すも

のは白色人種なり、是れ此人種の剛毅にして、思慮に富み、自由を喜び、著實に業を勉むる所以なり、右六大強國の內、獨り墺國の勢、近來振はざる所以のものは、是れ白色人種のみにあらずして、他の雜駁の人種あるが爲に、之が主たる源因をなすにありといふ。

第十九課　バルカン半島諸國

注意　此課に於ては、主にバルカン半島諸國、特に希臘の位置區分、及び地勢沿革都府等を授くるものとす。

特に希臘は、海岸屈曲多く、交通の便甚だ多く、地勢文明の發達に適し、其建國も遠く、歐洲文化の先驅たる以て注意すべきなり。

我等は、紅海より、スエス運河を過ぎ、地中海を横ぎりて、希臘王國に上陸す。此地は、地中海に突出せる小半島にして、海岸は出入極て多く、商業盛なり。希臘は、二千年前、夙に文明に進

み、歐洲文化の先驅をなしたる國にて、其首府アゼンス（人口十一萬餘）には、昔時の遺物たる、建築彫刻等の見るべきもの多し。

參照　希臘は、我北海道よりも稍小なり、其海岸は、岬灣の出入多く、近海には、數多の島嶼、點々星羅して、其間、呼べば、將に應ひんとす、其東方を、多島海と稱するもの、蓋し之に基くなるべし、されば地勢は、海運交通の便甚だ多く、最も文明の發達に適し、氣候は、環海國なれば、海風の調和により、溫和爽快にして、二百四十萬餘の民族あり、其氣質、敏捷怜悧、南方人種の特質として、稍輕佻の風あれども、古より美術文學の思想に富み、海事を喜び、航海商業に長じ、從て商業盛にして、黑海西部、地中海の貿易は、專ら此國人の營む所たり。

希臘は、歐洲の祖國にして、我神武天皇の朝に當りて、已に文明の域に進み、建築彫刻の美、文學理學の粹、收めて其手にあり、四隣發野の時に於て、

此國獨り赫々たる光明を放ちたりき、實に歐洲文化の源泉として、今猶ほ遙はるゝのみならず、印度に入りて、我奈良の美術にも波及せりといへり、然るに星移り物變り、國勢漸々振はず、内憂外患相ひに至り、後、土耳其の爲に征服せられたれども、國人古の赫々たる歴史を、念頭に忘るゝ能はず、屢、恢復を謀り、叛旗を翻しゝかども、あはれ其志望を遂ずることを得ずして、其壓制に服すること、數百年、今値に、英佛露等の援助により、其羈絆を脱し、獨立の王國となれり。

首府アセンスは、南希臘、東部の海岸にあり、海濱を去る二里、美麗なる小都會なり、此府は、今を去ること二千五百年前の舊都府にして、其昔は、文明の中心と仰がれ、文學美術の、最も盛なる地として、此と技術を爭ふものなかりき、彼有名なる彫刻家、フイヂアスの如き、此時代の人なり、哲學の祖なる、ソクラテス、歴山王の師なる、碩學アリストートルの如き人、多く出でたり、されば、今尚ほ有名なる古蹟多く、郊外アクロポリス丘山なる、神殿の如き、今や頽廢して、舊觀を尋ぬるに由なしといへども、昔時にありては、奥行四十間、間口十七間、高さ十一間、大理石を以て造り、其建築彫刻の高雅莊嚴、古今獨歩と稱せらる。

希臘を出でて、北の方土耳其に入る、土耳其人は、亞細亞人種に屬す、嘗て、強大なる帝國を建てたりしが、今は、國勢衰へて、領土大に縮まれり。

土耳其人の風俗は、他の歐洲諸國の風俗とは趣を異にし、却て西部亞細亞の風俗に等し、著るに寛濶なる衣服を以てし、頭に紅帽を蒙り、(軍隊は勇敢にして、土耳其の赤帽、夙に名あり)或は布を纏ふ、婦人は、外被を垂れ面を現はすを恥づ、上下の分、至て嚴なり、人口四百七十八萬あり、皇帝はサルタと稱し、回回教を信奉し、教祖、マホメットの教訓を守り、政治をな

す、此國は、往時、オスマン、土耳其小亞細亞に起り、我、後花園天皇の頃、コンスタンチノープルを陷れ、遂に東羅馬帝國を滅ぼし、漸く強大なる帝國を建てたりしが、露國に破られ、これより、土地を蠶食せられ、領内獨立する國あり。

北方のモンテネグロ・セルビア・ルーマニアの三國は、以前其領地なりしが、近年、本國よりそむきて、獨立國となれり。

土耳其の首府、コンスタンチノープル（人口九十萬）は、黑海の咽喉に當る、要地にして、東方貿易の中心たり。府内には、有名なるセントソヒアの寺院あり、是より黑海を渡りて、露西亞のオデッサ港に上陸す。

參照　コンスタンチノープルは、土耳其の首府にして、ボスポラス海峽に臨み、黑海と、マルモラ海の咽喉を扼し、商業上、軍事上、重要の位置を占む、世界屈指の大都にして、人家綠樹と參差し、且つ、丘陵は府の内外に起伏し、寺院、堂塔、其頂に列せり、屋蓋皆圓形にして、笠の如し、就中國王の宮殿、宗廟の如きは、結構壯麗、金碧眼を眩す、遠く之を望めば、市街の壯觀、驚くべしと雖も、近づきて之を見れば、市街は、不潔にして、人民は、貧窶なり。此府は、往時、東羅馬帝國の首府として、將た世界商業の中心として、皆て繁榮無比の大都なりき。

コンスタンチノープル

國中、高く筍子の如く聳ゆるものは、長尖塔にして、前面に群集するは、土耳其人の風俗を示したるものにして、紅帽を被り、或は布を纏ひたる樣なり。

第二十課　露西亞帝國

注意　此課に於ては、主として、露西亞帝國の位置・地勢・氣候・物産・國力・都府等を授くるものとす。

露西亞は、我國と、近來非常の關係を有つに至れるを以て、商業上につき、又、軍事上につきて、地勢・氣候・物産等を說き、特に、國力につき、兵力の如何、東洋の經營如何、過去・將來の關係を充分に知らしむることに注意すべし。

露西亞は、本洲東部の大國なり、國中は概ね平野にして、大河縱横に通じ、運輸灌漑の利、甚だ多し。

氣候は、寒暑共に酷しくして、中和を缺けども、田野廣きが故に、穀物の産出いと多し、其他、木材・金・石炭等も、著名の産物なり、南部の石油坑は、産出夥しく、我國に輸入するもの、頗る多し。

此國は、世界屈指の强國にして、其領地は、世界の六分一を有し、九十萬の陸軍と、百五十艘の軍艦とを備へて、宇内に雄視す、近年、頻に、東洋に於ける經營に力むるより、我國との關係、甚だ密なるに至れり。

オデッサ（人口四十萬）より、汽車に乘りて、モスコー（人口九十萬）に到る、露國の舊都にして、宏壯なる寺院多く、商業亦盛なり。

參照　露國は、昔時、韃靼人に征服せられて、其苦しむる所となり、全く歐洲諸國の伍に列することを得ざりしが、我足利時代に至りて、アイバン

大帝出でて、韃靼人を征服して、國を立てしが、後元祿時代に至り、英明なるペートル帝出で、親ら西歐に微行して、文明を輸入し、密彼得堡の軍事上、通商上の要地なるを察して、モスコー府より、都を此地に移し、又其土地の大なるも、海岸少く、諸海國に攻め包まるゝことを憂ひて、北は瑞典を攻め破りて、黑海沿岸を侵略し、東は、東察加、千島に及び、其後、露、墺、普の三國と同盟して、波蘭王國の衰微に乘じ、我寛政七年、之を分割して其國を呑噬し、歴史上に慘酷比なしと歌はるゝが如く、貪欲を逞うして、茲に始めて、歐洲列國に伍するを得たり。此の如く、僅々二百年來の新進國なれども、其勢旭日の登るが如く、世界屈指の強大國となり、露領亞細亞を合すれば、全面積、八百六十六萬方哩あり、世界陸地の六分一を占め、今や英國と拮抗するに至れり。常備軍、大凡九十萬、戰時には、大凡三百五十萬、馬匹五十八萬頭、大砲五千三百門以上を出す制なり。海軍は、バルチック艦

隊、黑海艦隊を始め、百餘艘の軍艦を有し、今尚ほ頻りに增加せり。

特に、晩近、力を東洋の經營に用ひ、我北海道の對岸、浦潮斯德を以て、西比利亞艦隊、東洋艦隊、義勇艦隊の定繫場となし、陸上に勇悍なるコサック兵を配置し、支那朝鮮に向ひて、頗る劃策する所あり。此國は、我國とは、非常の關係を有し、安政五年に條約を締盟し、明治八年には樺太と千島との交換を行ひ、明治二十八年、日清戰爭の末、清國の遼東半島を、我に入るるや、東洋の平和に害ありとし、獨、佛と同盟して、其還附を忠告し、遂に自ら大連灣、旅順口を支那より借り、冬季軍艦の定繫場に充てたり。尚ほ、年來の經營にかゝる、西比利亞大鐵道も、大に其歩を進めたり。此の如く、隣國の政略、益、東洋に勢力を加へんとするに汲々たるを以て、其志望を遂する、蓋し遠きにあらざるべし。特に萬國平和會議を發議し、各國の發同を得たるにも拘はらず、益、軍備の擴張に怠らざるなり。されば我等國民

ロシアの田舍　聖彼得堡府

たる者は、國勢上、既往を顧み、將來を慮りて、銳意之に向て、大整備なかるべからざるなり。

是より北に進みて、首府聖彼得堡（セントペテルスブルク）に入る。府はネバ河口に跨り、彼得（ピヨートル）大帝の創建せし處にて、人口百三十萬（倫敦、巴里、伯林、維也納）の大都會なり。

我公使館あり。

參照　聖彼得堡は、二百年前まで寂寥たる沼澤なりしが、ピートル大帝、都を此地に創設し、モスコーより、人民を移せり。今や、人口百三十餘萬に達し、宮殿官衙壯麗を極め、又ピーター大帝の宏大なる銅像あり。冬季は、河水氷結して、航路全く杜絶すれども、夏季は、大船輻湊す。海口のクロンスタットは、砲臺を設けて、其咽喉を扼し、堅固世界無比と稱す。往年英・墺の同盟軍も、之を衝くこと能はざりきといふ。此地より、モスコー府に、十餘時間にて、達すべき鐵道あり。

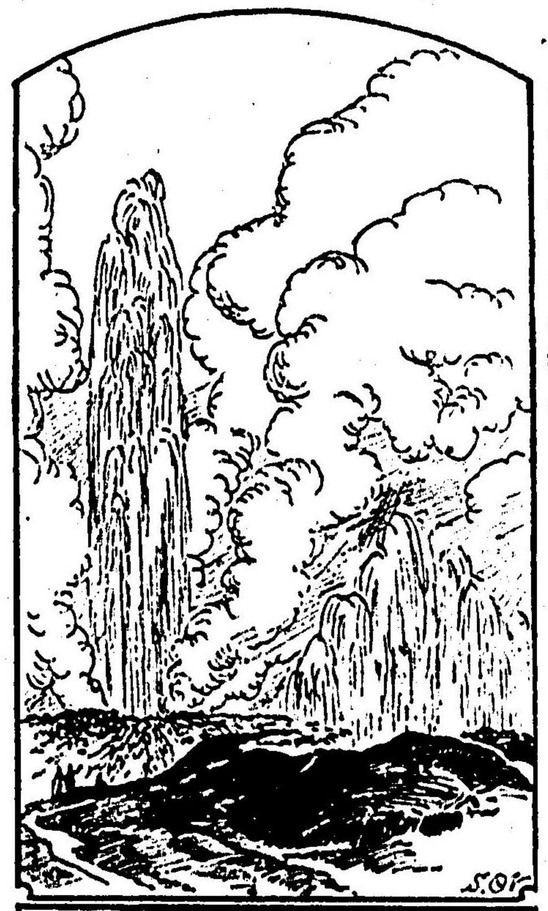
圖は、聖彼得堡の景にして、宏壯美麗なれども、田舍は、人民一般に教育なく、固陋貧弱、矮屋に安居せり。下圖は、即ち田舍の狀にして、冬季粗造なる橇を、馬に牽かしめ、堅氷を冒して、交通を計るの狀況を示せり。

第二十一課　瑞典諾威王國及び丁抹王國

注意　此課に於ては主として、瑞典諾威王國、及び丁抹王國の位置・地勢・氣候・產物・都府等を授くるものとす。

瑞典那威の位置・氣候上、植物繁殖の狀態より、西北海岸の漁獵に豐かなることに注意すべし。

瑞典諾威（スカンジナヴィア）は、スカンジナヴィアと稱する半島國にして、瑞典王を戴きて君主とす。兩國の境上に、山脈ありて、東側は、寒冷なれども、西側は、稍、温暖なり、産物は、木材・鐵・石炭・大口魚・肝油・皮



アイスランドの温泉

コーペンヘーゲン

革等あり。諾威は、航海業甚だ盛にて、其船は、遠く東洋に來たるもの多し。

瑞典の首府、ストックホルムは、人口二十七萬餘、數多の小島の上に立てる市街にして、風光絶佳なり。諾威の首府、クリスチャニアも繁華なる都會なり、人口十五萬、是より丁抹に向ふ。

參照　ストックホルムは瑞典の東海岸なる、メーラル湖畔にあり、市街は、四十餘の小島に散點し、風景絶佳なること、伊太利のベニスの如きを以て、北方のベニスの稱あり、瑞典諾威聯合王國の首府なり、府民、冬日は馴鹿に橇を牽かしめ、巧みに氷上を廻るといふ。

クリスチャニアは、諾威の首府なり、同名の灣頭にあり、肝油の輸出甚だ盛なり、又兼て諾威の王位を踐める、瑞典王の每歲、若干月間滯留せらるる處なり。

丁抹は、北海に突出したる半島と、其附近にある群島とを合せたる小國なり。人民は、耕作・牧畜に勤め、又よく航海に從事す。首府コーペンヘーゲンは、人口三十一萬バルチック海の口を扼するが故に、貿易頗る盛なり。是より西に航して、和蘭に到る。

參照　丁抹は、半島と數多の島嶼より成る一王國にして、其面積、我九州よりも小なり。此國は氣候溫和、地味肥沃にして、人民の大半は、農業・牧畜に從事し、又、漁業盛なりしを以て、海外に廣大なる屬地を有す。我長崎より、上海・釜山、及び、浦潮斯德に達する電信は、丁抹人の架設に係る。コーペンヘーゲンは、シーランド島上にありて、バルチック海の口を扼し、貿易上、軍事上の要地にして、港口に堅固の砲臺あり。

大西洋の北なる、アイスランドは、丁抹に屬す。島中には、間歇泉と稱する溫泉多し。

參照　アイスランドは、丁抹の西北、千六百浬の海上にあり。其面積、四萬方哩なり。此地寒帶に迫れるを以て、氣候酉寒にして、土地概ね氷原雪野なり。故にアイスランド即ち氷洲の名之に因る。樹木なく、穀物なく、只馬鈴薯と、甘藍とを生ずるのみ。冬日は日短くして、僅に四時間の日光を見るのみなりといふ。然れども、七萬餘の人口あり。牧畜漁獵を業とし、教育普及して、無學の者なし。島内は、山岳起伏して、二十餘の火山あり。ヘクラ山は、著名なる活火山にして、又、間歇泉と稱する溫泉あり。

圖中の上方は、溫泉噴出の狀にして、此溫泉は時を定めて、熱湯を噴出すること、百尺乃至百五十尺に上る。其響き雷の如く、實に壯觀なり。下圖は、丁抹の首府、コーペンヘーゲンなり。

第二十二課　和蘭王國　白耳義王國

注意　此課に於ては、主として、和蘭・白耳義兩王國の地勢・生業・物産・都府

を授くるものとす。

特に、和蘭は、我國との關係、遠く慶長の頃交通を開き、歐洲交際の端緒となり、歐洲文明の輸入の源を開きたる國なることに注意し、且つ兩王國の沿海は低地にして、自然堤防水利の術に進歩したるに注意すべし。

和蘭及び白耳義は、共に卑濕の地にして、河流運河縱横に通じ、水利極て便なれども、海岸は水面より低きが故に堅固なる堤防を築きて、潮水の浸入を防ぎ、又、巧に風車を使用して、雨水を海中に排出す。

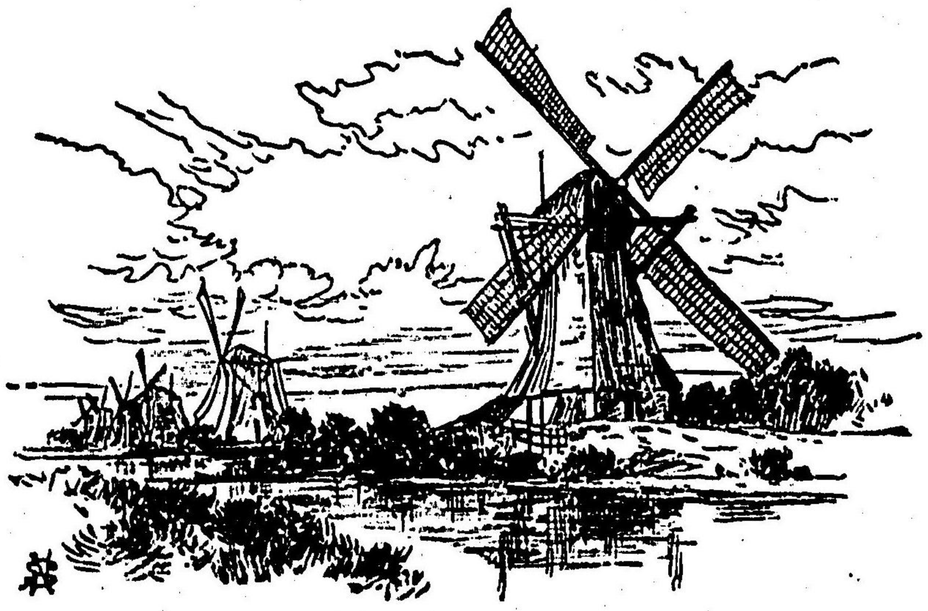
參照　和蘭と白耳義とは共に一小王國なり。

二國の地勢は、一般に低原なる卑濕の地にして、大半は海面より低く、處々に堅固なる堤防を設けて潮水の浸入を防ぐ、然れども時に汎濫の患あり。是を以て城内溝渠を通じ、又所々に、喞筒又は風車を仕掛けて、雨水

を海水に排出するに勉めり。

圖は、和蘭の海岸低地の處に風車を設けたる樣なり。

和蘭は、牧畜盛にて、多くの牛酪乾酪を產す。國人は、商業を勵み、夙に東洋に來たりて、我國とも交通せり。洋學の日本に入りしは、實に其媒介によれり。首府ハーグは、繁盛なる都會にして、我公使館あり。アムステルダムは、北海に臨みたる良



風車を用ひて雨水を排出す

港なり。

參照　和蘭は、面積我九州よりも小なり。

國人は、耐忍勤勉にして、且つ愛國心に富み、最も航海術に長じ、商業國海運國として、夙に世界に雄飛し、三百年以前、即ち我德川幕府の初世に於ては、海上王と稱せられ、其商船の數は、全歐洲の商船と匹敵せんとせり。慶長二年、我九州平戸に來りて交易せり。爾來我國と往來して、歐洲交際の端緒を開き、蘭方醫術を始め、歐洲の學術技藝に至るまで、歐洲の文明輸入の源にして、我國の始めて外國語を學びたるも、和蘭語にして、海外留學生の如きも、亦和蘭なり。特に德川家光鎖港をなせし時、和蘭人は、德川氏の最も忌避したる耶蘇教との關係を絶ち、專ら商業上の交際をなしたるを以て、我國の信用厚く、幕府外人を退けて、交通を許さざりし當時にありて、獨り通商を繼續せり。故に開國の初、西洋と條約を結ぶに當

りて、常に西洋の事情を告げて、幕府の參考に供せしこと少からず、其後海上王の權勢移りて英國に歸せしも、今猶ほ世界の商業國の一たる名は貶さざるなり。

白耳義は、鐵・石炭の產出多くして、各種の製造甚だ盛に、農業もよく進歩せり。アントワープは、歐洲屈指の良港にして、其南に首府ブラッセルあり。市街端正なるを以て、小巴里の名あり、是より、東方に進みて、獨逸のライン河畔に出づ。

參照　ブラッセルは、アンツーブの正南にありて、殆と國の中央に位し、人口五十三萬を有す。世界各國の首府を模造し、清整なる市街は、丘陵に跨り、高低參差として、壯麗なる建築物軒を竝べ、特に王宮公園の景勝、最者は世界第一と稱せられて、世に北方の小巴里と呼ばる。

第二十三課　獨逸帝國

注意

此課に於ては、主として獨逸帝國の位置・地勢・氣候・物産より、生業・貿易の狀況、及び、沿革・國勢の一斑、都府の狀況等を授くるものとす。

獨逸國は、歐洲中部の大國なり。南部は、山脈東西に連りて、高地をなし、北部は、一帶に廣き低地なり。

氣候は、稍溫暖にして、材木・葡萄・麥等を産し、山地よりは、多くの鐵・石炭を出す。又、國民は、學藝に秀で、巧に學理を應用して、製造工業を營むにより、國産豐にして、貿易盛なり。

我國へは、砂糖・藥劑・羅紗・「フランネル」・毛絲・麥酒等を輸出し、我よりは、銅類・米・陶器・漆器等を輸入す。

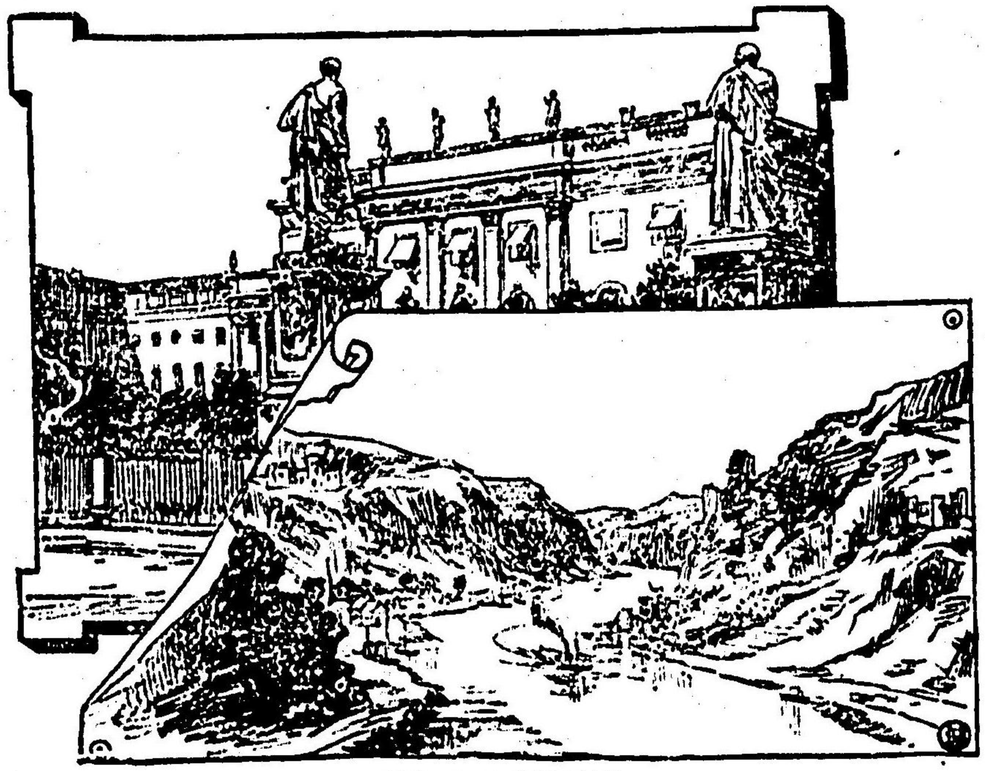
獨逸帝國は、プロシア以下、大小二十五國及び一帝領を併せたる大聯邦にして、プロシア王は、獨逸皇帝の位を兼ぬ。

教育能く普及して、國力旺盛なり。先年、佛國と戰ひて捷を得

しより、國運頓に勃興して、富强の國となれり。其兵備は、六十萬の陸軍と、百八十艘の軍艦とより成る。

參照　獨逸國内の教育は、高等教育の整備より、小學教育の普及に至るまで、世界第一と稱せられ、學術技藝共に進歩し、特に哲學・理學の如きは、世界に冠たり。大學の數二十一、各國より留學するもの多く、常に三萬の學生を養へり。小學は至る所に設備あらざるはなく、如何なる貧民と雖も文字を知らざるもの殆となしいふ。

陸軍の兵制、亦世界に秀づ。國土歐洲諸國の間に介り、國防上困難の地位にあるを以て、國民は自然武を尙び、愛國心に富み、兵役を喜び、兵士は勇敢なり。婦女子と雖も國の爲には其身を惜まざるの氣慨あり。故に軍人は人民の優待を受く。兵制は我國と同く、全國皆兵の制にして、丁年の男子、必ず兵役の義務に服す。其兵員平時は六十萬なれども、國家大事ある



伯林大學及ライン河邊

時は三百餘萬の大兵を動かすに足れり。海軍は、先きには其必用を感せざりしを以て、未だ發達せざりしが、今の皇帝武を好み銳意其擴張を忘らず。今や百八十艘の軍艦を有するに至る。

ライン河は、獨逸の國河とも稱すべき河にして、源泉は歐洲最高峰たる、アルプス山に出づ。上流

は、森林鬱蒼として、古城舊跡樹林の間に隱見し、丘陵兩岸に起伏し、風光明媚なれば、獨逸の樂園と稱し、國人の最も愛し、最も誇る所にして、詩に歌に賞讃せられ以て國人の志氣を鼓舞せり。圖の下方はライン河邊の光景を示すなり。

我等は、ライン河、沿岸の佳景を眺めつゝ北に進み、轉じて北海の濱に出づれば、ハンブルヒあり。市街はエルベ河畔にありて、河口ヒ十五哩歐洲北部の良港たり。

エルベ河を遡り、スプレー河岸に、首府伯林あり。歐洲第三倫敦巴里の大都會にして、人口百七十萬あり。街衢整ひ、道路廣くして、商業工業甚だ盛なり。其大學は、學問の淵藪にして、邦人の學ぶ者多し。又我公使館あり。

參照・伯林は、獨逸の帝都にして、人口は我東京より稍多く、佛京巴里に

亞ぐ大都會なり。此地は現今世界學術の淵藪にして、又歴々歐洲列國會議の地となりて、又政治上の中心たり。我國より留學するもの甚だ多く、又此國の學者軍人にして、我國に聘せられたる者亦甚だ多く、最近の學術より、兵制に至るまで、此國より得る所のもの多し。

國の上方は、ベルリン大學の校舍の一部を示すものなり、宏壯なる建築目を眩せしむ。其屋上の像は、本校の創設に功績ありし講師の像なり、校舍は一萬人の學生を容るべしといふ。

是より、ライプチヒに到り、書籍市場の盛況を見て墺國に向ふ。

第二十四課　墺地利洪牙利帝國

注意　此課に於ては、主として、墺地洪牙利帝國の位置成立地勢氣候物產都府を授くるものとす。

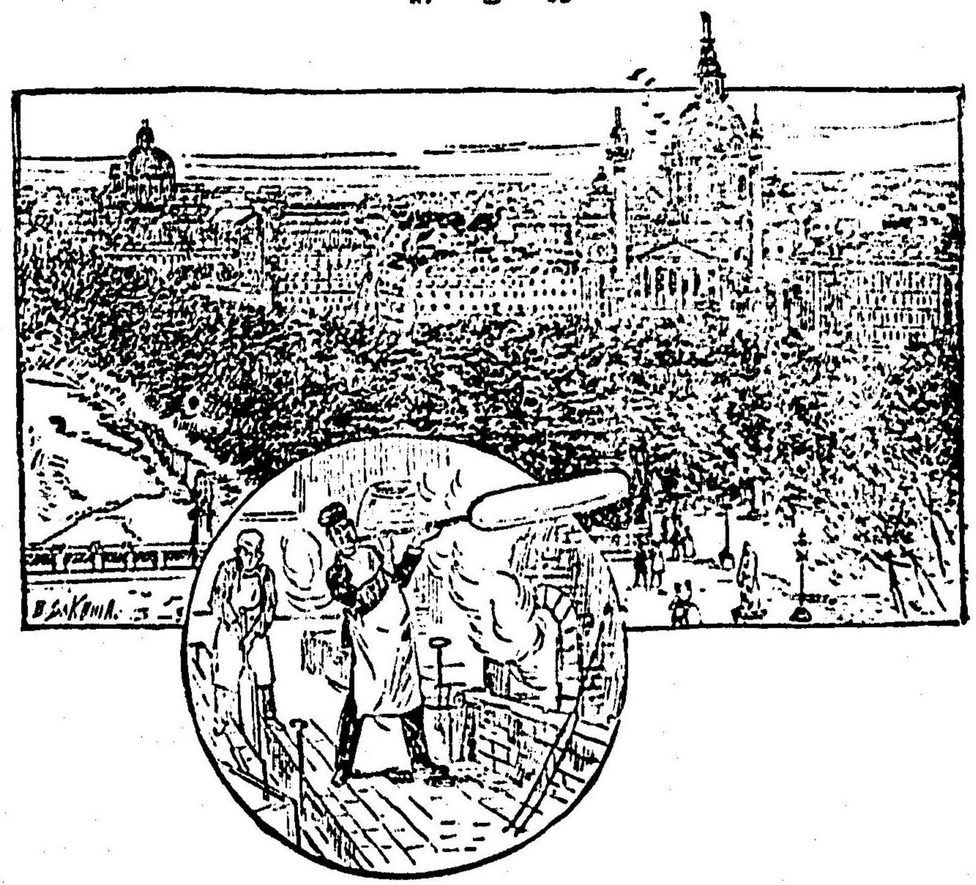
墺地利洪牙利は、墺地利と洪牙利とを併せたる帝國なり。

周圍は、概ね山脈にして、內部は一大平野をなし、ダニューブ河之を貫流す。

氣候は、概ね溫暖にして、地味肥え、穀類・葡萄・木材等の產出多し、又、鐵・石炭に富むを以て、製造・工藝發達し、殊に、玻璃器の製造盛なり。我國との貿易は、未だ盛ならず。

首府維也納は、歐洲第四の大都會にして、（人口百三十萬）商業・工藝の中心となり、寺院・宮殿等建築の見るべきもの多く、我公使館あり。是よりダニューブ河を下りて、洪牙利の首府ブダペストに到り、（人口五十餘萬）穀物市場の盛況を視察し、やがて、汽車に乘りて、トリエスト港（人口六十萬）に出で、對岸なる伊太利のベニスに渡る。

維也納



玻璃製造

一三四

參照 維也納は興地利にありて、秀麗なる山嶺に圍まれ、ダニウブの清流に擁せられ、カーパシアンの保壘、アルプスの山脈光景を添へて、我國人の此に遊ぶ者、坐ろに京都の風景を想ひ起すといふ。

圖解 上圖は、維也納の景なり。右方に高く聳ゆるものは、かるゝ寺院にして、前面にあるは、エリサベス橋なり。橋上には、維也納名士の像八個を設く。維也納市街の家屋は、概ね七層八層にして、數多の家族居を同ふするの俗あり。

下圖は、ボヘミヤ玻璃製場にて、玻璃原料を爐に溶して、之を吹き張りて、玻璃器を製作する所なり。

第二十五課　伊太利王國　瑞西共和國

注意 此課に於ては、主として伊太利の位置・地勢・氣候・物産・貿易・沿革・都府及び瑞西の位置・地勢・生業・都府を授くるものとす。

伊太利は、地中海に突出したる半島にて、形長靴に似たり。全國山多くして、平地少し、西岸に有名なるベスビアス火山あ

り、國の西南に、サルヂニア・シ、リーの二島あり。

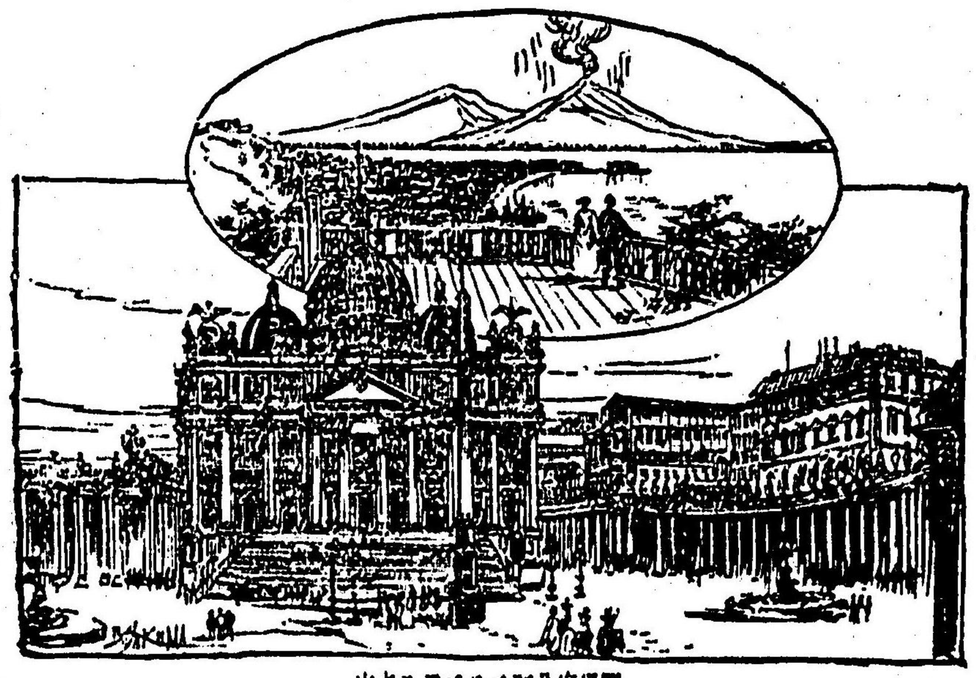
氣候は、本洲中最も溫順にして、寒暖中和を得、天氣晴朗なり。

産物は、生絲を第一とし、葡萄・穀類・硫黄・大理石等これに次ぐ。

我國より、多くの生絲を輸入す。

伊太利は、その昔、盛大を極めたる羅馬帝國の本土にして、帝國滅亡の後、暫く分裂したりしが、近年再び統一して、強盛の國とはなれり。國人は美術に長じ、其精巧、天下無雙と稱せらる。

ベニスより、西岸に進みて、首府羅馬に入る。府はタイバー河に臨み、羅馬法王の宮殿あり、嘗て羅馬帝國の首府たりし處にて、著名なる建築・彫刻等の存するもの多し、（人口四十七萬）我公使館あり。是より、アルプス山の隧道を潛りて、瑞西に入る。



羅馬府及びベスビアス火山

參照　羅馬は、現今伊太利の首府なれとも、古代は、羅馬帝國の都にして、又羅馬法王の都なり。古昔より歐洲文學・美術・法律の淵源となり、今に至るまで、美術の中心と稱せられ、今尚ほ法王の宮殿、セントペートル寺院、セントアンゼルの古城等は、天下の絶觀と稱せらる。其他の建築物彫刻繪畫を初めとして、名所舊蹟

頗る多く、實に目を驚かすばかりにして、歐洲の神聖府と稱せらる。されば一度此地に遊ぶ偉大壯麗なる遺跡の中に逍遥せば、嘗て永久の府と誇稱せし往時を追想して、榮枯盛衰の狀轉た感慨禁ずる能はざるものあり、實に世界の奈良、京都ともいふべし。歐洲諸國の人來り遊ぶもの其跡を絶たず。

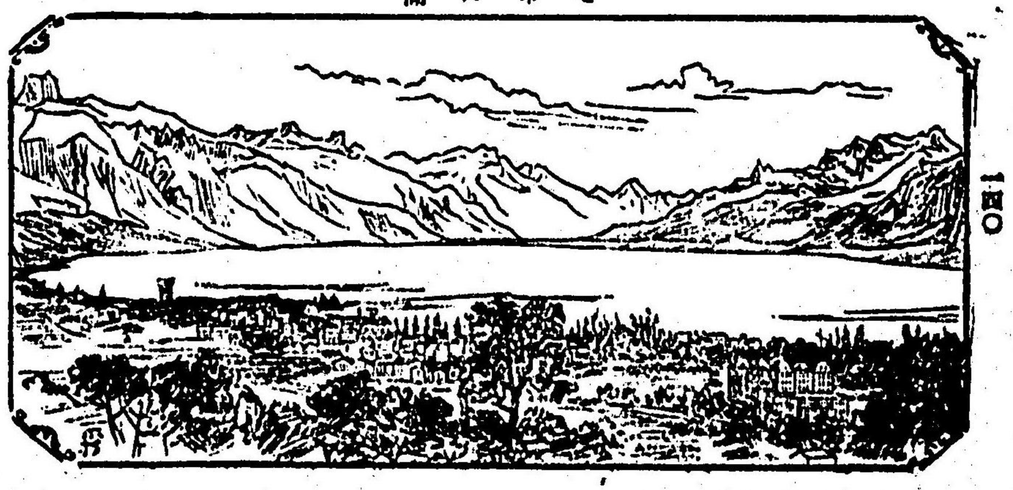
下圖は、羅馬府のセントペートル寺院にして、羅馬府中寺院の最も偉大なるものにして、世界無比と稱し、其名は世界の端に至るまで傳播せられ、羅馬を知るものは、此寺院の名を知らざるものなし。

上圖は、ナープルス市より、有名なるベスピアス火山を望む所なり。ナープルスは羅馬の東南方の海岸にあり、此國第一の大都會にして、人口五十二萬に上り、絹布の製造盛なり。仰ぎ見ればベスピアス火山突起し、靜波鏡面の如きナープルス灣に臨み、風景甚だ佳にして、氣候最も爽快なり。これ古來ナープルスを見れば、死すとも可なりと賞ひ傳へられたる勝地なり。ベスピアス火山は、今より千八百餘年前までは、其火山たるを知るものなかりしが、當時突然大破裂をなし、其噴出物は、ポンペイ、ヘルキユラアムの二府を地下十數丈に埋沒せり。然るに百五十年前より、數萬の人夫、ポンペイの市街を發掘して、今は其三分の二を現し、二千年前の市街を遊覽するを得るに至れり。されど全市を見るまでには、尚ほ多くの歲月を要すといふ。

瑞西は、山間の小共和國なり。國中湖水多く、風光明媚にして、雅人墨客の來遊するもの多し。國民は勤勉にして、工業を力め、精巧なる時計、絹布等を製す。

參照　瑞西は、歐洲強國間に介まり、よく各國に對峙して、對等の獨立を維持するものは、一に國民の愛國心に富み、貯蓄勤勉なるによれり。土地

山岳多くして、耕地僅に十分一に過ぎざるを以て、工業を以て、國本とす。然れども國中石炭に乏しきを以て、急流瀑布の水力を利用して工業を起し、刻苦精勵よく今日の盛大を致し、世界富國の一なり、就中布帛時計の製造盛にして、瑞西時計の名は、吾人の夙に聞く所、我國にも多く輸入せり。瑞西が毎歳の產額三百萬個、價四千五百萬圓に達すといふ。又我國より輸入する生絲は精巧なる絹布となり、再び外國に輸出せらる。其地質石の彫琢に著名なり。



我等は、アルプス山を下りて、首府ベルンに遊び、入口四萬轉して、ゼネバ湖畔に出で、其佳景を賞しつゝ、暫く心身を養ひ、ゼネバ市の時計市場を見て、佛國に向ふ。

參照 ゼネバは西佛國の境に近くゼネバ湖畔ローン河の流るゝ處にあり、風景絶佳、國中第一の都會にして、獨佛の要路に當り、時計の製造盛なり。世界萬國を通して同盟せる萬國赤十字社は、英國の一婦人ナイチンゲール嬢に證觸し後、此府に於て創始せる所なり。

圖解 圖はゼネバの府より、ゼネバ湖を望む景なり。湖は國中第一大湖にして、仰ては巖頭白皚々として、千古の雪を戴くアルプスの山を望み、俯しては青靛藍よりも濃き萬古の湖水を瞰る。此俗塵を脫したる仙境は、歐洲諸國の文士の寤寐にも忘るゝ能はざる所なり。

第二十六課　佛蘭西共和國

注意　此課に於ては、主として、佛蘭西共和國の位置地勢・氣候・物産・國力・都府等を授くるものとす。

佛蘭西は、歐洲西南部の大國にして、東南は、山脈・丘陵多けれども、西北は、一帶の大平野をなす。

氣候溫和にして、土地肥え、農産甚だ豐かなり、殊に、葡萄・葡萄酒は、名聲頗る高し。

國人は技術に長じ、精巧なる絹布、及ひ裝飾品を製す。我國との貿易には、羽二重・生絲等を輸入し、縮緬・呉呂・藥劑等を輸出す。

佛國人は、氣象快活にして、俠氣を帶ぶるを以て名あり。先年獨逸に敗れ、國力いたく衰へしが、爾後、大に奮發せしかば、舊に增して、富强の國となれり。其兵備は、五十五萬の陸軍と三百六十艘の軍艦とより成る。」

首府巴里は、セーン河に跨りたる壯麗繁華の都にして、人

巴里府及ひ備砲圖

口二百五十萬、世界第二つぐ倫敦にの大都會たり。府は實に世界文化の中心にして、市民は、風流、美術の念に富み、盛に各種の裝飾品を製出す。我公使館あり。其南なるリオンは、世界第一の絹布製造地なり。地中海より海岸に出づれば、マルセーユ港あり。國內第一の貿易港にして、邦人の歐洲に入るもの、多く此處に上陸す。轉じて西岸に到れば、ボルドー港あり。葡萄酒の輸出盛なるを以て聞ゆ。

參照　巴里は、此國の首府なり。セーン河に跨り、二十三個の石橋鐵橋を架して、之を連ね、宮殿、堂宇、建築の結構、美術の精を極め、街路廣濶、美麗清雅なることは世界の第一と稱せらるれども、英吉利の倫敦に比すれば、規模稍〻小にして、人口少きを以て、世界第二の大都會とす。此府は、文學技藝の淵藪にして、又美術工藝の製造頗る盛んなり。其巧妙なる新意匠は、

織物、磁器、玻璃器の上に發し、華麗風流なることは世界第一にして、流行日に新に、歐洲諸國の風流は、皆此地より始るといふ。

マルセーユ港は、地中海の一大要港なり。東洋各地の船舶の、旅客荷物を歐洲各地に送るものは此處より す。我國の横濱を距ること九千三十五海里、郵船の航海は四十餘日を要す。此地より巴里に至る鐵道五百餘哩、大約、東京、廣島間の距離あり。十四時間にして達すべし。

ボルドー港は、ガーロン河口に位し、葡萄酒輸出を以て有名なる港なり。ガーロンの流域は、有名なる葡萄の栽培地にして、有名なるシャンパン酒も、此地の產なり。

圖中上方にあるは、セーン河兩岸の巴里府市街の狀にして、下方は即ち葡萄園の盛況の一斑を示すものなり。時は葡萄摘採の期節なり。多くの人は摘採に忙はしく、二頭牽きの牛車によりて、其葡萄を運搬す。

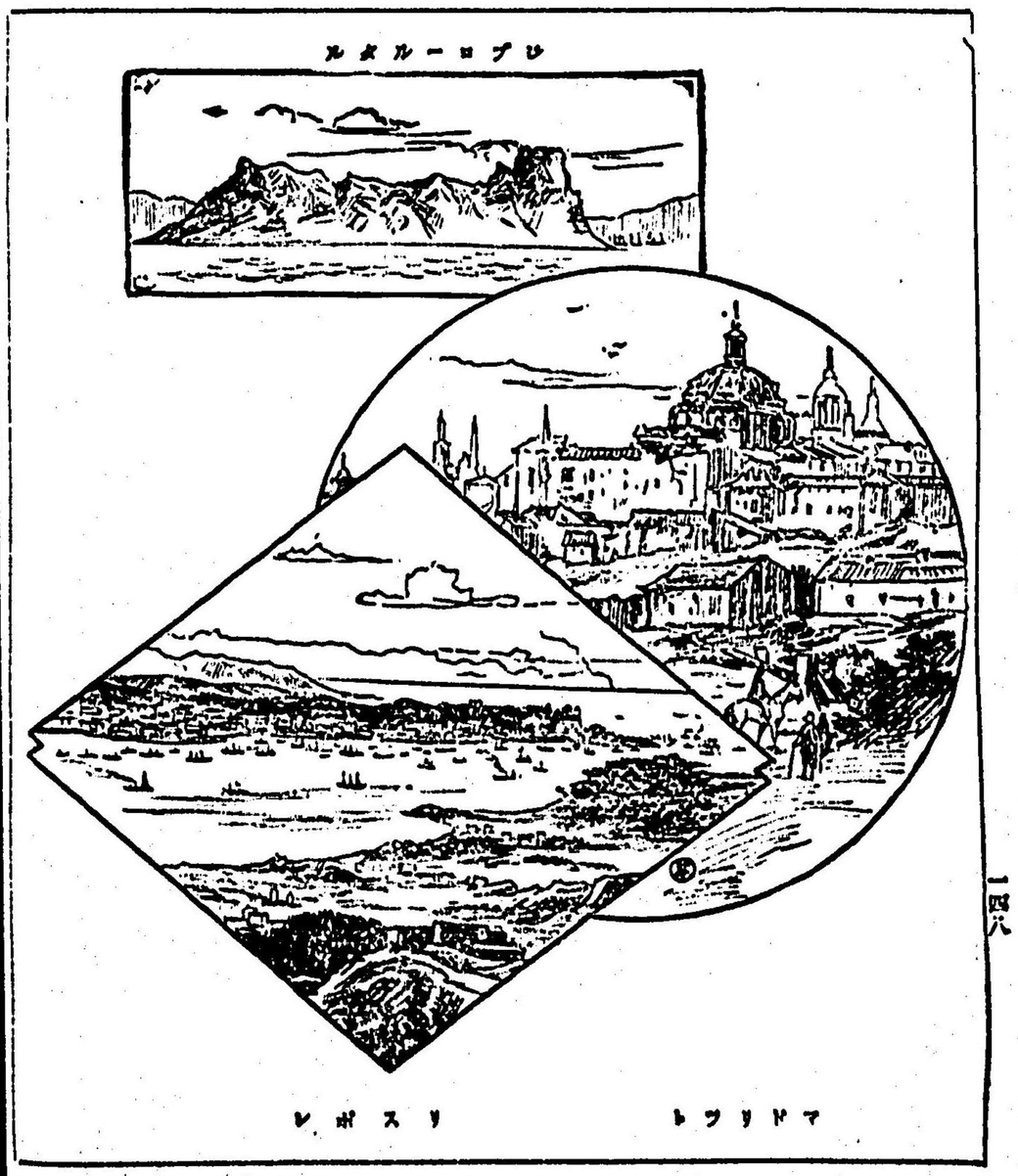
第二十七課　西班牙王國　葡萄牙王國

注意　此課に於ては、主として、西班牙葡萄牙の位置・沿革・物産・都府等を授くるものとす。

佛國より、ピレニース山を越えて、南に下れば、西班牙にして、其西南の小國を、葡萄牙と云ふ。

二國は、近古、商業の先驅をなしたる國にて、亞米利加發見・亞弗利加回航等著大の功績を留め、又、葡萄牙人は、夙に、我國に來たりて、交易せしことありき。されど、今は、二國共に衰へて、昔時の隆盛を見ること能はず。

參照　西班牙・葡萄牙の兩國は、今より四百年以前、我足利時代より、盛に通商貿易を營み、航海を以て、世界に鳴り、洽く諸國に往來して、海上の霸王たりき。葡萄牙王子ヘンリーは、頗る航海の術を究め、天文を考へ、磁針を用ひ、毎年航海探檢に從事したりしが、バルツロメウ・デアスは、遂に進んで亞弗利加洲の南端なる喜望峰に達したり。その後、バスコダガマは、初て東印度に海路を開きたり。是れ葡萄牙國の力なり。又、喜望峰發見の頃、西班牙女王イサベラは、伊國ゼノアの水夫コロンバスの望に任せ、市幣を賣りて費となし、大船を艤して、亞米利加發見の偉功を擧げさせたり。これ西班牙の力によれり。斯くして、二國は、共に世界の各地に殖民地を有すること少からず。又、葡萄牙人は、ゴアに商館を開き、東方貿易を獨占し、亦夙に我國と交通せり。即ち後奈良天皇の享祿三年、葡國船の豐後に來りしを始とし、爾來屢、九州に來航して貿易を營み、天主教を傳へたり。西班牙も亦已にマニラに府を立て、日本・支那と貿易を開き、織田氏の時代にありて、盛に我國と往來せしが、天正十六年、英・蘭と戰ひ、以來海上の權力を失ひしより、國運次第に衰へ、國力振はず、殖民地は反亂獨立し、



米西の紛爭を釀し、遂にヒリッピン諸島を米國に割讓する等、内外の殖民地を失ひ、貿易も盛ならざるに至れり。

西班牙は、葡萄・林檎等の果物、及び鑛物に富み、牧畜亦盛なり。首府マドリッドは、中央高地にありて、美麗なる美術館を有す。南端のジブロールタルは、英國に屬せる要害の地にして、堅固なる砲臺あり。

參照 マドリッドは、西班牙の首府なり、國の中央、海面を拔くこと二千二百呎以上の高地に在り。人口五十萬、王宮は壯麗にして美術館は世界第一と稱せられ、又鬪牛の技に有名にして、鬪牛場の壯大目を驚かすものあり。鬪牛を好むは、半島一般の奇習なり。卽ち人をして牛と鬪はしめ、之を慘殺するに至る。葡萄牙に於ては、之と稍異にして唯技を鬪はすのみなり。

ジブロールタルは、西班牙の南端にして、ジブロールタル海峽を以て、亞弗利加のモロッコと相對し、地中海の西口を扼する、天險の要害地なり。先年英國は、西班牙より此地を得、此處に堅牢の砲臺を築き、兵を派して、之を守衛し、以て不虞に備ふ。

葡萄牙は、葡萄の名産地なり。首府はリスボンと云ひ、繁華なる港なり。是より北に航して英國に向ふ。

參照　首府リスボンは、タイグス河の海に朔する所にあり。今より三百年前にありては、歐洲第一の繁盛の都會なりしが、百五十年前に大震に逢ひ、人家半ばは倒れ、四萬の人命を損したり。然れども猶ほ、古昔繁榮の俤を現ふに足るもの少からず。巍然たる白堊石の王宮、依然として城郭の中に聳えたり。

國の中央にあるものは、即ちマドリッドの王宮を示すものなり。下圖はリスボンの景なり。上圖はジブロールタル天險の要害を示すもの、即ち巉岩兀として聳ゆること、一千四百尺、海中に突出すること一里餘、壁立して攀づべからず。眞に天險無比の要害たり。

第二十八課　英吉利王國

注意　此課に於ては、英吉利王國の位置氣候、生業貿易、國勢、都府等を授くるを旨とす。

特に英吉利は、我日本國と同じく、四面環海の島國にして、大陸の東西に相對せる點に於て、商工業頗る盛に、その通商貿易の發達著しく、世界の海王と稱せらるる點に於て、國人の性質耐忍力に富み、無比の强大國となれる點に於て、最も注意すべきなり。

英吉利は、本洲の西端にある二つの大島と、其附近にある島嶼とを合せたる帝國なり。

氣候溫和なれども、空中濕氣多くして、晴天を見ること稀なり。

國民は、重に商業に從事し、農業は盛ならず、國內第一の富源は鑛物にして、鐵・石炭の產出夥しく、從て、工業の盛なること、世に比類なし。

參照　此國富强の根元は、鑛物の無盡なるにあり、殊に英國が世界第一の貿易國、工業國として、天下に覇たるものは、石炭の地層國內に播布して、石炭と鐵との富めるの賜なり。蘇格蘭の低地は、石炭に富み、愛爾蘭は鐵に富めり。卽ち石炭は、世界總額の半を出し、鐵は、歐洲諸國總產出の半を占むといふ。これ英國工業發達の原因なり。加ふるに、此國交通の便極て大にして、工業品の販路廣く、且つ國民起業心に富みて、資本に裕なれば、益發達を速かならしむ。其最も盛なるものは、綿布にして、人力を省く

機械を使用して、同は二百萬人の職工を要し、產額十五億圓の巨額に上る。次ぎに金屬にては、細少なる縫針より、壯大なる軍艦に至るまで、各種の製造品枚擧するに遑あらず。就中、造船業は、世界第一にして、每歲進水式を擧ぐるもの、蒸氣船のみにて五百隻の平均數に上るといふ。我富士八島・朝日の一等鋼鐵戰鬪艦も、此國の製造に係り、其他の軍艦亦頗る多く、造船地の有名なる處は、リバープール・ティムス、及び蘇格蘭のグラスゴー等なり。

我國へは、盛に綿布類・鐵器・絹紗等を輸出すれども、我よりは、僅に、麥稈眞田絹類・米・陶器等を輸入するに過ぎず。

英國は、我國より小なれども、四面海を環らして、交通に便よく、國民は勇氣に富むが故に、商業甚た盛にして、其船は地球上、到らぬ處なく、從て殖民事業も大に發達し、領地は世界五

分一に亘り、人口は、世界人類の四分一を占む、實に無比の強大國たり。其海軍は、古來精鋭を以て、天下に敵なく、今に四百餘艘の軍艦を有して、普く各大洲に碇泊す。

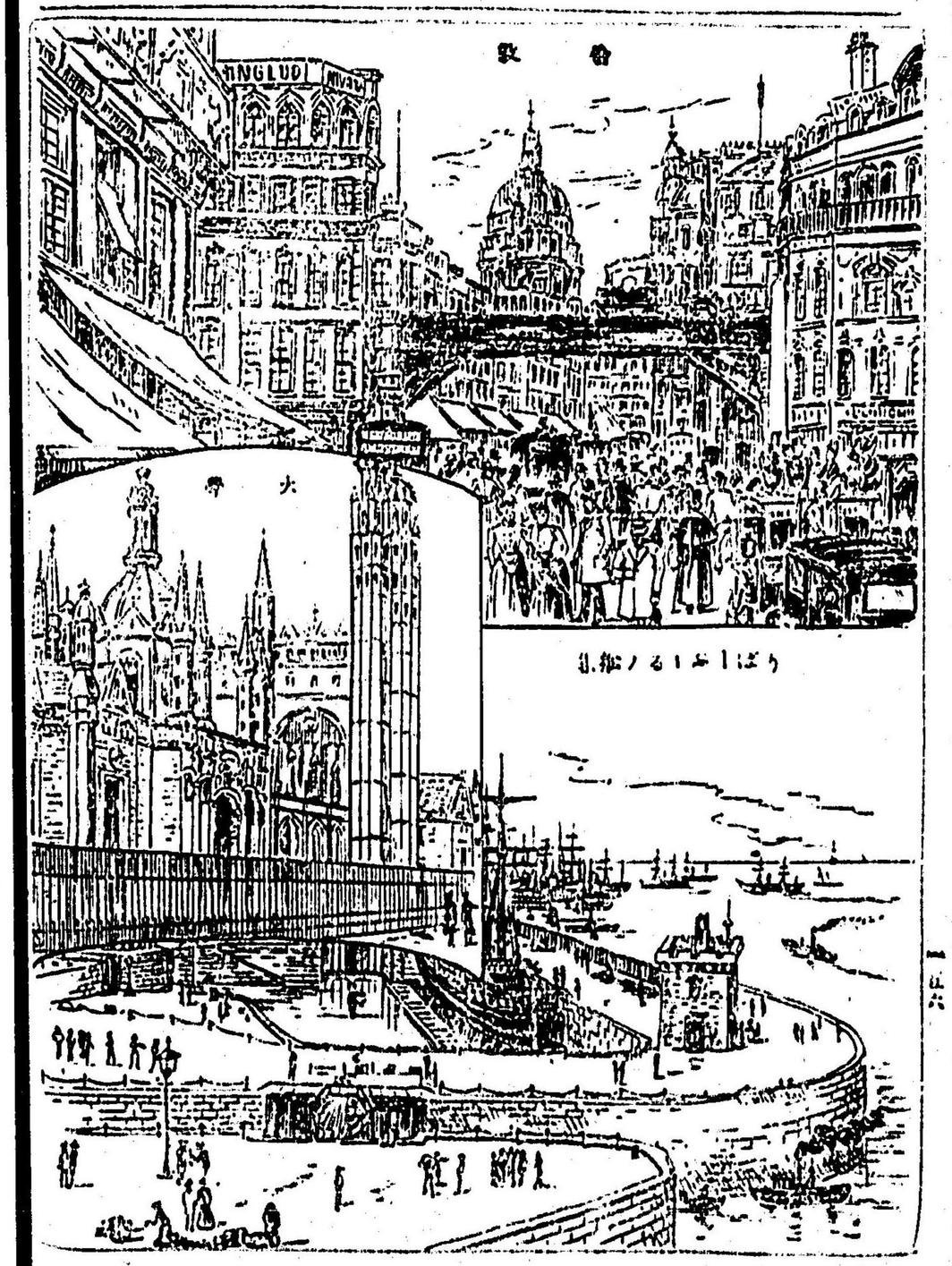
參照　英國は、我日本國より小なれども、四面海を環らし、海岸の屈曲甚だ多し。港灣半島に乏しからず。從て交通の便極て大なり。地位大陸と離れ、其騒亂の影響を被ること少く、而して大陸の學術技藝は、直に海を渡りて到り、西渺茫たる大西洋の彼方に、富源無盡の北米大陸あり。以て通商貿易の利を獨占せり。國民は、自尊の心高く、著實にして忍耐勤勉の氣象に富み、其通商貿易の如き最も特得たり。我天正十六年、即ち織田氏の時代に於て、蘇西沈殺なる女王エリサベス、當時海上權の覇たりし、西班牙國の兵艦を破りしより、英國の商工業は俄に發達し、益、富强の基を開き、和蘭人と共に、極東及び印度の殖民貿易を經營せしが、德川家光の頃、

クロムウエン和蘭の航海貿易を妨げ、遂に其軍を破りて、海上權を掌握し、爾後商業甚だ盛にして、其船は、實に地球上到らざる處なく、從て殖民事業も大に發達し、其領地は、今や六大洲中に遍く、面積我が百六十萬方里、地球上全陸地の五分の一を占め、人口三億二千万に達し、世界住民の五分の一に當る。故に其版圖には、太陽常に沒する時なしと稱す。實に世界無比の强大國なり。

軍備亦頗る整ひ、陸軍は海國の主とする所にわらざれども、常備兵十萬餘、屬地殖民地の兵を合せて二十三萬餘あり。海軍は精鋭を以て世界に鳴り、四百餘隻の軍艦、熟練せる十萬人の海軍兵を有し、排水一萬噸以上の大艦五十隻ありといふ。

首府倫敦(ロンドン)は、テームス河に跨り、人口四百五十萬、實に世界第一の大都會にして、世界商工業の中心、政治の要樞と稱せら

倫敦



れ、市街の繁榮雜沓すること、他に絶して見ざる所なり。我公使館あり。リバープールは（人口五十萬）西岸の良港にして、造船業甚だ盛に、近傍のマンチエスターは、（人口五十萬）綿布製造の盛なること、諸國の最と稱せらる。スコットランドのグラスゴー、（人口七十萬）及びアイルランドのダブリンも、名ある都會なり。

參照　倫敦は、英國の首府にして、英國の南部テームス河に跨り、河口より沂ること四十八哩餘（二十里）にあり、人口四百五十萬餘、我東京に三倍す。都會の長さ十四哩半（六里）幅十哩許四里に餘り）面積は百十八方哩に亘り、世界無雙の大都府なり。此府は世界貿易の一大中心にして、其一動一靜は、萬國の商況に影響すること、恰も我大阪の米相場の一昂一低が、日本全國の米相場に關係するが如く、倫敦は世界の各國を顧客として、地球上の富を搖き集むるものといふべし。河には六十餘の鐵橋を架し、

倫敦橋の雜踏最も繁劇にして、行人一日平均五十萬人に下らずといふ。河上には大小の汽船往來絡るが如く、鐵道は四方より集り來りて或は地下に或は屋上に、將た川底に及び、テームス河底を通せる隧道の如きは、奇巧人目を驚かせり。河の南岸には、製造場多く、空に綜ゆる烟突は、隱々天を突きて、蔽猶ほ暗く、人馬の奔走貨物の運搬、汽車の往復轟々たる喧聲常に遠雷を聞くが如し。實に世界商工業の中心なり、或は王宮或は寺院、國會議事堂等、到る處に宏大なる建築あり、外觀巴里の華美なきも、內部の壯麗名狀すべからず。倫敦の中央市街一坪の地價は大抵二萬五千圓なりといふ。我東京市の中央の他土一升金一升と稱する市街にても、地價一坪二百圓にして、其百分の一にも足らず。其富と繁榮と驚くべきにあらずや。

圖中、上圖は倫敦市街の盛況を示したるものにして、大廈巨屋櫛比を呈べ、

高架鐵道には、汽車往來し、路上には車馬行人の絡繹たるを見るべし。左方の大學は、卽ちケンブリッヂの大學校なり。下圖はリバープールの造船所の細渠なり。海上に幾多の軍艦商船を見るべし。我國軍艦亦此地に製造せられたるもの多し。

第二十九課　亞弗利加洲總論

注意　本課は、亞弗利加洲の位置、地勢、山脈、河流を概說し、交通の不便なるは、人文の發達せざる大原因なることより、氣候及動植物、又は人種などに至るまでを、說示すべきなり。

本洲は、歐羅巴の南、亞細亞の西南にある大陸なり。海岸は山入少く、周圍にアトラス、コンゴ、ニューベルト等の山脈ありて、內外の交通、甚だ不便なり。是れ實に、本洲が、永く文明の光を受けざりし所以なり。

ナイル河は、東半球の最長流にして、本洲の中部より發し、埃及を貫きて、地中海に注ぐ、毎年、洪水氾濫して、沃土を殘すといふ。西岸に、ナイゼル・コンゴー、東岸に、ザンベジーの

亞弗利加の動植物

諸大河あれども、皆瀑布多くして、舟運の便にとぼし。

本洲は、熱帶に横はるが故に、氣候炎熱なり、赤道附近は、酷熱多雨にして、「バオバブ」、椰樹の類、鬱々として茂り、河馬、「シラフ」、「ゴリラ」、獅子、象、鰐、毒蛇等、其間に徘徊し、北部の沙漠には、駝鳥、駱駝の類多し。南部地方は、金、金剛石の產甚だ豐なり。

本洲の人種は、歐羅巴人種と、亞弗利加人種とに屬す。亞弗利加人種は、又、黑人種とも云ふ、皮膚黑くして、頭髮縮れ、性質暗愚なり、常に裸體にして、概ね、鬪爭、掠奪を事とし、間、漁獵に從ふもあり。

參照　本洲の位置は、歐洲の南、亞細亞の西南にあり、此地は、もと、亞細亞と地續きなりしを、スエズ運河の開通せしより、全く隔離せり、其大さ大陸中第二に位し、亞細亞の三分の二、歐洲の三倍に當れり、然れども、人口

は稀少にして、一里四方の地に僅に八十餘人のみ、これを我國に比するに、二十分の一に當らず、全洲を通じて、二億餘りあり、域内不毛の砂漠多く、氣候も亦不良なれば、本洲の地理は、未だ治く世界人に知られざりしに、六十年來、セフアット、リビングストーン、スタンレー等の、有名なる探險家、洲内を探檢し、洲内の景況稍、知られて、歐洲各國の殖民地を、拓くに至れり、海岸は出入少なく、其四周に山脈を環らし、内部は一般に高原をなせり、北に蜿ゆるをアトラス山脈といふ、東にあるを、ムツン山脈といふ、この中に本洲第一の高峰、キリマンジヤロ山あり、赤道直下にありて、猶ほ常に白雪を頂けり、其他南にニウベルト山脈、西にコング山脈ありて、殆んど、洲の四邊を繞り、海と内地との交通を遮斷せるを以て、内地には濕氣少く、廣大なる沙漠を生せり、北には有名なるサハラあり、南にはカラハリあり、地勢かくの如くなれば、河水は皆中央に發源し、四方に向

て流れ去るといへとも、沿岸山脈に遮ぎられ、甚だ迂廻して海に入るもの多し、殊にナイル河は、東半球の最長流にして、全長凡四千哩あり、源を本洲の中部、湖沼地より發し、埃及を貫流し、地中海に注ぎ、河口は有名なる三稜洲をなせり、此河は年々定期に河水增漲し、再び減水するを常とす、その流域に肥沃の粘土を殘留し、之が爲めに、地味肥え產物多し、是れ其下流に繁盛の要地ある所以なり、

本洲の氣候は、炎熱にして乾燥なり、これ土地の十分の七は、熱帶中に位せると、亞細亞、亞剌比亞の地方より、赤道に向て吹き來る風は、濕氣を帶びざると、海岸より吹き來る濕氣多き風は、海岸山脈の爲めに、内部に至る能はざるとによれり、中にもサハラ沙漠の如きは、終歲雨を見ざる所多く、且つ氣候を調和すべき森林、少なきを以て、日中最も暑き時は、二百度以上に昇り、夜中寒き時は、零度以下に降るといふ、氣候の不調和なる

こと驚くべし、然れども、赤道に近き所は、雨量極めて多く、草木鬱蒼として、パオバブ樹の類、數百里に連り、蛮猪は暗き所ありといふ。

圖解　河馬は、本洲の特産にして、大さ象に次ぎ、脚短く體肥滿して豚の具へ、其狀甚だ醜惡なり、全體黑にして毛なく、皮の厚さ數寸に及ぶといふ、陸上にては、甚だ不活潑なれども、水中にては、小艇を覆すこと、容易なりとぞ。

ゴリラは、通俗には大猩々と稱せられ、猿類中最大なるものにして、丈け六尺に近く、肩幅最も廣くして、三尺餘に及ぶ、毛は殆ど黑色にして、性猛惡なり、人を見れば、直に襲ひ來たり、獵夫の銃筒をも、嚙碎するの强力ありといふ。

ジラフは、全體茶褐色の斑紋ありて、甚だ美麗なり、蹄殼及び二小角ありて、頸と脚とは細長く、全身一般に痩せたり、首を擧ぐれば、丈け八尺に及ぶものありといふ、其走ること甚だ快速にして、駿馬も及ぶ能はず、これ亦本洲の特産なり。

駝鳥は、主として沙漠地方に棲み、其高さ七八尺に及び、羽は退化して飛ぶ能はず、走ること甚だ速かなり、又頗る强力にして、人獸も其一蹴に逢へば、殺傷せらるといふ、羽毛は他の鳥類に見ざる所にして、羽面分離して、總の如く、其體を覆へるものは、黑色にして、尾及び翼の部分は、白色なり、此羽毛は、光澤あるを以て、西洋婦人の帽を飾り、又禮帽の前立などに用ゐられ、貴重なる貿易品なり。

參照　本洲の人種は、歐洲より移住したる、各國の殖民地に住する、歐羅巴人種と、本洲土人の、亞弗利加人種となり、土人は所謂黑人種にして、中央及び南部に住し、人智蒙昧にして、風俗汚醜なり、或は人肉を食らひ、或

は兩爭を事とす、その慘酷なること、吾人の想像する能はざる、劣等の人種なり。

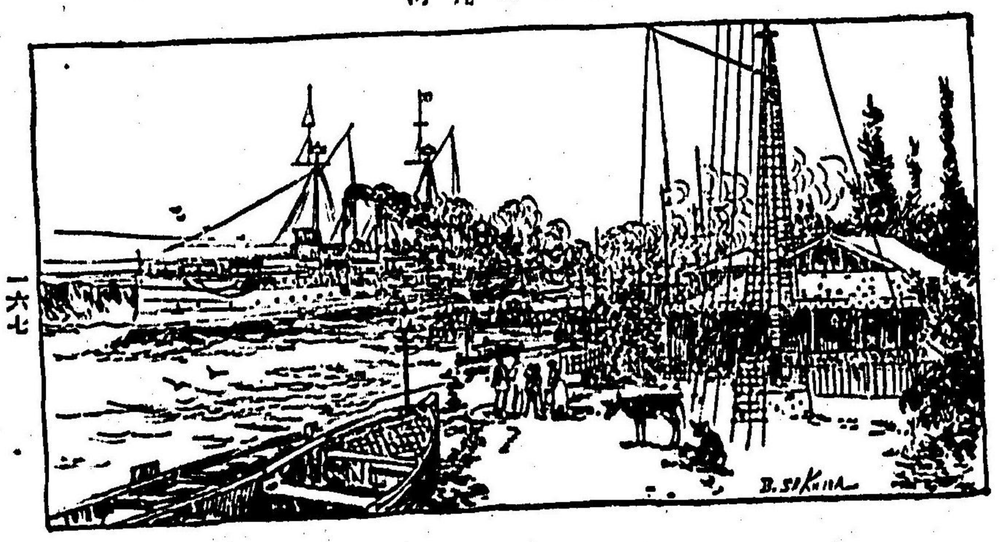
第三十課　ナイル東部・南部地方

注意　本課にては、埃及古代文化の遺蹟及び近代運河の開通せし等は、ナイル地方の最大要件なり、又南部地方トランスバール、及び、オレンジは、今時、英國と交戰し、著名となれり、これらは地理に就きて、兒童に世界的知識を授くる好材料なり。

我等は、地中海より、埃及のアレキサンドリア港に上陸す。此國は、地球上、最も早く開けたる、著名の國なれど、今は衰へて、土耳其の版圖たり、我等此地に遊ばゝ、「ピラミット」「スヒンクス」などいふ巨大なる遺跡の、砂多き平野に立てるを見るべし。亞細亞境のスエズ運河は、近年開鑿せられし處にて、よく

大船を通ずるを得、東西交通の要路たり。首府カイローより、ナイル河を遡り、アビシニアを經て、東部に到れば、歐洲諸國の殖民地は、海岸に沿うて相隣し、東方印度洋中に、佛領マダカスカル島を望むべし。更に南に進めば、トランスバール共和國・オレンジ國あり、本洲中、最も開けたる國にして百般の事業觀るべきものあり。此南にある英領ケープコロニーは、農業・牧畜盛に

スエズ運河



して、又、金・金剛石を産す、ゲープタウンは、南方著名の港なり。南端の喜望峰は、葡萄牙人の、始て回航せしとき、名づけたる有名の岬とす。

參照 アレキサンドリヤは今より二千二百年前、希臘の王、亞歷山大帝の開きし港にして、地中

海沿岸の繁榮を集中せり、港の東南に、カイロー府あり、埃及の首府にして、人口五十七萬、ナイル河の東岸にありて、椰樹・檳榔樹、其外郭を繞り、彩色せる高塔巨屋、其内に聳え、風景殊に美なり。

此國は已に四千五百年前に、開化の域に進み、文學・技藝の旺盛なること、印度・バビロンを凌駕し、今猶ほ驚くべき大建築を遺したり、然れども、其隆盛久しきを得ず、一たびはペルシヤ國王に降り、また、亞歷山大王に貢し、今や土耳其に隸屬せり、然れども、土耳其の國勢衰微して、之を管理する力なく、其實權は、英國の掌握するところとなれり。

カイロー府の郊外、ナイル河畔の地は、古代埃及の隆盛を極めし地方にして、今猶は餘蹟の存在せる者少からず、就中、尖石塔（ピラミッド）は最も有名にして、其最大なる者は、高さ八十三間餘、礎の幅百六十六間なり、其中に五室を有す、當時の王及び妃の墳墓なり、今此工事に要せし、人夫の數を概算す

るに一萬人を使用して、三十年間を費すべしといふ。

又スヒンクスは、女人頭にして、獅子身なる異形の巨像なり、全體の半は、沙中に埋れたれども、頭部のみにて、高さ五間に餘れり、これ當時人民の崇信せし神像にして、兩脚間に神殿ありといふ、同じく石造なりとす。

スエズ運河は、カイロー府の東、亞細亞の境にあり、此運河は、二十餘年前、佛人ヘルジランド、レセップといへる人の唱導により、前後十二年に、二億金を費して、開鑿したるものにして、長さ四十餘里、底幅七十二尺、深さ二十六尺なり、大艦巨船といへども、吃水拔二十尺を超えざるものは、自由に通航するを得べし、此運河の通せざりし以前には、東西兩洋の船舶、皆本洲の南端喜望峰を迂廻せしを以て、非常の困難を極めたりしが、今や時日と勞力とを節するが上に、赤道直下を横ぎることなきを以て、航載物品の保護上に取りても、莫大の利益を得たり、實に此運河は、西洋文

物の東漸を、容易にしたる一大關鍵たりしなり。

トランスバール、及び、オレンジ國あり、面積甚だ小なりと雖も、本洲中文化の最も發達せる國にして、百般の事業觀るに足るものあり、而して近時、英國と葛藤を生じ、決然、宣戰を公布したり、戰未だ全く休まざれども、英國は之を專領したることを公布したり。

喜望峰は、本洲の最南端の岬にして、蘇士運河の通せざりし當時は、印度に航する者は、此岬を迂廻せり、抑、此岬は今を去る四百年前、葡國が盛に船隊を四方に出して、印度への航路を搜索せし時、同國の船將、バルソロウジャス氏始めて此地を檢出し、歸りて國王に報ずるや、葡國王は、他日此海路より、印度と貿易を通ずべき好機を得たりとして、非常を表し、直に海角に命名せしといふ。

問解　スエズ運河の事は已に前に述べたれば別に說かず

本洲土人の事も前課人種の下に概說したり

第三十一課　西部・サハラ・バルバリー地方

注意　本課にては、東部及中央沙漠の狀況を讀く者にして、兒童の注意を引くべき者は、沙漠中にある泉地及隊商等の新事實なりとす。

英領殖民地より、北に進めば、コンゴー自由國あり。此國は、本洲中、最も富强の國にして、近頃、我國と通商條約を結べり。

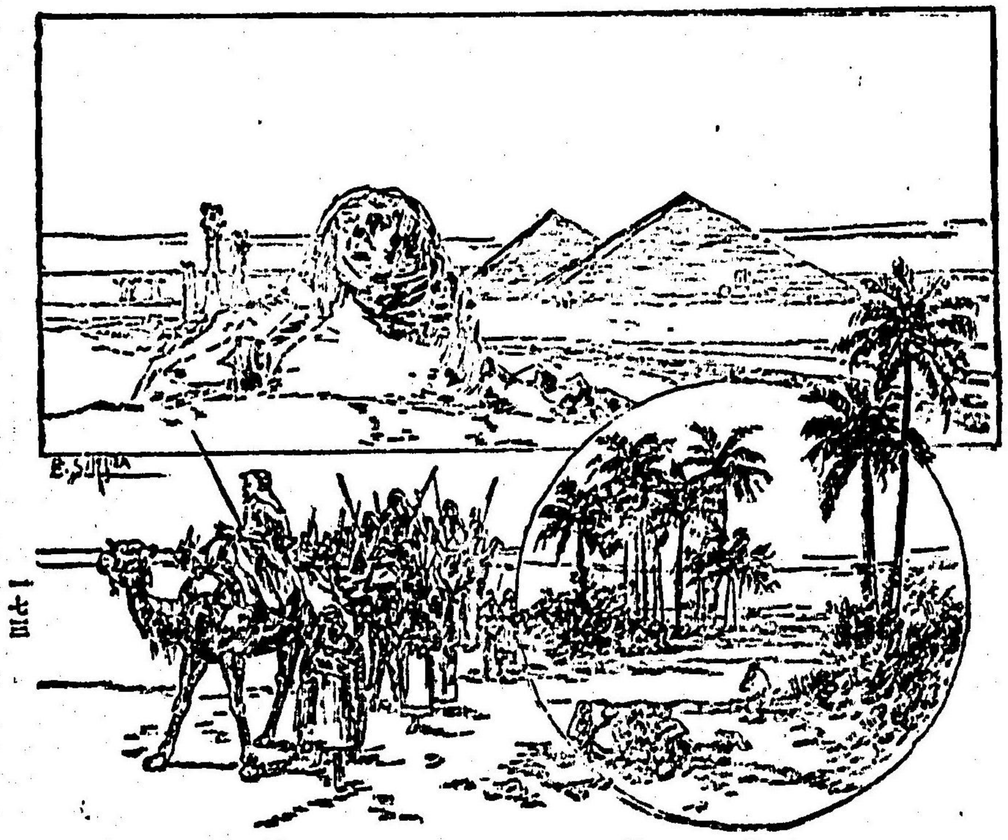
是より北は、廣くスーダンと云ふ。其沿岸は、ギネアと云ひ、黑人種の最も稠密なる處にして、リベリア共和國、及び數多の殖民地相隣せり。スーダンの北に、サハラ大沙漠あり、茫漠たる沙原にして、まゝ泉地と稱する沃地ありて、草木を生ず。

沙漠を越えて、北に進めば、バルバリー地方に出づ、其東部なるチュニス・アルゼリアは、佛國に屬し、西部のモロッコは、土

蠻の獨立國なり。我等は、是より大西洋を渡りて、北亞米利加に向ふ。

參照　コンゴー河を遡れば、コンゴー自由國あり、この國は、各國植民地の中央に位したるを以て、今

ビクトリア及びスタンレイ



泉地　サハラ沙漠

より十五年前、伯林に於て、萬國コンゴー會議を開らき、其區域を畫定し、白耳義王をして、一個人の資格にて、之を支配せしむることゝなせり、而して白耳義政府は、亦も之に關係なし、抑も此國を建たる目的は、萬國人民をして、自由に此內地に交易せしめんと欲するにあり、この國はコンゴー河の便あるを以て、漸次開發し、富强の域に進まんとす、これを以て、我國も條約を結ぶに至れり。

サハラの沙漠は其大さ歐羅巴に同じく日中は炎熱甚しけれども、夜間は却て寒冷に苦しむといふ、然れども處々に泉地と稱する沃地ありて、草木を繁生せり、この沙漠の旅行は、實に困難危險にして、或は中途に於て糧食盡き、或は井水の缺乏に苦しみ、又往々恐るべき旋風吹起りて、砂を捲き、天地は爲めに晦冥となることあり、若し旅人のこれに逢ふときは、駱駝も共に沙中に埋沒せられて、行方を失ふに至るといふ、今を去ること九十餘年前、二千餘人の隊商と、千八百頭の駱駝とは、空しく此沙漠內に葬られたりといふ。

圖解　ピラミッド及びスヒンクスは、埃及の下に說きたれば、參觀すべし。

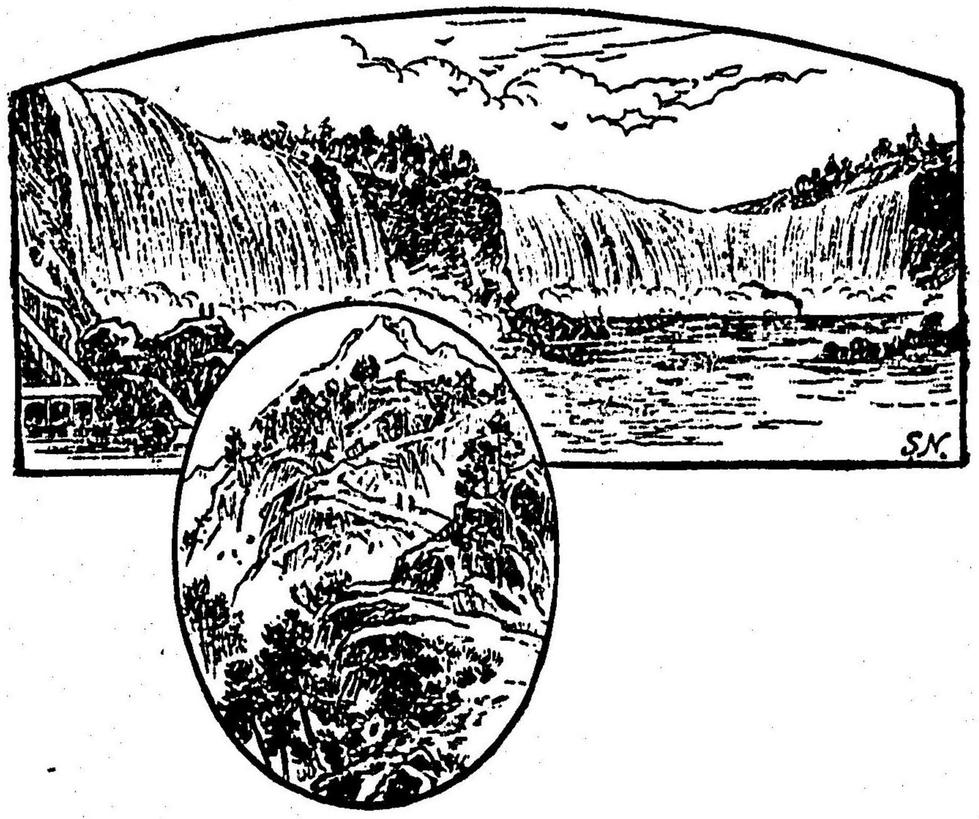
泉地及び隊商のことも、前に述べ盡きたり。

第三十二課　北亞米利加洲總論一

注意　本課にては北亞米利加の地形及山河湖沼等の大略を示したる者なり。

西半球北部の大陸を、北亞米利加洲と云ふ。東は、大西洋を隔てゝ、歐羅巴に向ひ、西は、太平洋を隔てゝ、遙に亞細亞大陸と相對す。地形は、略三角形をなし、海岸は屈曲多く、北にアラスカ半島、ハドソン灣、ラブラドル半島あり、南に墨西哥灣あり。

ナイアガラの瀑布



ロッキー山

大平洋沿岸には、南北に連る、一帶の大山脈あり、之をロッキー山脈と云ふ。其東に、一面の大平野を控へたり、又、東海岸に近く、アレガニー山脈あり。

中部平野にあ

る、ミシシッピー河は、世界第一の長流にして、ミズーリー・アルカンサス等の支流を合せ、緩く平野の間を流れて、墨西哥灣に注ぐ、流程千八百里、舟運灌漑の利、極て多し。東部には、シューペリオル・ミシガン・ヒューロン・エリー・オンタリオの五大湖あり、湖水相合し、セントローレンス河となりて、大西洋に入る。エリー湖の下流は、ナイアガラの大瀑布となり、天下無二の壯觀をなす。

圖解 ナイアガラの大瀑布は、シューペリオル・ミシガン・ヒューロン・エリーの四湖の水、集りて、オンタリオ湖に入らんとする處に一大瀑布をなし、其勢の猛烈なること、其水量の多大なること言語に盡すべからず、瀑布は別れて二となり、一を亞米利加瀑布といひ、一を、カナダ瀑布といふ、亞米利加瀑布は、幅四千八百尺、高さ百五十八尺あり、カナダ瀑布は幅

三千百尺、高さ百五十尺あり、瀑布の落下する處は、轟然として其猛烈なる響は、實に耳を聾せんばかりなりといふ。

ロッキー山脈は、長さ二千里に亘る數多の並行山脈よりなれり、其山脈の廣き所は、合衆國全幅の三分の一に蟠りたれども、高さは比較的に低く、多くは八千尺に上るもの少なし、全山脈、火山多く、北部アラスカのセントイリアス、墨西哥のポヽカテペトルの如きは、有名なる活火山なり。

第三十三課　北亞米利加洲總論二

英領カナダ

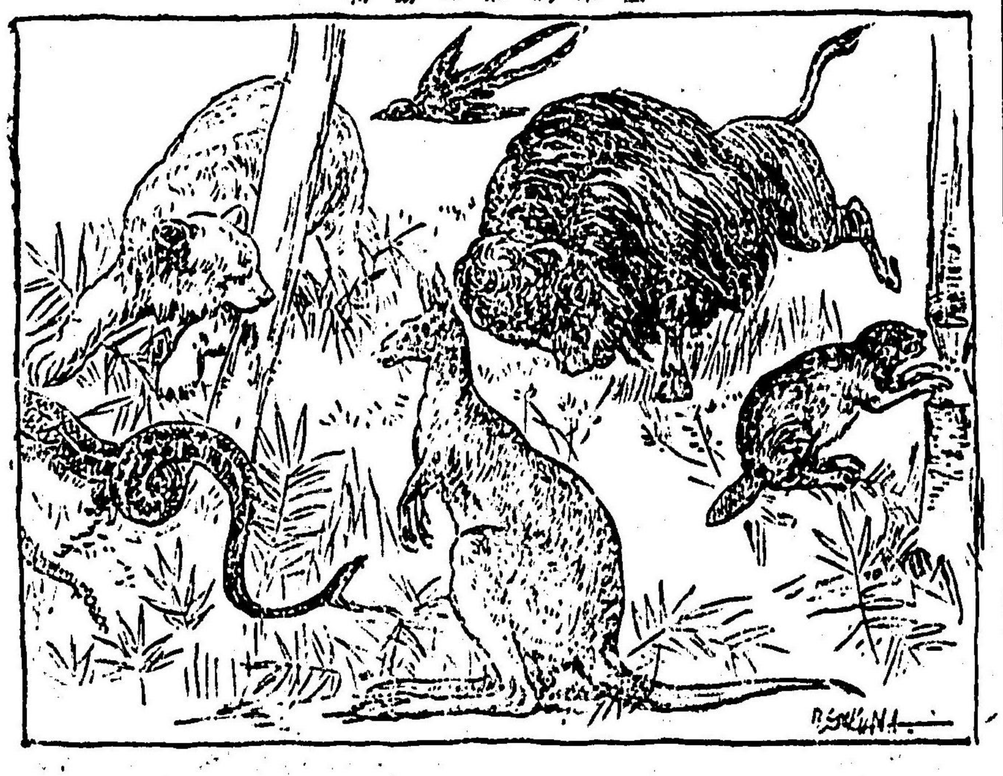
注意　前課に續き、氣候・動・植物・人種及び、英領加奈多地方の概略を說く者なり。

中部大平野の北半は、寒氣強し、南半、及び大西洋の沿岸は、夏暑く冬甚だ寒くして、極端なる氣候を有し、太平洋沿岸は、四

時溫和にして、健康に適す。

本洲は、大に植物に富み、盛に各種の良材を出す。農作物も亦甚だ豐にして、棉・小麥・玉蜀黍・煙草・甘蔗等あり。是に反して、動物は、種類少く、僅に北部の馴鹿・野牛・白熊・海豹・南部の袋鼠・蜂雀・響尾蛇等

亞米利加の動物



北亞米利加の土人

は舊來の土人にして、亞米利加人種、又は銅色人種と云ひ、皮

あるのみ。鑛物は、植物と同じく、本洲の重要産物にして、鐵、石炭、石油、金銀等の産出頗る多し。

住民の大部分は、歐羅巴人種にして、次は黑人種なり、其他

膚赤くして銅の如く、頭髮は黑くして、亞細亞人種に似たり、此人種は、年々減少して、今は甚だ少くなりぬ。

大西洋より、世界有名の漁業地なるニューファンドランドを經て、カナダに入る。カナダは、本洲の北半を占むる大國にして、全土、英國に屬し、オッタワに、其政廳あり、西岸のバンクーバーは、東洋との貿易港なり。西北のクロンダイクは、砂金の産出多きを以て聞ゆ。

カナダの北にあるグリーンランドは、丁抹の領地にして、西北にあるアラスカは、合衆國に屬す。

圖解 白熊は、其形熊に類し、毛色白くして、多く北方に產し、氷上に於て穴を穿ち、魚類を捕獲し、之を餌となす。

野牛は、體軀通常の牛よりは、稍大きく、頭には、亂れて密なる毛あり、角は

比較的小に、肉は甚だ美にして、歐米人の珍重食品となす、今や此貴重なる牛は、漸次減少して、政府の保護をなすに至れりとぞ、海狸は其名の如く、よく狸に類似し、尾は先端膨大して、棍棒狀をなし、齒は甚だ鋭利にして、大木を噛み倒し、樹枝、泥土、草葉を集めて、穹窿狀の巣窟を造り、其中に一類相集れり、特に敵の攻撃を防がんが爲めに、巣穴の基礎を水中に超し、其周圍をして、常に水面たらしむ、就中驚くべきは、港水の乾涸を防がんが爲めに、河中に堰を築き、水流を沮止し、その長さ三百尺に渉ることあり、袋鼠は、カンガルーマウスといひ、其狀鼠、又は兎に類し、腹部に皮袋あり、其大さ小犬の如し、鱗尾蛇は、尾端速機したる球狀をなし、速動するときは、一種の響をなす、蚺蛇は、其形圓の如くにして、其大さ拇指頭大にして、世界中鳥の最も小なる者なりといふ。

參照　本洲の住民は、概ね歐洲より移住したる白人種にして、英國人最も多し、加奈陀合衆國を重なる住地とし、墨西哥、中央亞米利加には、印匈人と西班牙人との混種多く、合衆國の南部、西印度地方には、黑人種あり、人口總數九千八百萬人に及ぶ、其他、西部山中に居住する、銅色人種あり、一名印匈人といふ、これ本洲の原人種にして、コロンブス大陸發見の當時には、北米は更なり、南米にも蕃殖し居たりし者なり、頭髮黑く、皮膚は、赤銅色を帶び、容貌稍、蒙古人に似たり、性質、粗野にして、暴動輕挑なり、此人種は、我北海道のアイヌ人の如く、年々減少せり、又、北方寒地にエキスモーと稱する土人あり、頗、蒙古人種に似て、身體甚だ矮少なり、居常雪を以て家を造り、獸類を捕へて、肉を食ひ皮を著、骨を以て器具を製せり。

圖解　亞米利加土人は、圖の如く、馬に跨り矢を負ひ、獸獵に出づる者にして、頭につけたるは、鳥毛にして飾とせるものなり、家屋風俗の粗野なることは、圖に就きて知るを得べし。

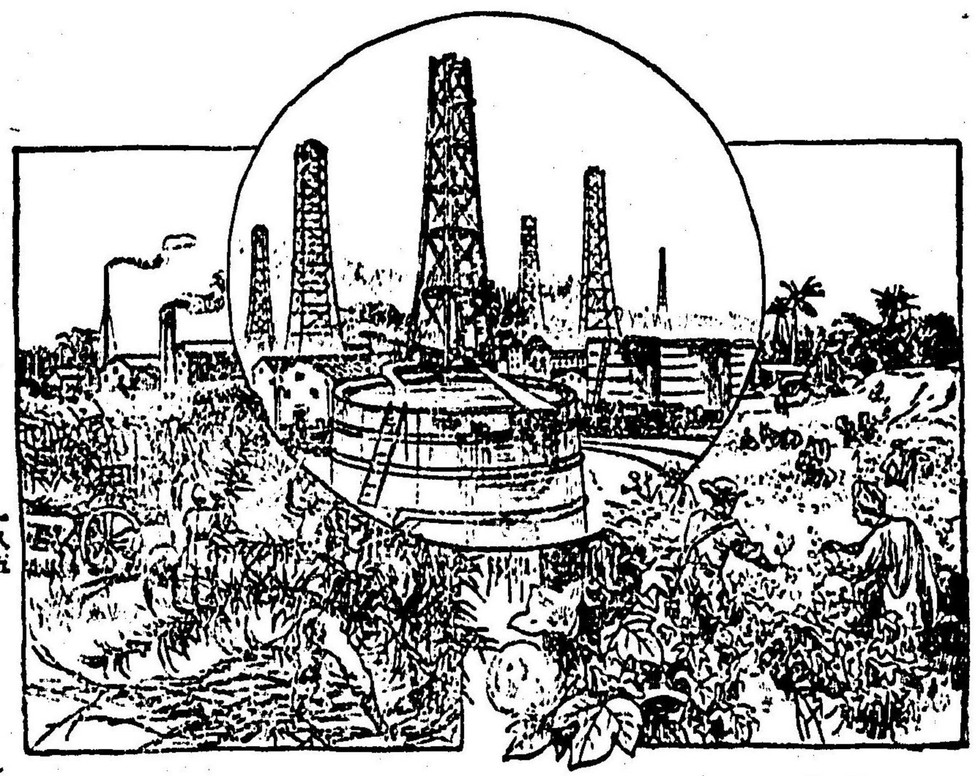
バンクーバは創立日猶淺く、僅に十數年に過ぎざれども、加奈陀鐵道の發著點に當り、且は東洋定期船の碇泊地なるを以て、市街俄かに繁盛を致し、將來益〻有望の地たり、又加奈陀地方の產物の東洋、南洋に貿易する者、多くは此港よりするを以て、貿易上最も緊要の港となれり、我國よりは、特に領事を此地に置かる。

第三十四課　合衆國

注意　合衆國と我國とは、歷史上の關係より、貿易の盛なること、この國を以て第一とす、且合衆國は、天賦の沃野にして、富源の未だ開かれざる者夥多なれば、道利少なからず、我國人の如き、奮て此地に出稼する者あり、これ國家經濟に重大の利益を生ずる者なれば、之を奬勵するを可とす、これ特に本課の地理を詳說する所以なり。

合衆國は、カナダの南にある、長方形の大國にして、西の方太平洋を隔てゝ、遙に我日本と相對す。海岸は屈曲少く、僅に東南に、フロリダ半島の突出するのみ。

氣候は、概ね溫和にして、地味肥え、農業盛に行はれて、棉・甘蔗・小麥・玉蜀黍・葡萄等の產額夥し、鑛物も亦

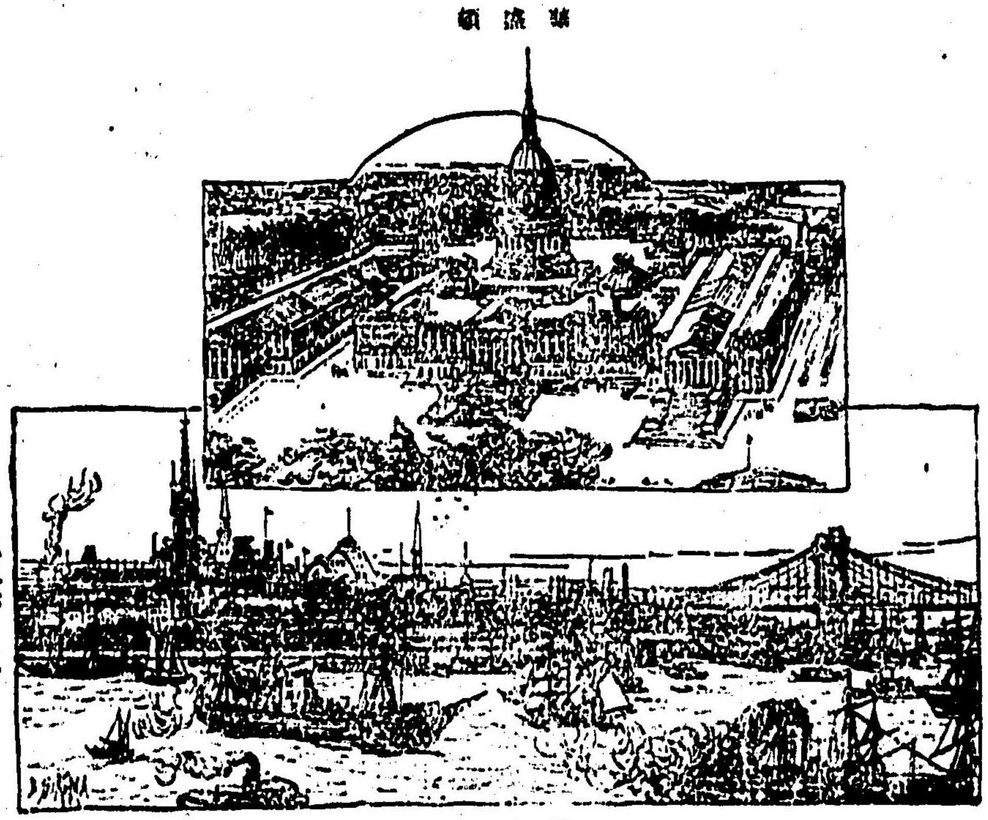


重なる富源にして、金・鐵・石炭・石油の豐なること、世界無比と稱せらる。

此國は、もと英國の殖民地なりしが、百餘年前に獨立して、十三州より成る、聯邦共和國を組織せり、爾後、文化大に開け、國力增進して、今は、四十五州より成る富強の國となれり。德川幕府の末年、西洋諸國に率先して、我と條約を結びし以來、國交極て親密にして、貿易日に盛なり。我國よりは、生絲・茶・絹類・花筵・米・陶器等を輸出し、棉・石油・煙草・麥粉・鐵類等と交易す。

バンクーバーより、南に進めば、桑港（サンフランシスコ）に到る、此港は、東洋貿易の大市場にて、我國との交通頻繁なり。是より汽車に乘り、シカゴ府を經て、東岸に出づれば、紐育（ニューヨーク）府に到る、府はハドソン河口に跨り、股賑なる商業地にして、百貨輻湊し、貿易甚だ盛

なり。對岸のブルークリン市と、壯大なる鐵橋を以て連絡す。此南に、工業地として、有名なるピラデルヒアあり。更に西南に進めば、首府華盛頓（ワシントン）あり、市街廣濶壯麗にして、繁華なる都會なり。我公使館また



紐育

こゝにあり、是より南行して、墨西哥に入る。

參照　北米合衆國の北は、我千島の北端に、南は九州の南端に等しき緯度なるを以て、氣候も我國に似たらん筈なれども、東には寒流流れ、西には暖流流るゝを以て、東西兩岸に於て、頗る溫暖の度を異にす、又、中央部は、海水の感化及ばざるが上に、寒帶地方の風を遮ぎるべき山脈なきを以て、寒氣頗る強し、之を要するに、合衆國は土地廣大なるを以て、各地寒暖の度を異にすといへども、決して惡性の氣候といふべからず、實に然るのみならず、北米洲中に在りては、氣候溫和の國たるを失はず。

土地肥沃にして、農產の豐富なること、世界無比と稱せらる、特にミシシッピー河の大平原は、本國農產の主要地にして、大農盛に行はれ、北部よりは、小麥、玉蜀黍、燕麥の產多く、南方には、綿砂糖、煙草等の產に富む、就中、綿、小麥の輸出盛にして、全世界、棉花產額の六割餘を占め、小麥の輸出四

億圓に餘り、我國の綿も、多くは此地に仰ぎ、又近來盛に輸入するメリケン粉は、皆此地方の產なり。

鑛業、又盛にして、西部カリホルニヤ近傍の諸鑛山より、多く金銀を產出し、東海岸の山地よりは、無盡の鐵、石炭を產す、又、アレガニー山脈より產出する石油は、其額毎歲四千五百萬石に達し、盛に外國に輸出し、我國にて消費する石油の半は、皆この國より仰ぐ所なり。

合衆國の工業は、總べて最近の創設にかゝるといへども、原料の豐富なること、斯の如く、燃料の夥多なる、斯の如く、加ふに交通の自在なるを以て、製造業の盛なる、固より其所たり、されば綿布、毛布、絹布、及び鐵器の製造頗多く、其額二十五億圓に上るといふ、此勢にして進まば、先進國の英吉利さへ、一歩を讓らんも、近き將來にありといふべし。

此國と我國とは、最も親密なる國柄にて、我國を世界の交際場裏に紹介

したるも、實に此國なり、我國の鎖國主義を拋擲して、開國進取の國是を採らしめたるに、亦與て力あり、今や彼我の往來頻繁を加へ、學問に商業に、はた勞働に、此國に來りて住するもの甚だ多し、首府華盛頓には、我國の公使館ありて、新約克、桑港には領事館あり。

我國より此國に輸出する物は、生絲を第一とし、茶、米、陶器等之に次ぎ、我國に輸入する者は、石油、綿、時計等を主なる者とす、就中、石油の輸出は獨り我國のみならず、廣く各地に及び、彼大タンダート商會は、世界燈火の支配者なりと迄、もて囃さるゝに至れり。

此國は大都を以て稱すべき者、其數二十に達し、人口五萬以上のもの五十餘の多きに上れり、されと全國の人口は六千萬に過ぎずして、沃野の未だ開墾せられざるもの頗多きが故に、移住民は益〻多く、朝に村落をなし、夕に都市を建つるの勢あり、又、此國は四十五州の聯合よりなれる共

和國にして、各州各自議會を設けて、政務を執行し、各州連合して、更に中央政府を立て、大統領を選擧して、大權を委任せり。

太平洋岸バンクーバーの南に、シヤトル港あり、我郵船の碇泊所にして、大北鐵道の起點たり、されば、我國よりの旅客貨物を汽車に移して、米國大陸は勿論、歐洲各地に輸送し、又、大北鐵道にて來たれる旅客貨物を積みて、神戸、横濱に歸航するの便ありて、後來頗る有望の地たり。

更に南進すれば、桑港に達すべし、桑港は、太平洋岸の要港にして、麻に穀物、木材、鑛物を輸出す、人口は殆ど我京都と同じく、我との貿易上緊要なる港なり、我邦人の居留する者最も多く、常に三千人に超え、又、我領事館の設あり、是より中央太平鐵道にて、一直線に東に向へば、シカゴ府に達す、先年萬國博覽會を開設せられたるを以て有名なり、更に東進すれば、東海岸紐育府に到る、此府は北米第一の大都會にして、人口百五十餘萬

ハドソン河口にあり、前にロング島を控へて、風波を防ぎ、東は海路直に歐洲に航すべく、西は大鐵道により、西海岸に達すべき、四通五達の要路に當るを以て、船舶常に輻湊し、市街には、豪商大賈軒を並べ、百貨運搬繁るが如く、其隆盛倫敦に次げり。下圖に船舶、阜頭に林立する景況を寫せり、以て其盛況の一斑を想見すべし。

夫より西南に進めば、ヒラデルヒヤ府あり、人口百餘萬、國内第三の大都會なり、此府は合衆國獨立の際、各州の代議士が獨立を議決せし、彼有名なる獨立館の所在地なり。

更に西南に進めば、華盛頓府に達せん、これ當國の首府にして、初代の大統領の名を以て命じたるなり、國會議事堂、及び大統領の官宅等あり、我國公使館、又こゝにあり。

圖解　圖は華盛頓府中、國會議事堂の眞景を示す、長さ百二十間、幅五十

餘間、圖形の屋上には、銅像を安置せり、内には、コロンブスの略傳と、米國發見の圖畫とを彫刻したる銅扉、歴代大統領の石像を藏せり、此府はすべて議事堂を中心とし、東西に達する市街には、ABCの四字を以て起算し、南北に進ずる者をば1 2 3の數字を以て、起算したり。

議事堂の西北半里にして、白大理石にて築ける巨館あり、是れ大統領の官舍にして、所謂白館これなり。

第三十五課　墨西哥共和國・西印度

中央亞米利加

注意　本課にては、墨西哥共和國、幷に西印度諸島・中央亞米利加諸共和國の概略地理を說く者なり、殊にカリホルニヤの銀坑は、世界第一と稱せらる、近時ニカラガ運河開鑿の企あり、この運河開通の曉には、東西交通の便益開け、東洋貿易に至大の關係を及すは、火を睹るより明なり、海